
最高の人形師と人形遣いの才を持つ者は世界を廻る（タイトルは仮です）

Sun

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

最高の人形師と人形遣いの才を持つ者は世界を廻る（タイトルは仮です）

【Nコード】

N8134N

【作者名】

Sun

【あらすじ】

主人公は天才的な人形師だった。ある日主人公は邪神に殺され、さまざまな能力（おもに人形系統の技術）をもらい世界を廻る。

主人公設定（転生前）（前書き）

見なくても問題がないです。

主人公設定（転生前）

【名前】

更槻 さらき
更紗 さらさ

【容姿】

性別は男だが見た目は女で人形のように整った容姿でひとつの芸術のよう。

瞳は碧眼、髪は薄めの紫、髪型は基本アリス・マーガトロイドの髪型で多少髪を伸ばした感じ、

【能力（才能）】

- 1、 物作りA：物を創る才能。 もしも魔術などがある世界に生まれていてその方面で才能を発揮すれば宝具クラスのものを作れた。
- 2、 改造の才能A：改造する才能。 もしも魔術などがある世界に生まれていてその方面で才能を発揮すれば物を改造し宝具クラスのものを作れた。
- 3、 人形師EX：人形を作る才能。 たとえどの世界に生を受けてもその世界で最高の人形師になれるほどの才能。 またたとえ人形を作るために必要なものの適正がない場合でも人形を作る場合は無視できる。
- 4、 人形遣いEX：人形を遣う才能。 たとえどの世界に生を受けてもその世界で最高の人形遣いになれるほどの才能。 またたとえ人形を遣うために必要なものの適正がない場合でも人形を遣う場合は無視できる。

【備考】

昔から何かを知ると作ると壊するのがすきだった（壊すものに自分の作ったものだけは入らない）。

幼少からその容姿で人形みたいなこと言われ本人もその自覚があった。

10歳の時人形の展覧会を見に行きその時自分に似た人形を見て人形を作り始め13歳にはその筋では知らないものはいないと言われるほどになった。

人が苦手という訳ではないがあまり人と接するのは得意ではない。その容姿から男に襲われかけたことが多々あり男性は苦手であるためか作る人形は殆ど女性。

プロローグ

「どうも突然ですがここは邪神の神殿です」

「……………本当にいきなりですね」

「まあそう言わずに」

私は気がついたときにはよくわからない美しい神殿にいた。
そして私の前には美しい褐色の肌の少女がいた。

「で、あなたは？」

「神やら邪神やら天使やら悪魔を光と闇に分けたら闇の絶対神、あるいは悪魔や邪神の神と言ったところですね」

「……………なぜ私はここに？」

「私が殺したからです」

「……………理由を聞いても？」

「だってもつたいないんじゃないですか」

「もつたいないですか？」

「はい。あなたの人形師と人形遣いの才能はあらゆる世界でもトップの才能なのに貴方の世界には神秘も不思議も何もなし。だから色々な世界をトリップや転生してもらおうと思ひまして……………あと私の暇つぶしで」

後者が本命の気がしますね。

しかし私の趣味は人形作りと読書。読書は漫画なども含むのでそこからSSものも読む、そこから考えてこういうのは考えても無駄ですね。それに神秘とかは興味がありますし、

「分かりました」

「本当ですか！ ではテンプレのほしい能力を行ってください」

「本当にテンプレですね。いくつまでですか？」

「物で数が決まりますね。物によつては少なく、物によつては多い。言ってくれば私の方でその後無理かどうか言います」

「そうですね、まず型月の蒼崎橙子の人形師としての技術、ネギまのエヴァンジェリンの人形に関する技術、東方のアリス・マーガトロイドの人形に関する能力と技術、ローゼンメイデンの人形師・ローゼンの技術、NARUTOのサソリの傀儡の技術、泣空ヒツギの死者蘇生学の泣空ヒツギの技術と能力？ まあ魂を見るやつなど、アスラクラインの機巧化人間を作るために技術、そらのおとしもののダイダロスの技術」

「ふむ、人形系ですね」

「次に王の財宝。ああ別にギルガメッシュの財宝は入ってなくていいです。ただ得た技術をふるうために必要なもの（人形の材料など）と資金に宝石などを少々入れておいてください。それと別空間にある屋敷を、あと人や物を解析し見えないものを見る魔眼」

「うーん、王の財宝はギルガメッシュの財宝がないからそこまでではないんで問題ないですけど、ダイダロスの技術はきついんですね。なにか減らすかダイダロスの技術を劣化させます」

「・・・・・・では劣化させてください。というかそれだけなんですか？ 結構頼んだと思いますけど。」

「分かりました。まあ能力は普通なら無理なんですけどほとんど人形系なんであなたの才能なら問題ないんですよ。だってその世界に行つて人形作りをすればその領域にたどりつくか越えられますからね。

そうそう、おまけで各世界の魔術や魔法などの資質が行けば宿るようになっていますね。ただし資質は宿るが相性があるので最高ではその世界最高の才能ですけど最悪使えても使えないよりましクラス

になります。あと行った世界で同行させたいものがいたらその人物の許可があれば同行出来るようにしておきます。

あと世界の旅は転生かトリップは私が決めますけど死んだらいったんここに戻って次の世界です。

それと「本人と寸分違わぬ人形」は貰った能力も使用でき死んだ時点での能力などはすべて反映されて作った人形の身体に転生する形にします。なんであなたが死んでなくても他の世界に行きたくなつて私も同意したら他の世界に行きますので「本人と寸分違わぬ人形」で生きながらえていて飽きたら言うてください。こちらに呼びますから、

しかし死んだら戻るといっても寿命や病気、悪意のないあるいは悪意があっても貴方を対象とした事故等以外でつまり戦闘などで殺された場合はそのまま終わり、貴方は消えますのでお氣をつけて、もちろん「本人と寸分違わぬ人形」があれば別なんで殆ど大丈夫でしょうけど、

それにそんなに死にたくなければ吸血鬼などになってもらってもかまいませんがその場合次がトリップならそのままですけど転生ならいつでも好きな時にその状態になれます（なったら元が戻る類のもの以外は戻れない）けど生まれた種族です」

「分かりました」

「では、能力……まああなたは殆ど技術ですけどを与えます」

邪神が手をこちらに向けると身体が光に包まれた。

すると頭に激痛が走った。

「あ、あああああああああ！？」

「……あなたのは大半が技術だったんで脳に負担がかかります。あ、安心してください。脳の容量を無限にしておいたので問題ないです」

「……………こいつ絶対忘れてましたよ。」

「はぁ、はぁ、

……………あとは忘れていることはありませんよね？」

「はい！」

「は、早く続きを始めてください。あ、私は人形を作らないと戦えないので初めは原作とかのない平和な世界にしてください」

「あ、そうですね。」

はい。では」

また邪神が手をかざすと私の足元に穴があいた。

「あ」

あ？ あって言いましたか？

「次お会いできる日を心待ちにしていますよ」

そう言い残し私は穴に落ちて行った。

「……………どうしよ。」

あつ、死んだ時資質があつたのか直死の魔眼を宿してる。これを強化しておいてそれで許してもらおう。まあ脳の容量を無限に下から精神力とか関係なく死線と死点を見ても痛くもかゆくもないんだけど常に見えてても邪魔だしね。切り替えが出来るようにとか少々強化しておこう。

それにしてもこの才能豊富すぎませんか？ 人形以外にも適性を得たので行く世界によってはかなりの才能を授かりますよ。てか極

端ですね。才能のあるものは極めることが出来るほどの才能、それ以外は中堅のものにはあるけど他は無いよりもまし程度なんて」

主人公設定（11月10日修正）

【名前】

更紗

【容姿】

性別は男だが見た目は女で人形のように整った容姿でひとつの芸術のよう。

瞳は紫眼、髪は薄い紫、髪型はアリス・マーガトロイドが髪を伸ばした感じ、

【生まれ持つての才能】

1、物作りの才能A：物を作る才能。もしも魔術などがある世界に生まれていてその方面で才能を発揮すれば宝具クラスのものを作れた。

2、改造の才能A：改造する才能。もしも魔術などがある世界に生まれていてその方面で才能を発揮すれば物を改造し宝具クラスのものを作れた。

3、人形師EX：人形を作る才能。たとえどの世界でもその世界で最高の人形師になれるほどの才能。またたとえ人形を作るために必要なものの適正がない場合でも人形を作る場合は無視できる。

4、人形遣いEX：人形を遣う才能。たとえどの世界でもその世界で最高の人形遣いになれるほどの才能。またたとえ人形を遣うために必要なものの適正がない場合でも人形を遣う場合は無視できる。

【神からもらったもの】

1、 蒼崎橙子の人形師としての技術：神が微妙に強化した。強化内容は「本人と寸分違わぬ人」形で当然のこと神に貰った能力も使用でき死んだ時点での能力などはすべて反映される。ぶっちゃけ人形が活動すると言うより作った人形の身体に転生するが正しい。

2、 エヴァンジェリンの人形に関する技術、

3、 アリス・マーガトロイドの人形に関する能力と技術、

4、 人形師・ローゼンの技術、

5、 サソリの傀儡の技術、

6、 泣空ヒツギの技術と能力？

7、 機巧化人間を作るために技術

8、 ダイダロスの技術（劣化）：それのおとしもののダイダロスの技術だがさすがに強力すぎ他のものをへらさなければならぬので劣化させた状態でもらった。

9、 人形師の蔵：王の財宝に得た技術をふるうために必要なもの（人形の材料など）を入れた蔵。そのため人形の蔵と改名した（王の財宝はバビロニアの宝物庫とそれに繋がる鍵剣で持ち主の蔵と空間を繋げる能力を持つ。蔵も中身も所有者の財の量に準ずるため、何もない人が使っても何の意味がない。ギルガメッシュは生前自分の蔵に「宝具の原典」を含めた大量の財宝を収めており、王の財宝でそれらを空間を繋げて自在に取り出したり、射出することが出来る）。

10、 人形師の屋敷：人形師の屋敷：屋敷の鍵を回すと扉が現れ入ることが出来る（出るまでに数秒かかるため回避には使えない）。また屋敷の鍵をどこかの鍵穴に入れ鍵を開け（鍵は鍵に合わせて変化する。またそれが電子キーでも問題ない）ドアを開けると屋敷につながる。なお更紗が認めない限りけして第三者は入れない。屋敷は膨大な広さを誇り人形を作る工房などもある。屋敷は神の作り出した空間にあるが更紗が入る前にいた場所に合わせて昼夜などが変わり夜は星空が輝く。ただ出口は入ったところの半径100メートル

ル内のドアが事前に登録しておいたドア（登録限界は六つ）。ただし中のものは更紗の近くになら出せる（殆ど王の財宝が屋敷になつて特殊効果が増えただけ）。

1 1、 解析眼：人や物を解析し、見えないものを見る魔眼。

1 2、 適正：各世界での魔術や魔法などの資質が宿る。ただし資質は宿るが相性はあるので最高ではその世界最高の才能だが最悪使えても使えないよりましクラスになる。邪神がサービスでつけたものの。

1 3、 同行：行つた世界であつた人物を他の世界にも同行させた者が居れば相手が同意した場合同行させられる。ちまた不老になる

【能力^{スキル}（上記のもの以外や他の世界で会得したもの）】

1、 直死の魔眼：死んだことにより目覚めた力のため正確には神に貰つたものではないがサービスで強化されている。

2、 TYPE - MOON の魔術各種：蒼崎 青子と同じく破壊が得意（青子を天才とすると才能が多少ある程度だがこの比較だと普通の魔術師は無能）、また生来の才能から錬金術なども得意、また投影も出来、宝具もできるが士郎と違い魔力供給をやめると普通に消失する上維持にもそれ相応の魔力が必要。ただし真名開放が可能。

余談だが起源は「創造」「破壊」「探究」、青子と同じく燃費が良い（普通の魔術師の70倍ぐらい）。魔術回路はメイン97本サブがそれぞれ75本で魔力の回復も早い（一日で魔力容量の3分の2回復する）。ぶつちやけ化け物もびつくりの魔力容量、

3、 第三魔法「魂の物質化」「天の杯」^{〈ウンス・フィール〉}

4、 念能力：HUNTER×HUNTERの世界の念能力、オーラ量は少なく才能はかなりなく本人いわく発以外使いものにならない。また発もかなり制約をかけている（制約をかなり掛けているがあくまでそれは第三者から見たらで更紗には苦にならない）。特質系、

人形と共に（念能力の発）：自身の五感を人形に宿することが出来る。
制約：自身が作った人形でなければならぬ。五感を宿す人形とは念能力以外でつながっていないと出来ない（例：糸）。人形と同じ現象が疑似的に起きる（例・人形の腕が斬られると自身も腕を斬られた感覚と痛みが襲う）。

はつきり言って更紗が念能力以外で人形を操れるからこそその能力。
人形の医者靴（念能力の発）：破損した人形を治す靴を出す能力（最大三つ）で靴に入った人形は破損状態に拘わらず10時間で治る（10時間立たなければ出せない）。制約：自身が作った人形ではければならない。自身が治せる範囲でしか治せない。

【備考】

昔から何かを知ると作ると壊すのがすきだった（壊すものに自分の作ったものだけは入らない）。

幼少からその容姿で人形みたいなこと言われ本人もその自覚があった。

10歳の時人形の展覧会を見に行きその時自分に似た人形を見て人形を作り始め13歳にはその筋では知らないものはいないと言われるほどになった。

人が苦手という訳ではないがあまり人と接するのは得意ではない。その容姿から男に襲われかけたことが多々あり男性は苦手でそのためか作る人形は殆ど女性。

邪神からは生まれる世界を間違えた人間と呼ばれる。

邪神に殺されさまざまな世界を旅することになる。

邪神から能力をもらうが通常なら容量をオーバーするがほとんどが人形系の技術だったので生まれ持つての才能もありほとんど要望がなかった。

邪神曰く、人形に関してはあらゆる世界でトップの才能を持っている。

また得た技術は本来ならそれ相応の才能がなければ使えない代物だが生まれつきの才能が可能にしている。

ぶっちゃけ元々の才能だけで時間をかけて特殊な人形のある世界を複数旅すればチートになった。

アトラスの錬金術師と同じく「最強になる必要はない。最強であるものを作ればいいのだから」と考えている。

戦闘では基本的に自我のある人形、数字持ち（ナンバーズ）を後方支援したり、人形を操ったり、魔術などで遠距離で戦う。

直死の魔眼を持っているが接近戦が出来ないわけではないが得意ではないため接近戦あまりしない。したとしても基本人形を操り戦う。

ただし精神感応性金属（人の意思や思考に反応して形状を変える金属。泣空ヒツギの死者蘇生学で登場、泣空ヒツギの技術には必要不可欠の為人形師の蔵に入っていた）を遣い中距離から死線を斬ろうとしたりする。

系の技術を使って戯言シリーズの曲弦系の再現に成功している。

起源は「創造」と「破壊」と「探究」と世にも珍しい三つの起源をもつ。

TYPE - MOON 編 プロローグ（7月4日微変更）

どうも更紗です。

私が転生してこれで四つ目の世界ですがまだ全然飽きませんね。
ちなみに今いる世界は型月ことTYPE - MOONの世界です。

私はここでスワツティス家という魔術師の家に生まれた。

ちなみにフルネームはサラサ・スワツティスです。

この世界であつたことを話すとまずスワツティス家はかなりの名家らしいのですが私が4歳のときに両親は死んでしました。

その後私は5歳になると家の管理を作り出した人形に任せ時計塔に行つたのですが私は両親も言つていたのでありますが才能がすさまじく人形作りをしていることから蒼崎 橙子の再来と呼ばれました。

そして8歳の時三原色の「黄」の称号を得ました。

それにしても我ながらすさまじい才能ですね。前にHUNTER×HUNTERの世界に行つた時は殆ど才能がなかったんですけど、邪神が言つた通り差がありますね。私はHUNTER×HUNTERの念よりもTYPE - MOONの魔術の方が適性があつたということでしょうね。

しかし10歳の時歴代最年少で封印制定に指定され逃亡する羽目になりました。

まあ12歳の時いい加減逃げたり隠れるのが面倒になり交渉し封印指定を解除されるんですけど最年少で封印指定をされたと名が知れ渡ってしまいました。しかも「人形のお姫様」ドールプリンセスなんて呼ばれます。失礼な！ 私は男ですよ！

あ、交渉方法は大量の人形で時計塔を制圧してから対話の席に仕えてから交渉しました。そのおかげか私の払う代償は殆どなかったんですよね。ちなみに今13歳です。

そうそう魔術師として歓喜したのは邪神からもらった技術の中に魂に関するものがあつたのでその技術と人形を使い根元に至ろうとし魂の方から第三魔法『魂の物質化』『天の杯』^{〈ウンス・フイール〉}に到達しました。

まあこのことを知ってるのは宝石の爺と青の魔法使いだけですけど、青の魔法使いはいつかぎやふんと言わせます。なぜならこの世界での貞操を奪われました。

……自分の作った人形には押し倒されたり、魔法使いには襲われるわたしはどうすればいいのでしょうか？

ちなみに第二魔法はまだ使ってません。そのためまだ人間です。てか使うとスペアの身体である人形が不要になるんですよ。たぶん、

そうそうこの世界では原作介入するつもりですよ。前はあまりしませんでしたからね。

まあすでに介入したんですけど、

余談ですけど介入した内容は浅上藤乃です。

だって能力を封じるとか馬鹿らしいじゃないですかなんで痛覚を戻して引き取りました。

ついでに第四次も少しだけ介入しました誰も気づきませんでしたけど、

さらに余談ですけど封印指定が解除されたのはスワッティス家が名家なのも理由らしい。

じゃあ初めっから指定するなっつて話ですよ。

あれですか？ 子供だから舐められました？ ついでにスワッティス家の秘術を知ろうとも思っちゃたんですかね？

そうそう前に行った世界は初めが原作のない世界、この世界ではひたすら人形を作っていました。

次がローゼンメイデンの世界、この世界では殆ど傍観者でいたん

ですけど雪華結晶を見て私の人形に組み込もうと思い。作っていた人形の身体を与え私の仲間（更紗は自我、心のある人形は人形としても扱うがそれ以上としても扱う）にしました。その後は知りません一度接触しただけで他は人形作りでこもりました。

三つ目がまた原作のない世界、この世界は邪神曰く原作はあるらしいんですけど私は知りません。人形を作っていました

四つ目がHUNTER×HUNTERの世界、これは苦勞しました。だってスペアの身体を作れてるって言うてもキメラアントに食われたくはないですからね。

なんで邪神と交渉してグリードアイランドでのスペルカードの離脱でHUNTER×HUNTERから離脱出来るようにしてくれたんです。まあわたし以外にもHUNTER×HUNTERには大勢転生者がいたんですけどその転生者の皆さんはわたしみたいに邪神がとかではなく普通に気がついたらこの世界にてな感じみたいでしたね。その人たちはHUNTER×HUNTERの世界を楽しむ派とHUNTER×HUNTERの世界でせつかくの第二の人生なのだからHUNTER×HUNTERの世界とか関係なく生きる派と元の世界に帰る派で分かれてましたね。まあ帰る派の人は滑稽ですよ。まず容姿が違い、戸籍もないのに帰ってどうすると？ 家族だって信じてくれないでしょうし、最悪念の力なんて戻ったら使えなかったとしても一度宿したんだから、という理由で実験動物にされかねないですよ。戸籍どころか生まれた形跡すら無い。存在しない人間を殺したって罪にはならないでしょうし、まあ誰も信じないだろうからこれは無駄な心配ですね。

それに今この世界にきた身だから言えますけどスペルカードごときでは世界移動は無理です。ついでにその解に至ったら邪神が「正解」って言うてきましたから確実です。

まあHUNTER×HUNTERの世界の転生者さん達はみんな念の才能が豊富なのはうらやましかったですね。わたしは念の才能ゴミでしたから、ふふふ、そこの凡人の平均の半分程度下手した

ら半分以下なんて、

そうそうこれは一応原作介入しましたよ。

念の才能はゴミでもわたしには人形がありましたから蜘蛛の皆さんとクルタ滅ぼしたり（クルタ族の死体目当て）、原作主人公達のハンター試験に参加したり、天空競技場で金稼いだり（金は即宝石類に変えた）、クラピカから蜘蛛の人助けたり、グリードアイランド行ったりとそんな感じで介入しました。

とまあわたしのこの世界以前はこんな感じです。

・・・・・・・・私あまり介入してないですね。

ですがこの世界では介入します。邪神が令呪をくれたんで聖杯戦争には介入します。

TYPE・MOON編 プロローグ（7月4日微変更）（後書き）

次から少々過去編です。まあ一話か二話なんですけどそのあと本編に戻らず過去HUNTER×HUNTER編に脱線するかもしれません。

アンケートです。

とある理由から主人公のサーヴァントは三体です。
決定してるのがセイバー（ネロ）、キャスター（玉藻）です。なので最後の一体を募集です。よろしくお願いします。

人形設定（9月27日更新）（前書き）

増えれば更新します。

基本的には数字持ちだけです。

人形設定（9月27日更新）

タイプ α ：純粹な人形で人などの生き物を一切使っていないタイプ
タイプ β ：ほとんど人形だが一分人間（人型の生き物）の部分があるタイプ

タイプ γ ：戦闘ではなくほぼ完全に人形作りや家事などの補助の為に作られ戦闘は自衛程度しか出来ないタイプ（どのタイプの作りでもものでもこれに当てはまるものはこのタイプになる）

タイプ δ ：人間（人型の生き物）の死体などを核とし改造したタイプ（人形というよりも改造死体、また数が一番少ない）

タイプ ε ：上記のものにとらわれていないタイプの人形のタイプ（例：獣の一分が使われている。人型ですらない。人と人形どちらも核でなく割合が等しい）。

タイプ ζ ：更紗が操るために作られた一切の思考なども出来ず自動でも一切動けない（他のタイプは思考などなく常に自動で動けないものでも更紗が指示を出せばその通りに動く）普通の（作りなど色々普通ではないが）人形の中で更紗が戦うときに使う。人形よりも武器、兵器といった感じの人形、通称ウェポン・ドール、

・ドイツ数字を与えられているのは確固たる自我と心のある人形。それ以外は思考をすることが出来ても戦闘思考やきめられた役割をするための思考しかない。いうなら完成形の殆ど人間と変わらない自立人形（例外あり）。通称数字持ち（ナンバース）

・装備でなく特殊な能力を持った人形を能力持ち（ホルダー・ドール）と言う。

・上記のもの以外に作ったものの危険すぎるが故封印したロスト・ドールというものもある。

・数字持ちはそれのおとしもののエンジェロイドのように触ると柔らかなのに銃弾も効かない外装をしている（例外あり）。また傷も

エンジェロイドのように自動で治る（例外あり）

・上記の数字持ちの例外はフィーアは死体で人形ではなく虚動封身だから（数字持ちだから自我と心はある）、

数字持ち設定

【タイプ、名前、ナンバー】

タイプ：α

名前：イカロス

ナンバー：ヌール

【容姿】

それのおとしものイカロス

【能力、主な装備】

1、それのおとしもののイカロスの絶対防御圏「イージスegis」：
それのおとしものを完全に再現している。

2、永久追尾空対空弾「アルテミスArtemis」：それのおとしものを完全に再現している。

3、弓矢型最終兵器「アポロンAPOLLON」：それのおとしものを完全に再現している。

【備考】

それのおとしものを完全に再現している。再現してから自我、心を与えたことと可変ウィングの核の影響で普段はそれのおとしも

のイカロスみたいなのだが時折能力（可変ウィングの核も）を暴走させてしまったためイカロスの了承を取って今は機能を停止させて保管されている。

またロスト・ドールでもある。

【タイプ、名前、ナンバー】

タイプ：α

名前：水銀燈

ナンバー：アイン

【容姿】

ローゼンメイデンの水銀燈そのものただし人間サイズ、また翼は三対、普段は隠せる。

【能力、主な装備】

1、 黒い翼：黒い翼を操る能力。羽を弾丸の様に飛ばして相手を切り裂いたり、ダーツの様に狙った場所を突いたり、羽を対象に纏わりつかせて動きを封じたり、翼で自分の身を覆い防御をしたり、翼を龍に変貌させたり、翼や羽を青い炎に変えて燃やしたり、羽を集めて剣を召喚したりするなど。また変貌した龍は口から閃光や炎を放てる。ローゼンメイデンの水銀燈のものよりも強化されている。

2、 ドレイン：第三者の魔力などを吸収する能力（攻撃を吸収できるようなものではない）。

3、 絶対防御圏「^{イジス}ae g i s」：それのおとしもので出てくるイカロスの^{イジス}ae g i sただしダイダロスの技術が劣化しているため改

良はしているが原作のものよりも劣化している。

4、 パラダイスⅡソング：それのおとしもので出てくるニフの
パラダイスⅡソングただしダイダロスの技術が劣化しているため改
良はしているが原作のものよりも劣化している。

【備考】

能力持ち

ほとんどローゼンメイデンの水銀燈だが鞆で休むなどのことは必要ない。

nのフィールドに関してはnのフィールド、あるいは類似したものがあ
る世界では対応した力を得るがない世界では意味がない。

ローゼンメイデンの水銀燈の経験を持っている。

更紗には主や作り手というより友人や恋人のように接する。

【タイプ、名前、ナンバー】

タイプ：y

名前：リヴル・ブランシェ

ナンバー：ツヴァイ

【容姿】

死想図書館のリヴル・ブランシェのリヴル・ブランシェ似

【能力、主な装備】

1、 テレポート

2、絶対防御圏「a e g i s」改：そらのおとしもので出てくるイカロスのa e g i s^{イージス}ただしダイダロスの技術が劣化しているため改良はしているが原作のものよりも劣化しているが他のa e g i s^{イージス}よりは強力、

3、そらのおとしものの電子戦装備：そらのおとしもので出てくるニンフなどに装備されている装備でハッキングやジャミングが出来る。ただしダイダロスの技術が劣化しているため改良はしているが原作のものよりも劣化している。

【備考】

更紗を人形作りなどでサポートするために作られた。

人形作り（補佐）、ハッキング能力、家事に優れている。

戦闘はタイプ：δの中では高いが他と比べると平均より少々上程度で他の数字持ちとは天と地ほどの差がある。

電子戦装備は劣化しているがそれでもかなりの装備なので戸籍がない場合は戸籍を作ったりする。

仕事の大半は更紗の人形作りの補佐。

明確な自我があるにもかかわらず基本無表情で表情が乏しい。

数字持ちの中で唯一、更紗の言うことに殆ど完全に従いそれに喜びを感じる（そういう風には作られていないのでそういう性格に勝手になった）。

【タイプ、名前、ナンバー】

タイプ：β

名前：雪華綺薔薇

ナンバー：ドライ

【容姿】

顔は薔薇水晶と雪華綺晶と同じ、

瞳の色は金、髪は色は淡いピンクのようなクリーム色だが髪型は薔薇水晶と同じ、

右目に薔薇模様の眼帯をしている。

薔薇水晶と雪華綺晶とは違い人間サイズ、

髪飾りは紫水晶だが服は基本的にはその時々薔薇水晶と雪華綺晶のどちらか。

【能力、主な装備】

- 1、読心と幻覚：相手の心の隙につけこみ、幻覚を見せる事で相手の心を拘束し、昏睡状態にする事が可能。
- 2、白い茨：白い茨を生みだし自在に操る能力を持つ。ローゼンメイデンの雪華綺晶のものよりも強化されている。
- 3、水晶：地面から水晶の柱を出現させる、水晶の剣を召喚して攻撃する方法がある。更に水晶の礫を飛ばす、相手を結晶内に封じ込める。ローゼンメイデンの薔薇水晶のものよりも強化されている。
- 4、テレポート
- 5、パラダイスⅡソング：それのおとしもので出てくるニフのパラダイスⅡソング。
- 6、絶対防御圏「a e g i s」^{イージス}：それのおとしもので出てくるイカロスのa e g i s^{イージス}ただしダイダロスの技術が劣化しているため改良はしているが原作のものよりも劣化している。
- 7、歪曲の魔眼：型月の歪曲の魔眼と同じ。

【備考】

能力持ち、

ローゼンメイデンの雪華綺晶と薔薇水晶を合わせた感じ、
nのフィールドに関してはnのフィールド、あるいは類似したものがある世界では対応した力を得るがない世界では意味がない。

眼帯は魔眼封じ。

更紗の人形の中でも特殊な出来で、元々身体と簡易的な自我はあったがローゼンメイデンの世界に行った際に雪華綺晶と交渉して自分の仲間（自我のある人形（数字持ち）は人形としても扱うがそれ以上としても扱う）にあり旅に同行する代わりにこの身体を与えるといい交渉が成立したためローゼンメイデンの雪華綺晶と元々あった簡易的な自我が混ざった存在。

簡易的な自我が雪華綺晶と薔薇水晶をモデルに作られていたため問題はなくなじんだ。

更紗には主や作り手というより友人や恋人のように接する。

【タイプ、名前、ナンバー】

タイプ：δ

名前：リンダ

ナンバー：フィア

【容姿】

グイン・サーガのリンダ似

【能力】

1、 未来視（測定タイプ）：決定された未来を視る事のできる測定タイプの未来視の能力。ただし自覺的に発動が出来ず大半が自分、あるいは自分の周囲の行つて以上の危機に対して発動する。

2、 未来視（予測タイプ）：予測タイプの未来視の能力で言うなら高度な予測能力。周囲の状況から判断し、無意識に未来を予測演算する。最大は二日程度で未来になるほどずれが生じる。更紗に脳などを強化されているため5秒までなら決まった未来を見ることが出来る。また15秒までならほとんど決まった未来で相手が未来を見る能力を持つていてそれで変えようとしないうり覆らない（3秒までは未来を見るタイプの能力を持つ者の行動すら予測するため覆らない）。

3、 超振動光子剣「クリュサオルchrysaor」：そらのおとしもので出てくるアストレアのクリュサオルchrysaorただしダイダロスの技術が劣

化しているため改良はしているが原作のものよりも劣化している。

4、 最強の盾「イージスaegeisⅡ改」：そらのおとしもので出てくるアストレアのイージスaegeisⅡを改造したもの当然劣化している。

形は変わった手甲だが防御時は盾型のイージスaegeisを展開（ランスロツトのブレイズルミナスみたいな感じ）する。防御力は更紗の作ったイージスaegeis改と同じあるいは僅かに上。

5、 最速の翼「超加速型の翼」：そらのおとしものでアストレアの翼。ただしダイダロスの技術が劣化しているため改良はしているが原作のものよりも劣化している。

【備考】

更紗が作った初めとのタイプδにして数字持ち。

能力持ち（タイプδはほぼすべて能力持ち）

元々はその世界で未来視の能力を持っていた。

事故で死んだがその事故現場の近くにいた更紗が大量のアストラル・アーク櫛己態（簡

単に言う魂。泣空 ヒツギの能力には死んだ人間の魂を感知する類の能力がある。を感知し現場に行って死体を解析したところ能力があることが分かったため死体を回収して義装術式で虚動封身にした。

死体のため自然治癒がない。

その機能のほとんどを未来視の強化と肉体の強化に当てられていて。未来視の能力もあり接近戦では最強クラス。

更紗には主や作り手というより友人や恋人のように接する。

人形設定2（2月5日更新）（前書き）

増えれば更新します。

2には数字持ち以外で登場回数が多そうなものを載せることにしました。

ネタばれあり、

人形設定2（2月5日更新）

タイプ α ：純粋な人形で人などの生き物を一切使っていないタイプ
タイプ β ：ほとんど人形だが一分人間（人型の生き物）の部分があるタイプ

タイプ γ ：戦闘ではなくほぼ完全に人形作りや家事などの補助の為に作られ戦闘は自衛程度しか出来ないタイプ（どのタイプの作りでもものでもこれに当てはまるものはこのタイプになる）

タイプ δ ：人間（人型の生き物）の死体などを核とし改造したタイプ（人形というよりも改造死体、また数が一番少ない）

タイプ ε ：上記のものにとらわれていないタイプの人形のタイプ（例：獣の一分が使われている。人型ですらない。人と人形どちらも核でなく割合が等しい）。

タイプ ζ ：更紗が操るために作られた一切の思考なども出来ず自動でも一切動けない（他のタイプは思考などなく常に自動で動けないものでも更紗が指示を出せばその通りに動く）普通の（作りなど色々普通ではないが）人形の中で更紗が戦うときに使う。人形よりも武器、兵器といった感じの人形、通称ウェポン・ドール、

・ドイツ数字を与えられているのは確固たる自我と心のある人形。それ以外は思考をすることが出来ても戦闘思考やきめられた役割をするための思考しかない。いうなら完成形の殆ど人間と変わらない自立人形（例外あり）。通称数字持ち（ナンバーズ）、

・装備でなく特殊な能力を持った人形を能力持ち（ホルダー・ドール）と言う。

・上記のもの以外に作ったものの危険すぎるが故封印したロスト・ドールというものもある。

・数字持ちはそれのおとしもののエンジェロイドのように触ると柔らかなのに銃弾も効かない外装をしている（例外あり）。また傷も

エンジェロイドのように自動で治る（例外あり）

・上記の数字持ちの例外はフィアは死体で人形ではなく虚動封身だから（数字持ちだから自我と心はある）、

【タイプ、名前、ナンバー】

タイプ：α

名前：イカロス

ナンバー：ヌール

【容姿】

それのおとしものイカロス

【能力、主な装備】

1、それのおとしもののイカロスの絶対防御圏「aegis」：
それのおとしものを完全に再現している。

2、永久追尾空対空弾「Artemis」：アルテミスそれのおとしものを完全に再現している。

3、弓矢型最終兵器「APOLLON」：アポロンそれのおとしものを完全に再現している。

【備考】

それのおとしものを完全に再現している。再現してから自我、心を与えたことと可変ウィングの核の影響で普段はそれのおとしもののイカロスみたいなのだが時折能力（可変ウィングの核）を暴走

さえてしまったためイカロスの了承を取って今は機能を停止させて保管されている。

ロスト・ドール

【タイプ、名前】

タイプ： (IS型)

ジャッジメント

名前：judgment

【形】

待機時：特に特徴のない人型、僅かにそらのおとしもののイカロスの面影がある。

使用時：基本色は白と桃色で周囲に八つのビットが浮いており、背中には翼が生える。また目にはゴーグルを装備する。

【能力、武装】

4、絶対防御圏「イージスaeGIS」：そらのおとしもので出てくるイカロスのイージスaeGIS、原作のものをほぼ完全に再現している。

5、そ永久追尾空対空弾「アルテミスArtemis」：そらのおとしもので出てくるアルテミスArtemis、原作のものをほぼ完全に再現している。

6、弓矢型最終兵器「アポロンAPOLLON」：そらのおとしもので出てくるアポロンAPOLLON、原作のものをほぼ完全に再現している。

【備考】

元々は数字持ち（ナンバーズ）、ヌールのイカロスの暴走をどう

にかするために実験用に作られる予定だったが途中でIS型になった。

本来なら武装などを装備するところをすべてaegis、Artemis、APOLLONの為のものに回すことでほぼ完全再現を可能にした。

接近戦を度外視しているため、Artemisを防ぎながら近づかれaegisを破壊されたらもう何もできない（不可能に近い）。
八つのビットは四つがAPOLLONのサポートの為のものでありビットが破壊され減るたびにAPOLLONの威力が下がるが最低でも都市を消しさる威力を誇る。残りの四つはaegis、Artemisの補佐の為にある。

他にも手足についているものも僅かに補佐してはつきりって全体でaegis、Artemis、APOLLONの補佐の為にありと言っても良い。そのため防御は殆どaegisのみ、

APOLLONはエネルギー上の問題で24時間に一度しか打てない。また僅かに崩壊する。

ビット等以外の翼のように更紗に触れているものは大半が半ば同化しているのではがされたりすると苦痛を伴う。

一応ロスト・ドール（封じているのが一応APOLLONだけのため）

【タイプ、名前】

タイプ：δ

名前：クルタ

【容姿】

クラピカを女にし顔も女っぽくし髪を伸ばした感じ、

【能力】

- 1、強化系で肉体の強化×2と回復、
- 2、具現化系で刀と剣と弓の具現化、
- 3、放出系で単純に念の放出が出来る
- 4、「血」：自身の血を増加し自在に操る能力

【備考】

クルタ族のいい所を使用し出来た人形
元になった人間から受け継いだ発以外にも更紗が作りだした技法
で発現した「血」と言う能力を持つ。

HUNTER×HUNTERの世界では最高傑作、

【タイプ、名前】

タイプ：サラサδ
名前：サラサSarasa

【容姿】

主人公更紗と同じ、

【能力、装備】

- 1、異能の翼「CBETAia」スウェーフトアラ：背に現れる無数の小さい粒

子で構成された見た目は光で出来た一对の翼（上）。無数に分かれ再構成することで様々な形にすることが出来る。（能力（レジRegisterで登録した能力））

2、混沌の翼「Eclipse aia」：エクリプセアアラ背には現れる薄青紫色の一对の翼（中）。ステルス機能と自身にアクセスしてきた主のもの以外のものを防ぐ効果と逆に侵食しそれを支配する力がある。（装備が能力と混ざり変質、強化されたもの）

3、機械の翼「Artemis aia」：アルテミスアアラ背に現れる白い一对の機械の翼（下）。風切り羽が6のビットで出来ておりそれが半自動で敵を追い攻撃することが出来る（攻撃方法：突撃し切り裂く、突き刺さる、ビーム狙撃）。（装備）

4、「Imperator doll」：イムペラートルドール人形を自身の思考によって操れる（通常人形が人形を操る場合は更紗が人形を通して操るがこれは更紗なしで操れる）。（能力）

5、「Doll nodus」：ノードウス周囲の人形のスキルや能力などを一時的に得る。（能力）

6、「Register」：レジストル「Doll nodus」で得たスキルや能力などを12まで登録していつでも使用可能にする。（能力）

7、超振動光子双刀「Cectpy（クリュサオルシヨーストルイ）」：それのおとしもので出てくるアストレアのchrysarを刀にしたもの。ただしダイダロスの技術が劣化しているため改良はしているが原作のものよりも劣化している。また双刀で片方は短い。（装備）

8、守護領域「Sanctus」：サントゥスそれのおとしもので出てくるイカロスのaegisを改良したもの。ただしダイダロスの技術が劣化しているため改良はしているが原作のものよりも劣化している。スウェーフトアラCBEET aiaを粒子状にして散布しそれと合成すると防御力が^{イージス}ます。防御力は通常では更紗が作ったaegisより僅かに劣るが^{イージス}aegisと違い好きな形に展開出来る。（装備）

【備考】

思考は戦闘の際に必要な思考だけする。
戦闘用の思考はあるため独立して動ける。

やろうと思えば更紗はこの人形にも

意思を宿せるが男の際には性別の違いで手間がかかる。

「私の死体を、しかも女の私の死体を人形にしたものはどれほどのものになるんだろう」と言う疑問から作り出された最高傑作、

そのため3つ目の世界の更紗の肉体が使用されている（女）。

この人形によって更紗は人形になる資質も異常に高いことが証明された

TYPE・MOON編 第一話 浅神 藤乃との出会い（7月4日微変更）（前

ぐだぐだです。

ご都合主義です。

どうも更紗です。

時計塔にいたんですけど封印指定されたんで絶賛逃亡中です。

まあ逃亡自体は前々から指定されそうだったんで、と言うかいずれされることは分かってたんで逃走の用意をしておいたから問題ないんですけど、てか人形師の屋敷に引きこもれば問題ないですし、

まあそんなわけで逃亡中なんですけど今日本にいます。

日本はいいですね。

原作介入は第四次聖杯戦争にも介入しようかと思っただけで逃亡準備がありましたから少しだけ誰にもばれないようにある人物に接触しただけです。しかもその人物も気づいてません。

そういえば第四次聖杯戦争で死んじゃったケイネス・エルメロイ・アーチボルトが時計塔にいたときにからんできてウザかったからケイネスが作った、『ヴォールメン・ハイドラグラム月霊髓液』を一週間で再現したら顔を真っ赤にして面白かったですね。

まあそんな訳で逃亡で日本に来たついでに原作介入をしようと思いまして浅上 藤乃を……。いや、今は浅神 藤乃ですね。まあ彼女を自分の手元に置こうと思いまして、だってもつたいないでしょう？ 歪曲の魔眼なんてレアな能力を持つてるのに封じるなんて、まあレアって言うっても見るのは二回目なんですけどね。他の世界で、ですけどあったんで雪華綺薔薇に組み込みましたから、なんで私の手元に置いて育て上げようと思ったんで会いに来たんです。

「ここですか」

「はい、マスター」

浅神藤乃の居場所はリヴルに調べてもらいました。

「さてと、行きますか」

言って私は歩き出した。

さて歩きだして少しして私は胸糞が悪くなる光景を見えています。
それは目の前で女の子が子供にいじめられてます。

（度が過ぎますね。胸糞悪い）

一応言っておきますけど私は正義や道徳などは気にしません。初めて人を殺した時も元々壊すのが好きなせいかな何とも思いませんでしたし、けど目の前のは気に入れません。

（って、あれは浅神 藤乃ですよ。助けて案内を頼みましょう。それにしてもこの時にはもう能力は封じられてるはずなんですけどね。まあ迫害は無くなりませんか）

「子供達、やりすぎですよ」

私はいいながら子供たちのもとに歩いて行った。

「これ以上やるなら」

言っと私は子供たちの前の地面を切り裂いた。
方法は精神感応性金属を瞬時に伸ばし魔力で強化し振るっただけ、

私は戦闘センスは無いわけではないが高くは無いので人形を操らない戦闘の為に精神感応性金属の扱いを鍛えた。伸び縮みの速度を上げ、自在に操れるように訓練したのだ。

まあこの戦法と直死の魔眼かウェポン・ドールで大抵敵を殺せるんですよ。

あとは糸などの技術で再現した戯言シリーズの曲弦系で、
閑話休題。私が地面を切り裂くと子供たちは蜘蛛の子のように散って行った。

「立てますか？」

言っと私は手を差し出した。

「はい」

浅神 藤乃？ は私の手をつかむと立ち上がった。

私は魔術で傷を治した。

「！？」

「はい。これで怪我は治りました」

「……………あなたは？」

「私は人形師にして人形遣いで魔術師のサラサです。あなたは浅神藤乃ちゃんですか？」

「はい」

「あなたに会いに来ました。あなたのお父様ともお話がしたいので家まで案内していただけますか？」

私はその後浅神の家に案内してもらい交渉を始めた。

交渉は特に問題なく終わった。

元々浅神 藤乃の父親浅神の当主浅神 羽舟は浅神 藤乃の能力を封じようとしていたから能力を制御できるようにします。と言うと、人として扱う。制御以上のことは藤乃の了承をとる。という条件を渡されたけど一応OKが出ました。あとすでに浅上 康蔵が土地の利権欲しさに交渉していたけど、原作では事件を知ると蒼崎橙子に浅神 藤乃を止める。最悪の場合は殺害して欲しいと依頼したぐらいだからほしいのが浅神 藤乃だけと知ると問題になりませんでした。まあ私が浅神の借金+それ相応のお金を払うと言うと文句言ってきたけど黙らせました。浅神 羽舟が、

ただ浅神 羽舟に連れ行くなら娘の了承をとれと言われたけど、ちなみに拒否されたら連れては行きませんよ。その代わり払う金は借金の半額ですけど、まあ浅神 羽舟は浅上 康蔵に引き取られるぐらいなら私に引き取ってもらいたみたいなんで援護してくれるみたいです、たぶん、金と、娘にどちらがいいか考えたんですね。能力を引き上げることになっても人として扱われるなら制御出来た方がいいですし、

そんな訳で今浅神 藤乃と話しています。

「——と言うわけなんだけど、私に着いてくる？」

「・・・・・・藤乃は・・・・・・」

「まあいきなり言われても困るだろうけど、よく考えてね。もちろん、魔眼の訓練はするけど、人として扱うから安心してね。感覚も完全に戻るし、今日は帰るから明日までゆっくり考えて、君にとつて悔いのない選択を」

私はその日はそう言い残すといったん帰った。

次の日会いに行くと言神
藤乃は私に着いてくると決めたと言い。
私は連れ帰った。

TYPE・MOON編 第一話 浅神 藤乃との出会い（7月4日微変更）（後

今後の予定はあと1、2話でいったん過去HUNTER×HUNTER編（5～7話）になりTYPE・MOON編に戻って蒼崎橙子との会話などを2話ほどはさみ聖杯戦争の話になる予定です。

TYPE・MOON 編 第二話 ほとんど設定（前書き）

ぐだぐだです。

駄文です。

TYPE・MOON編 第二話 ほとんど設定

とある国のとある森の中に更紗の工房の一つがある。

今現在は嵐が起き、外が荒れている中工房の中で工房の主サラサは頂垂れていた。

「また失敗しました」

今サラサは自身の技術の応用でジャンプスクエアのエンバーミン
フランクンシュタイン
グの人造人間を作ろうとして失敗したところだ。

「はー。いくらオーバーテクノロジーのダイダロスの技術があり、他にもさまざまな技術があるって言っても本物をみたことする無いのに再現するのは無理でしたか」

目の前には実験に耐えられず崩壊した死体があった。

「ジャンプ呼んで唐突に思いついたんですね。前にも機巧童子ULTIMOの童子、屍姫の屍姫を作ろうとして失敗したんですね。まあ機巧童子ULTIMOの童子は作ろうとして使える機能が出来たのでそれはタイプⅢに応用したんですね。」

応用内容は言うなら劣化ICONで合体することです。まあ童子と
違ひまるでISのようになりますけど、
インフィニット・ストラトス

まあ理由は劣化ICONを作り、人形を纏えるようになったので改
良し発展させ作ってたらいつの間にか使用時のタイプくの何体かが
ちよつとそれどこのIS（待機時？は一応人型、ここは譲れない
らしい）ですか！？　ってな感じになってしまいましたし、そして
ISみたいと面白がつてやりすぎてしまいいつのまにかロスト・ド
ールが一体出来たんですよ。

ちよつどいいですからロスト・ドールの一体の能力を離しておきま
しょう。タイプはくで先ほど述べたとおり使うときはISのようにな
ります。

能力は飛行能力とそれのおとしもののイカロスの絶対防御圏「a
イジスegis」と永久追尾空対空弾「Artemis」、弓矢型最終兵
器「APOLLON」です。
アポロン

しかもaegisもArtemisもAPOLLONも殆ど劣化し
ていません。その理由はまあISに似たタイプくは、まあ面倒なの
でIS型タイプくと呼ぼう。IS型タイプくは使うときはISそつ
くりだからまあ武装もあるわけなんですがそれらがほぼすべてa
イジスegis、Artemis、APOLLONの為のものに回したから
です。
アルテミス

それのおとしもののイカロスは人型でaegis、Artemi
イジスs、APOLLONを使えた。イカロスを作ったのはダイダロス、
劣化しているとは言えダイダロスの技術を持っている以上ある程度
は再現できる。さらにそれを補佐するよう機器を作り出せば完全
再現も可能なんです。
アルテミ

まあエネルギーの関係でAPOLLONは一度使えば動かなくな
つちやうどころか少々崩壊しちゃうんですよ。
アポロン

崩壊理由は使用エネルギーが膨大すぎるので発生するエネルギー
の余波耐えられないんです。

まあ元々APOLLONはエネルギーの問題上使えなかつたんです

けど、持てる技術を合わせ魔力などの私が扱えるエネルギーを合成し一つのエネルギーにする動力機関を作ったから使えるようになったんですけど、それでも一回が限度、エネルギーはかなり尽きるから再度撃つには時間がかかりますし、魔力など供給できるんですけどあれほどの威力はきついですね。いつか可変ウィングの核並の動力機関を作りたいです。

まあ第三魔法を使えばいくらでも使えるんですけどそれには人形（もはや人形ではない）が耐えられないですよ。二度でほぼ崩壊、最悪放つと崩壊、三度目は良くて放つと同時に崩壊、最悪何もできず崩壊。ちなみに崩壊の時は私も消し飛びます。

いや、第三魔法を使えば魔力量にものを言わせて魔力で余波を防御すればいくらでも打てるようになるのでは？　とも思っんですけどね。

まあ国を消し飛ばせるアポロン^{アポロン}は一度使えばもう勝ち決定なんで問題ないんですけど、まあそのすさまじい威力の問題で二番目のロスト・ドールになったんですけど、

ちなみに名前は今はLast Judgment^{ジャッジメント}からJudgment^{ジャッジメント}です。

そのまま「Ikaro^{イカロス}s」にしなかったのはイカロスはもういるからです。

ロスト・ドール、数字持ち（ナンバーズ）、ヌールのイカロス、イカロスはまあ殆どそのおとしものイカロスなのですが出来る限りスペックを再現してから自我、心を与えたせいか、普段はそれのおとしもののイカロスみたいなんですけど時折能力を暴走させてしまっんです。そのためイカロスの了承を取って今は機能を停止させて保管しています。

私が普通にイカロスのスペックを再現できるようになればその問題も解決できるでしょう。

まあその時には「Judgment^{ジャッジメント}」もその名にふさわしい破壊力に出来ますね。今は名前負けですし、

いや、国を滅ぼせるからそうでもないのでしょうか？

そうそうロスト・ドール自体現時点で三体とすくないんですけど増やす予定は今のところありません。数字持ち（ナンバーズ）も最大で七体ぐらいまでしか作るつもりもありませんし、

……あれ？ ロスト・ドールの破壊力を考えれば多いのでしょうか？

話がずれましたね。てか一体って言ったのに二体の説明をしましたね。

閑話休題。

まあ私は今、新しい作り方の人形（人造人間（死体））を作ろうとして失敗しました。

まあ死体を動けるようするのは義装術式以外でもすでに多少は出来るのですが私は様々な方法も知りたいんです。

理由は私の作った目的、

一つは完璧な人形を作ること、

この完璧は自我がある、心があるではなく「死」をなくすこと、これは直死の魔眼を持つてるから思ったことです。理解が出来ないとかではなく、「死」の無い人形を作ること、まあこれは殆ど不可能なんですけどね。出来たら魔法の領域どころか神の領域ですね。

二つ目が神の雛型を作ること、これも不可能に近いですけどね。私を転生させた邪神は最高位世界のトップの二人の片方らしいので無理でしょうけど、下位世界、漫画などの世界の神なら出来ないこともないと思うんですよ。

まあこの目的のためには様々な方法があつたほうがいいんです。

「もう少し頑丈な肉体で試してみる？ いや、ここは妥協して義装術式も少し組み込んで作り出し検証し、そこから発展させてみますかね。」

「……一応頑丈なクルタ族の人間を使いましょう。クルタ族の死体はまだストックが三つほどあるはずでしたし」

言いながら私はクルタ族の人間の死体を取り出した。

「そついえば私まともな戦闘はHUNTER×HUNTERの世界
だけです。今のところ」

私はHUNTER×HUNTERで手に入れたクルタ族の人間の
死体を取り出しながらHUNTER×HUNTERの世界での出来
事を思い出した。

ちようどいいのでHUNTER×HUNTERの世界での出来事
を話そうと思います。

TYPE・MOON編 第二話 ほとんど設定（後書き）

次回からHUNTER×HUNTER編です。

HUNTER×HUNTERでは誰かヒロインが居たほうがよろしいでしょうか？

いたほうがよいなら本編を変えてTYPE・MOON編にも出すのですが、

HUNTER×HUNTER編 プロローグ

どうも更紗です。

HUNTER×HUNTERの世界にトリップして早3年、そうトリップなんです。先の三つの世界では転生だったのですが今回はトリップでした。

肉体年齢でいたい10歳程度、両親がいない。戸籍がない。

……まあトリップした当初思ったよりは楽でしたね。お金は前の世界で稼いだお金は宝石などに変えてましたから、

それにしてもHUNTER×HUNTER、ははは、キメラアントは最悪ですね。もう屋敷に引きこもりたいです。まあそこは邪神との交渉でグリードアイランドの離脱を使えば次の世界に送ってくれることになった。

………ついからですからクリアして三枚持っていきましょう。さて、話は変わりますけど、HUNTER×HUNTERと言ったら念能力ですね。なのに私念の量がしょぼいってどういうことですか？ この世界には私以外の転生者、まあ私みたいに邪神やらに送られたんではなくて自然発生？ したらいいんですけど、その人たちは平均を軽く上回るらしいんですよ。なんででしょうね？ まあ理由は聞きました。私はよくある転生したから魔力やらが多いなどではなくあくまでその世界の魔力なり、この世界では念ですがその適正と素質で才能が決まり、それに魔力などの量も決まりますから私には念の適性と素質がなかったということでしょう。まあ唯一の救いはあまりのへばさに憐れんだ邪神が念の使い方などを直接叩き込んでくれたことですね。

………憐れまれるほどないんですねort。

まあおかげで師匠を見つけたりする手間は省けました。……
・そもそもこの程度ではあきらめ得るように言われたり断られますね。……だから叩き込んでくれたのでしょうか？ まあ良いです。

さてこの三年間で私は裏の仕事をしてきました。

内容は主に暗殺と情報収集、私は遠距離から人形を操れますから便利なんですよね。

そうそう私の発ですが制約を掛けまくって二つです。

一つ目は「人形と共に」です。効果は自身の五感を人形に宿すことが出来る。制約は自身が作った人形でなければならぬ。五感を宿す人形とは念能力以外でつながっていないとならない（例：糸）。人形と同じ現象が疑似的に起きる（例・人形の腕が斬られると自身も腕を斬られた感覚と痛みが襲う）です。まあ視界とかなら繋げるんですけどね。五感も繋げて損はないですから、これ結構制約きびしいんですよ。まず普通は念能力以外でつながっていても動かせませんし、自分で作ったものでなければなりませんし、人形が粉々にされると自分も粉々にされるような激痛が走りますし、

二つ目は「人形の医者靴」です。効果は破損した人形を治す靴を出す能力（最大2つ）で靴に入った人形は破損状態に拘わらず10時間で治る（10時間立たなければ出せない）。制約は自身が作った人形であればならぬ。自身が治せる範囲でしか治せない。靴に人形の7割、あるいは人形の材料を含めて7割入れなければならぬ。

まあこれなかなかですよ。手が離せない時でも治せますし、これ自体能力者の技術が必要ですから制約としては厳しいです。あつ、そうそうこの能力の最大の利点は治せるなら材料が必要ないってことないってことなんですよね。

そうそう、今は蜘蛛の皆さんと接触を取ろうとしてるところです。クルタ族の死体がいくつかほしいですからね。

HUNTER×HUNTER編 第一話 蜘蛛との接触（前書き）

団長が交渉に了承したのはご都合主義です。本当ならそう簡単にはいかないと思います。

HUNTER×HUNTE 編 第一話 蜘蛛との接触

さて眼の前に蜘蛛の拠点があります。

とりあえずこの前殺した死体を義装術式で動けるようにしたのを送ろう、自動では動けないけど。いきなり殺し合いとかは嫌だし、

「ハジメマシテ、クモノミナサン」

うーん、やつぱし出来が悪いと聞きとりにくい話し方ですね。あ、そうそう元が死体のものでも私は私が作り上げたものは人形と認識するので念能力は聞きます。

はー、本当はネ、ネルトピトー？ とりあえずピトーみたいな能力がほしかったです。

「・・・・・・・・誰だ？」

当然皆さん警戒しますね。

まあいきなり壊されなかっただけましですね。

「コノタビハ、ショウショウオネガイガアリキマシタ」

「・・・・・・・・俺は誰かと聞いたんだ」

「アア、コレハゴシツレイヲ、ワタシハサラサットイッテモワカリマセンヨネ。サツリクニンギョウトイエバワカリマスカ？」

え？ 人形を入れるのは能力を予想されるから愚かだった？ 分かってます。他に思いつかなかったんです。

「…………暗殺と殺し、情報収集をしてるやつだね。特に暗殺と殺しは凄腕」

「…………聞いたことはあるね」

あ、知ってたんだ。意外と有名？

「ホントウハ、オネガイゴトガアルイジヨウ、ホンタイデムカナクテハナラナイノデシヨウケド、ワタシトテ、イキナリコロサレタクハアリマセンカラゴリヨウシャヲ」

「……………用件は？」

聞いてくれるの！？ 以外です。

余談だがクロロが話を聞く理由はちゃんとある。

更紗はある程度強い相手だと数字持ち（ナンバーズ）の実戦相手にしたり、それ相応の人形で相手をするためあまり苦戦しなかったが更紗が殺した人間の中には蜘蛛でも警戒するクラスの人間が何人居たため当然殺戮人形も警戒している。それがお願いと言っている以上は敵対するにしてもいきなり敵対することはないと思っているからだ。

つまり更紗は自分ではそこまで有名でないと思っているが殺戮人形は更紗が思っている以上に有名なのだ。

「ヨウケンハ、トモニクルタゾクヲホロボシテホシイノデス」

「！？」

まあちゃんとクルタ族を滅ぼす時期に来たわけだし驚くよね。

「ドウデシヨウカ？　ゴケント——」

話している途中で人形が押しつぶされた。

「……やってくれますね。ウボオーでしたっけ？　いきなりつぶしてくれるとは、まあいいでしょう。一応想定範囲内です。わざわざ出来の悪いのを選んでこのために改良はしましたけど」

起きたことは簡単だ。ウボオーギンが力づくで人形をつぶしたのだ。

「さて、交渉を続けましょうか」

「団長！　こんな奴の話聞く必要ないだろ！　殺せばいいんだからよ！」

「ゾレハヒドイデズネ。ハナシグライザイゴマデギイデモイイデシヨウニ」

『！？』

人形がしゃべると同時に人形から黒い塊が大量に出てきた。

出てきたのは精神感応性金属だ。

この人形は必要最低限以外の臓器などはすべて取り外し出来たスペースには大量の精神感応性金属が入っている。

ちなみに現在死体を操っている方法も糸だがそれは精神感応性金属を糸状にして使用している。

人形から飛び出した精神感応性金属は素早くウボオーギンを拘束し、口の中に一本の糸状になり入り込み、目突きさせる状態で止まった。

「アナダハ、ガンジョウデズシ、チガラジマンデズケド、ガンギユウヤナガモガンジョウデズカ？」

その言葉にウボオーギンは引きちぎろうとしていた動きが止まった。

「さて、皆さん。私は敵対するつもりはありません。手を組みませんか？」

更紗は姿を現した。

「改めまして、蜘蛛の皆さん。私が殺戮人形の本体。更紗と申します。以後お見知りおきを」

更紗は恭しくお辞儀をした。

しかし蜘蛛のメンバーは啞然としていた。

自分たちでも警戒するクラスの人間が見た目10歳程度の子供なのだから、

「ああ、一応申しておきますけどこれが本体です。まあ10歳程度の男の子では驚きになると思いますけど」

また蜘蛛のメンバーは啞然とした。
なぜなら更紗の見た目は人形のように整った顔立ちをした少女なのだから、

「・・・・・・・・一つ聞きたい」

「何でしょう？」

「クルタ族ならお前一人で滅ぼせるんじゃないのか？」

「ええ、可能です。しかし私がほしいのは目だけでなくクルタ族の綺麗な死体を5、6体、あまり傷をつけずに倒すのはいささか面倒です。そこで噂で蜘蛛がクルタを狙うとか言うのを聞きまして、これが嘘でも緋の目には興味がありでしょうから持ちかければ共闘ぐらいは出来るのでは？　と思ってきたのです」

「・・・・・・・・こちらの利は？」

「報酬を払いましょう。6体死体をもらうとして緋の目の価格分は出しましょう」

「いいだろう」

『団長！？』

「ありがとうございます。あ、そうだ。何か仕事があれば暇なときでしたら報酬を出していただければ手伝いますのでご連絡を、それと実行日はそちらに任せます」

この後クルタまでにくつか仕事を手伝ってわりと打ち解けた。
さて次はクルタですね。案外てか、確実に転生者は居ますよね。
立ち向かってくるか逃げるか、

・・・・・・・・逃げるなら逃がしましょう。立ち向かってくるなら
実験台にしましょう。転生者の死体は特別かどうか気になりますし
ね。

HUNTER×HUNTER編 第二話 クルタ虐殺（前書き）

どうも三連休中に熱を出し、下がってもいないのに連休明けに学校に通い続け今も熱があるため更新が遅れました。

そのためどこかおかしいかもしれませんがおかしかった場合は熱が下がり次第修正します。

HUNTER×HUNTER編 第二話 クルタ虐殺

今現在はクルタ族の集落の近くにいます。ついにクルタ狩りです。

「相変わらずなんだよその仮面」

「だから私は普通に街を歩きたいので一応です」

そう、今私は仮面をつけてます。

正確には蜘蛛の皆さんとの仕事の時は、

理由は蜘蛛の一員に数えられて、賞金首になりたくありませんから蜘蛛の皆さんと仕事をするときは普段からつけてます。今回は転生者対策も含まれます。

「はじめるぞ」

クロロが言うのと皆それぞれ散り行動を開始します。

さて、私も自分の分を確保して手伝わなければいけないので動く
としますか、

「舞え、私の人形達」

現在はクルタ族の人間に囲まれています。

今回の戦闘では数字持ちの出番はありません。見られると困りますから、転生者に、そのため普通にタイプαの人形を操ってます。

それにしても思ってたよりは――

「弱いですね」

そう、思ってたよりも弱い、
いや――

「過剰すぎましたか」

そう、弱いのではない。

第三者から見れば当たり前だろう。私が警戒しすぎたから落差で弱く感じるだけだ。

今、私を囲んでいるのは18名、対して私の操っている人形は50、対してクルタ族の人間は発以外の念能力は大したものだろう。それでも強者にはあてはまってもそこまで強いわけではないが、そこらの人間では相手にならない。しかし私の人形は違う。少々手間をかけたものだし、

今回使用しているのは大まかに三種類。

まずタイプαでネギまのチャチャゼロのような奴（殆どひと回り大きいだけ）が20に東方のアリスの使うような奴が20、タイプδのこの世界で殺した念能力者の虚動封身が5、人傀儡が5、虚動封身は肉体をいじり強化しているうえにそのものの念でさらに強化させている（発は使えなかった）。

チャチャゼロのような奴、ネギまシリーズ（仮）は魔力で強化している。魔力で強化出来る理由は邪神の言う私のたとえ人形を遣うために必要なものの適正がない場合でも人形を遣う場合は無視できる人形遣いの才能のおかげかエヴァンジェリンの人形に関する技術のおかげかはたまた両方かは分からないが私は人形に関して限定で魔力を使用できる。

さらに東方シリーズ（仮）はネギまシリーズ（仮）よりも使用している材質がもういから神字も刻んでいる。

武器も特別なもの（私以外から見れば）を使用している。

本当に過剰戦力だ。一体で並の念能力者以上の戦闘能力を宿している。しかも破壊されると爆発するためうかつに破壊できない。人形に関しては仕方がない。他の人間の手に渡ると困る。売ったりする人形はまた別物なのだ。

（もう少し、他者を警戒して訓練してれば違ったんでしょね。戦闘民族でしたっけ？　SSでもクルタに転生してもう少し他者を警戒するべきと進言しても却下されたのがあったような）

そうしていれば発もまともに、今のところはいても――

「はああ！」

今女の人が念能力で作ったと思われる剣を、死体を回収するために近くにいた私に振りかぶってきたのですけど、

「その気持ち悪いのを私に見せないでください」

私が腕を一閃すると女性の持っていた剣はばらばらになり消えた。

「なっ！？」

「はい。さようなら」

また一閃し首を切り落とし、そのまま人形師の蔵に放り込んだ。私が念を簡単に消せた、殺せたのは死が多かったから、念は能力者の力量で死の量が変わるらしい。無くなりはないが、下手な奴は死体よりもひどい。

けどあまり直死の魔眼は使いたくないですね。頭痛がしたりはしないけど見ていて気分が良くなるものじゃないですからね。死

線も死点も、

ちなみに斬るのに使ったのは糸です。糸が指と繋がっていれば問題ないんです。まあ直死の魔眼と糸だけだと普通に式と志貴と互角か以下だろう。

・・・たぶん以下、

まあ何にしる――

「これで六体目」

後は殺すだけですな。

人形を操り、人形の持っている剣で、槍で、鉈で頭部を傷つけぬようにクルタ族を殺す。

周囲にいたクルタ族はすでに残り6名、対して残っている人形は40体、しかもまだまだ補充しようと思えば補充できる。

「これで終わり」

言うとは人形ではなく周囲に張り巡らせた糸で戯言の人識を同じ殺しの曲弦糸でこ――

「!?!」

糸が引きちぎられた。

「貴様ら」

距離をとりながら見るとそこには屈強な男が一人立っていた。

（この男強いですね。魔力で強化していないとはいえ糸を引きちぎった）

「貴様ら、よくも」

(ん?)

よく見ると男の手は血で濡れていた。

(まあ当然ですか、遅れた理由は原作では出てこなかった蜘蛛の4か8を殺したからでしょうか?)

そう、今の蜘蛛には原作にいなかったメンバーが居たのだ。

「!」

そんなことを考えていると男がこちらに突っ込んできた。

瞬時に人形を操り迎撃するが、

「邪魔だ!」

男の拳で破壊された。

更紗は距離をとると解析眼を使った。

解析眼は人に使うとその人物の肉体の状態や、魔法などがあれば適性はあるかなどが分かる。念は系統までは分かるのだ。

(強化系ですか。ウボォーよりは弱いでしょうね)

更紗はタイプδ以外の人形すべてを回収し、新しいタイプαを一体だした。

その人形は茶々丸のような姿で一本の剣を持っている。

その人形を出すと同時に傀儡2体と虚動封身3体を向かわせた。

片方の傀儡の右の手のひらから刃物が出てきてロケットパンチのように手が飛び（ワイヤーでつながっている）男に向かっていった。しかし男は避けると手をつかみ人形を引き寄せた。

更紗は人形（傀儡）の右腕を切り離し勢いを利用し男に接近した際に左の腕からでた刃物を振りおろさせるが、男は右腕で防いだ。

「甘い」

男は後ろにいた人形（傀儡）の口から飛び出してきた武器を左腕で防いだ。

更紗は戦闘中に一体後ろに回り込ませていたんだ。

男は蹴りで前にいる人形（傀儡）を破壊しようとするが――

「甘い」

人形（傀儡）の口から刃物が飛び出した。

それを男は頭を動かすことでかわし蹴りで人形（傀儡）の腹部を破壊するが後ろの人形（傀儡）の四肢が外れ浮かび男に飛んで行った。

男は今まで通り防ごうとしたが、

「なっ」

刃物は男の四肢に傷をつけた。

理由は簡単、使われていたのは人傀儡、使われていた人傀儡は元々は念能力者だった。つまり念が使える。攻撃する時に今まで使っていなかった念を使い強化したのだ。

それでも突き刺さらなかったのは男の力量だろう。

しかしそこに人形（虚動封身）の三体が武器を持ち飛びかかってきた。

「む」

男はその場から離れようとしたが、

「無駄ですよ」

人形（人傀儡）の胴が開き大量の黒い糸が飛び出し男の退路を壁となりふさいだ。

男は糸の壁を殴ったがひびは入ったが壊れなかったため人形を破壊することにし、初めに飛びかかってきた人形（虚動封身）を拳で破壊し、次のも破壊したが最後の人形（虚動封身）も拳で胴を貫いて破壊したが破壊すると同時に壁が崩れ人形が飛び出し剣で斬りつけてきた。

男は振り向き人形を見た瞬間寒気がし離れようとしたが地面を転がっている人形から糸が出て下半身を振り向いた時点で固定されていて動けなかったため硬で腕にオーラを集め防御しようとしたが――

「終わりです」

男は一瞬防いだがゆっくりとだが刃は進み腕ごと首を切り落とされた。

人形の持っていた剣はただの剣ではなく数字持ちのリンダが持っている超振動光子剣「クリュサオルchrysaor」を作る過程で出来た試作型の超振動光子剣「クリュサオルchrysaor」なのだ。

まあ簡単に男の防御力では試作型超振動光子剣「クリュサオルchrysaor」を防げなかったただけだ。

「これで、終わりかな？」

あたりを見合すともう生きている人間は居なかった。
男と戦っている間に逃げたのだろう。たぶん蜘蛛に殺されたと思
うが、

「この男は貰っておきましょう」

その後男を収納し、蜘蛛のメンバーと合流して約束の分以外のク
ルタ族を渡し、騒いだ後（私は騒がなかったけど）解散した。

ちなみに死んだのは4番だったらしい、

転生者はどうなったか、本当に居たのかは分かりませんでしたね。
まあ居たらクラピカと一緒に居て助かったでしょうけど、ぱつと
見クラピカの死体はありませんでしたし、

そうそう、蜘蛛がほしかったのは目だけだったらしく身体には興
味がないらしいのでクルタ族の死体の良い個所は貰った。

虚動封身は別々の死体を繋げてても出来ますしね。優れた個所同士
を繋ぎ優れた虚動封身を生みだすこともできる。それこそが泣空の
死者蘇生学「義縫忌術」、

同じ一族なら繋げる際の調整も楽でしょうし、

ふゝ、金も稼ぎましたし、ほしかったクルタ族も手に入れた。人
形は今は新しく作りたいのが思いつかない。今作れる人形は充実し
てる。

………何か良い暇つぶしはありませんかね。

余談だがクルタの事件は原作よりも悲惨の状態になった。
瞳だけでなく身体の一部が無い死体まであるのだから。

ぐだぐだです。

今まで書いた中で一番長いです。

なのに一度に書くのは短かったためおかしい部分があるかもしれません。

さてクルタの虐殺から時が経ちついに原作開始のハンター試験が始まります。

クルタの虐殺からこの日まで私は主にクルタ族の死体を弄くり、人形を作り、人形を弄くり、天上競技場で金を稼ぎ、虐殺人形として仕事をし、幻影旅団と共に仕事をしていた。

（やっぱし原作には関わりたいですからね。正確には関わりたいと言っより——壊したい。でしょうか？）

そんなことを思い、原作を壊すのはどうだろう？　と思っただが昔から人形、何かを作るのと同じくらい知ると壊すのが好きだったししょうがないかと自己完結した。

（まあ蜘蛛のメンバーとは親しくなったからクラピカを殺すのはだいぶ前に確定しているから壊すのも確定しているし今更悩むことでもないですね。私がクラピカを殺すのは簡単だし）

クラピカは私と違い才能があるだろう、それでも人形を使えば普通に殺せるだろうし糸を使えば私の方が優位、そもそも私はクラピカのなんて言いましたっけ？　名前は忘れましたが拘束する鎖を使わせれば勝てる。あれはたしか蜘蛛以外に使ったら死ぬはず、私がクルタ虐殺に参加していると聞けば使うでしょう。使えば私はクルタ虐殺に参加していても蜘蛛では無いから死ぬ、

そうそう蜘蛛で一番親しいのはマチとシズクです。

親しくなった理由はマチは糸（念糸）を使うのでよく一緒に仕事をしたから、シズクはシズクが蜘蛛に入る前に一人で仕事をしているときに私のターゲット（複数）がシズクと戦闘していてピンチの所を助けて蜘蛛に入れたから、なんでしょうこのご都合主義、

え？　そこを詳しくやれって？　言っただじゃないですか HUNT
ER×HUNTER 編は飛び飛びで手早く終わらせるって、

・・・・・・あれ？　変な電波が、

まあとにかくハンター試験が始まりますので参加しようと思いません。

原作だと分かった理由はヒソカです。ヒソカが二回目なんです。ヒソカとは一度戦いました。何ですかあの戦闘の天才。直死の魔眼を使えば隠を凝をしなくても死線と死点共々普通に見れるから「伸縮自在の愛」も「薄っぺらな嘘」も普通に見やぶれたのに仕事の際に使うお気に入りの人形は中破状態にされるしそれを覚悟で死点を突こうとしたらそのまま攻撃すれば首を落とせたのにいきなり距離を取るし、後日聞いてみると勘で危険だとおもったそうです。

しかも気に入られてしまいました。悲しいです。

そうだハンター試験にはマチとシズクにも参加してもらいましょう。参加してもらえば反応で誰が転生者かが分かりますし、

転生者と言えば面白いことになってますね。いくつかのグループに分かれています。

大まかには二つ、せっかくの新しい命なんだからこの世界で生きる派と帰る派、細かくすると生きる派には普通に生きる派と行為に原作を壊す原作ブレイク派、さらに原作を壊し不測の事態を起こさないための原作保守派、帰る派は殆どグリードアイランドを目的としているらしい、

これはネットで調べれば分かる。

セキュリティーは厳重でハッキングは難しいサイトだが前世を持つものなら簡単に入れるパスワードで出来た転生者の情報交換サイトがあるからだ。

ちなみに対立してるのはブレイク派と保守派ぐらい。普通に生きる派はブレイク派を少々警戒しているものの基本どこも気にしないし、帰る派に対してブレイク派、保守派は共に原作イベント後なら好きにしろって感じだし、帰る派は帰れば原作イベント後で良いみたいだし、まあグリードアイランドの入手手段に悩んでるらしいけど、

当然個人で行動するのも居るし分かるのはこういう派閥があると言っただけで敵対してる派閥がある以上情報があまり漏れない。まあブレイク派はブレイク派同士で殺し当りするけど、ブレイク派と言っても原作を守らないで壊そうとするものを便宜上そう言ってるだけだし、みんな個人か数人単位で動くでしょ、

派閥があると言った情報サイトも普通に生きる派と帰る派は純粹に情報交換目的と転生者たち、特にHUNTER×HUNTERを知らない転生者が困るだろうと、何らかの助けになるだろうと殆ど善意で作ったものだし、

まあどこ派とかそんなの関係なしに転生者が集まって出来た組織みたいなものもあるらしいけど、興味がないので詳しくは知らない。

(私は保守派は絶対に敵対するしブレイク派とも敵対するだろうな)

そんなことを考えながら二人に頼むために二人の元にロフストランドクラッチ(松葉杖みたいなもの、とあるの一方通行が使ってるのと似てる種類の杖)を使って向かった。

なんでも私の体はトリップでは転生し始める前の最初の体らしいです。さすがに親に貰った体を少しならともかく大がかりに改造するのは気が引けるんでこれを使ってます。

……平気で人を殺せる私に残った数少ない何かですね。こういうのをなんていうんでしょう？ 良心？ 少し違いますね。……そう言えばハンター試験に長距離マラソンがありましたけどどうでしょう、まあ手はありますね。

さて今日はハンター試験の開催日です。

二人には頼んだら簡単に了承されました。

「……………今度買い物を共にしてすべて奢らされることになりましたけど、

「ご注文は？」

「ステーキ定食」

「焼き方は？」

「弱火でじっくり」

「あいよ」

「お客さん奥の部屋へどうぞー」

ここまではシャルに情報聞いたから（有料）問題はなし、

「……………ふと思ったけどこれってたまたまステーキ定食を頼んで焼き方聞かれて弱火でじっくりって答えた人どうなるんだろう？
なくはないと思うんだよね。」

「……………記憶操作系の念を持つハンターが消すのかね。それとも事情を話してお引き取り？」

「まあいいや、私には関係ないし、

さて着きましたね。」

番号は395か、ここに来る前に多少の範囲を探ったけど主人公たちは見当たらなかった。つまり転生者がそれなりにいるということです。

「やつ」

「久しぶりですね。ヒソカ」

「そうだね」

「マチとシズクも待たせちゃいましたね」

「別に気にしちやいないよ」

「大丈夫」

私が三人と話始めると注目が集まった。

いや注目は降りた瞬間に集まってたけど、それは単純に容姿が整っていて杖をついた人間に対して、今は異質な空気を放ってるヒソカとそれと普通に話しているマチとシズクと話していることに足して、

（後は転生者だね。他とは違う意味の視線も感じるし）

そんなことを考えているとマチが耳打ちしてきた。

「（頼まれてたことだけど25人ぐらいだよ）」

「（そうですか）」

「（面倒だね。あんた以外の転生者はみんなオーラ量が多いからね）」

「（そうですね）」

そうそうマチとシズクは原作、転生のことなどを話しています。悩んだんですけどね。これを話したのは初めてですから、だって自分が物語に登場人物として出ているだなんて発狂ものですよ。

まあ二人は発狂するような精神ではなく起きたことは信じるタイプの人間なのでいろいろ見せてたら信じてくれまいした。

さて閑話休題、マチとシズクに豪く反応したのは25人ぐらいらしい。保守派、ブレイク派が大半だろう、中には一目主人公を見ようと思った他の派の人間もいるでしょうけど、

ん？ 主人公が来たみたいですね。

・・・すでにイレギュラーが入ってるのか、人数は4人内3人はクルタの人間ですね。4人ともこっちを見て驚いてます。

これで29人、けど中には反応をごまかせた者や、転生者ではないのに反応した者もいるのを考慮しないと、まあ一応29人で考えておきましょう。

ジリリリリリリリリ

うるさっ！つと試験官が来ましたね。どうやら始まるみたいです。どうでもいい話ですが新人漬しの人は私がヒソカと話し始めたら近づいていたのに逃げるように離れて行きました。

試験は始まったんですけど私とマチ、シズクは動いてません。二人とも私の足を見てます。まあ当然ですよ。

「マチ、シズク」

「なんだい？」

「ん？」

「これ持つて」

私は2人に手のひらサイズで頭にひもが付いてる人形を渡した。

「何これ？」

「私が進むために必要なんです」

「分かったよ」

「分かった」

二人は人形についてる紐で服に結びつけると走って行った。

一応多少はいじってるんで普通に歩いたり走ったり少しなら出来るんですけど全力で走るのは5分が限界ですし、しかもゆっくりでも長距離は無理ですし、少しで壊れちゃうんですよね。足が、そもそも戦闘でもしもの緊急回避用の意味で改造したんですし、

一応戦闘で杖が邪魔になるのを考えて改造したエルゴグリフクラッチ（とあるの一方通行が使ってるのと同じ種類の杖^{たぶん}）できたんですけど、

そう言えば初めて転生した時は今まで杖を使うのが当たり前だったからその感覚が染みついてて普通の赤ん坊よりも歩けるようになったのは遅かったですね。両親は不思議がってましたね。早熟な子供なのに歩くのだけがぎこちなかったですから、障害があるのでは？ と病院に連れていかれましたし、

そんなことを考えながら『人形と共に』にで視界を二人に渡した人形と繋げたんだが、

「——おえ、吐きそう」

二人がトップにでも出るつもりなのか高速で走っていたため人形が激しく揺れ、それに視界を宿してしまったためすさまじい吐き気に襲われた。

（宿すのはもう少ししてからにしよう）

さてマラソンは終わりました。

私ですか？ 私はあの後もう一度やるとある程度安定していたので飛行能力とテレポート、ステルス能力があるタイプαで何度かテレポートを繰り返して二人の上空に移動した。

この人形は、何気に性能が高いんですけど戦闘力は低すぎるんですよね。

ステルスも周囲のものごと姿を消せますけどあくまで視界をごまかせるだけですし、

マラソン長いですね。

今は草原を走ってます。

それにしても退屈でs――

「――・・・・・・・・よくわかりましたね」

私はいきなり飛んできたトランプをプレスレット状にして腕につけていた精神感応性金属を糸状にして弾き投げてきた相手に言った。いくら今マチとシズクと一緒に移動しているとはいえステルスは解いてないんですけどね。しかも一応絶してるんですけど、

私オーラ量はゴミですけど技術は一流ですよ。

・・・・・・・・考えるのをやめましょう。ヒソカですから勘か何か

でしょう。」

「勘だよ」

「……………やっぱり勘ですか、そもそも何やってるんですか？」

周囲の死体を見ながらヒソカに聞いた。

「試験官ごっこ」

「……………面白い人は居ましたか？」

「居たよ 今年は豊作だね」

「そうですか、ではまた」

「また」

私は糸状にして指の先から展開していた精神感応性金属を元のブレスレット状に戻して移動した。

「……………ヒソカの遊びに付き合わされた人は不幸ですね」

「まったくだね」

「本当に」

私は現在共に移動している二人に言った。二人も同感のようだ。それにしても試験官ごっこ、どうでもいいですけど転生者が何名か死にそうですね。

「第二次試験後半、あたしのメニューは寿司よ！」

さて先ほどのブタの丸焼で今度は寿司ですか、余談ですけど私がここに居るのにほぼ全員が驚いてましたね。まあ足が不自由な人間がこれたら驚きますね。これで転生者達は能力を移動系と違ってくれれば儲けものです。

そうそうヒソカの試験官^{ごっ}こで転生者が4人死んだようです。

（けど寿司って、修行が大変だったような）

「ご質問が」

「なによ？」

とりあえず質問することになりました。

「あなたは美食ハンターでしたよね？」

「そうよ」

「でしたら寿司がどのような料理であれ、あなたを満足させるのは難しいのでは？ 先ほどのように焼くだけでいいわけではないのでしょうか？ 寿司と言う料理を知っていてなおかつその料理を美食ハンターを満足させるレベルで作れる。料理は奥が深く物によっては何年も修行が必要と記憶しています。これが美食ハンターを目指している者限定の試験ならともかく、料理の修行を何年もして居なければ合格が難しい試験、これでは流石に試験として不適切では？」

「うっ、じゃ、じゃあちゃんと寿司の形をしていてそれなりに美味しければいいわよ」

「分かりました」

「で、ああ言ったからには寿司つてのを知ってて作れるんだろ？」

「作れますよ。人様に出しても恥ずかしく無い程度には」

「じゃあ僕たちのも作ってよ」

「はあ、

……イルミもですか？」

私が聞くと顔を変えたイルミがカタカタと首を縦に振った。

ちなみにイルミとは仕事で知り合った。ついでに父親とも知り合った。

ただしイルミは共闘でしたけど父親の方は同じターゲットを殺す依頼を受けていたので殺し合いに勃発し戦っていたらターゲットが逃げたので仕方がなく共闘した仲です。

「出来ました」

途中で忍者、ハンゾウだっけ？ が口を滑らせてほぼ全員が魚を取りに行きましたけど私は『人形師の蔵』から取り出して作りました。

出来た寿司をマチ、シズク、ヒソカ、イルミに渡しとりあえず私が一番初めに持っていくことにした。

ちなみに作ったのは無難なところでマグロの赤身とトロと中トロと大トロとサーモンです。

「どうぞ」

「……………普通にいいわね。合格よ」
「どうも」

この後マチ達四人も合格して半数ぐらいの転生者達があわてて寿司を作り持ってきたけど殆どが不合格と言われてしまった。
残りの半数は修正力にでも期待したんでしょうか？

（原作ブレイク派もここで壊すつもりはなかったみたいですな）

しかしその後ネテロ会長が出てきて原作通りの展開になった。
理由は流石にその試験は通過者を限定しすぎるかららしい。
ちなみに寿司で通過できた受験者は後々有利にしてくれるらしいです。

（この後は確か塔の上から下まで行くのとサバイバルで最終試験、
……………今回で確実に転生者には目を付けられましたからね。
注意すべきはサバイバル、転生者は私以外は皆念の才能にあふれて
いるらしいから広範囲に攻撃可能があるとするとさすがにこの足だ
ときつい。

……………周囲を気にせずやれば別ですけど、まあきついなら
姿を現す必要がある仕事の時と同様に私はこの体では戦わなければ
いいだけの話ですね。

けどこの寿司の試験のおかげで転生者が+1ですね。目をつけて
いなかったのが寿司を作りましたから）

塔のてっぺんに来ました。

これは面倒なのですぐにクリアさせてもらいましょう。
私とマチ、シズクは塔の屋上から人が居なくなるのを待ち行動を開始した。

「では行きましょうか」

言つと共に私達は塔から飛び降りた。

「おいで『水銀燈』『雪華綺薔薇』『リンド』『

言つと更紗の背後は赤く染まり辺りを薄く照らす。そしてその空間から波紋を浮かばせると同時に三つの人影が飛び出してきた。そしてそれぞれが更紗、マチ、シズクを受け止め宙に浮いた。

「ひさしぶりね。マチ、シズク」

「そうだね」

「ひさしぶり」

「で、お父様どうするのかしら」

「……お父様はやめてください。いえ、諦めました。昔っから言つてましたけどやめてくれませんか」

「たまに名前でも呼んでるわぁよ」

「……そうですね。出来れば初めて名前を呼んでくるのは襲つ時じゃなければうれしかったです」

「お父様過ぎたことを気にしてもしょうがないわ」

「……そうですね。では私達を連れて下まで降りてくださ
い。

ああ襲つてくるゴミは消してくれて構いません」

「わかったわ」

私が言つとこちらに向かつてくる怪鳥を水銀燈が羽を飛ばし切り

裂き、雪華綺薔薇が水晶の礫を飛ばし撃退した。

リンダは接近戦闘だけなのでシズクを受け止めているため戦闘が出来ないので不参加です。

そうそうどうでもいい話ですけど転生者と思われる人物が7人消えました。

おそらく念能力者の試験は多少きびしかったのでしよう。原作でヒソカも前の試験官が相手でしたし、

あれ？　そういえばヒソカの相手をした前の試験官念を使っ
てなかったような？

まあどうでもいいですね。

これで転生者の人数はおそらく19人、減るのはいいですけど増えるのは勘弁してもらいたい数ですね。

「行っ たね」

「行きましたね」

「どうするんだい？」

「たぶん試験でしょうからなにか起きるまで待つてましよう」

塔クリア後、飛行船に乗ってたんですけど島で置き去りにされま
した。

しかも休みとか、一応財宝を持ってこいとなってますけど、

（けどこれ知らないんですよ。確かに細かいところは忘れました
けどこんなイベントは流石に覚えてます。

……そう言えばHUNTER×HUNTERはアニメも
あったはずですね。確かレンタルのDVDを見かけて記憶がありま

す。つまりこれはたまにアニメであるアニメオリジナルの話、とりあえず転生者と主人公組の行動を見ましよう。知らない転生者も居るでしょうけど知ってるのも居るでしょう。少なくとも主人公はクリアするはずですし）

そんなことを宝石を渡し宛がわれた部屋で考えて居た。

さて現在は嵐が来たので皆で協力して乗り切ろうと鳴っています。

「まあ私達は何もしてないんだけど」

そう、皆が協力してる中私、シズク、マチ、ヒソカ、イルミは何もしてません。

「なに言ってるんですかシズク、私達は何もしないのが協力でしょう。考えてみてください足悪い私は役立たずですし、ヒソカやイルミが手伝いに行ったら退かれて逆に作業が遅くなります。マチ、シズクも避けている者が居ますし、そもそもヒソカと普通に会話してる時点で避けられます」

「心外だな」

私の言葉にヒソカはそう言ったがマチとシズクはなるほどと納得がいったようだ。

さてその後みんなの協力で嵐を乗り切り次の試験に行くことができました（更紗、マチ、シズク、ヒソカ、イルミは何もしてない）。途中でレオリオ？　でしたっけが岩の下敷きになって主人公が助けに行き沈んでしまいましたけど転生者のうちの一人が念能力の糸で助け丸く収まりました。

おそらく原作ではヒソカが助けたんでしょうね。皆こちらを見てましたから、

まあ何はともあれ今は新しい試験で私の知ってるプレートをとるサバイバル試験なんですけど、

「……これ絶対くじ操作してますよね」

「だろうね」

「うん」

私のターゲットはマチ、マチのターゲットはシズク、シズクのターゲットは私確実に操作してますよね？

「どうするんだい？」

「別行動しましょう私は一人でマチとシズクは二人で。一応私のプレートはシズクに渡しておきます。なのでシズクはここに来るまでに奪ったプレートをマチに渡してください。そうすればあと一人狩ればいいですよね」

「あんたはどうするんだい？」

「あてはありますから大丈夫です」

（あのうざったい視線ともお別れしたいですし）

その後私たちは別行動し私は身を隠すと4体の人形を呼びだした。

「さて私を監視してた5人を消しますか」

そう私は試験中5人の転生者に監視されてた。

ほかにも見てくるものはいたがこの5人は特別だった。おそらく保守派、

（今もこちらを迷わず進んできますし）

念能力、それはすぐに分かった。

私は自分を頻繁に『解析眼』で解析している。その結果念能力を受けていることが分かりそれについても解析した。

私は一体の人形に上着を着せた。念能力の対象は正確には私ではなく私の服だ。おそらく触れたものを追跡する能力だろう。5人のうちの一人とは一度すれ違う時にぶつかったからその時に、

私は4体の内の3体を周囲に配置した。

その3体の内2体はステルス機能があり私を隠してくれる。前に使ったのとは違いステルスのみだからステルス機能は上ですし、最後の1体は防御です。

そして最後の一体を操り五感を宿らせる。

この最後の人形は特別で死線、死点も見える。理由はおそらくこの人形が私と寸分違わぬ人形をもとにしたためだろう。たぶん、さらに機巧化人間を作る技術から編み出した機巧偶人を作る技術、そのたもるもろの技術で改造もしてある。

簡単にいえば原作アスララインの朱里（紫湮）が最終決戦で朱里の体を操ったのと同じことをしているのだ。

まあこちらは少々いじってるんですけど、

余談ですけど仕事の時はこの人形で行きます。

さらに余談ですけど3体の人形を配置したのは操ってる最中も動けるんですけどここには転生者がうじゃうじゃいるので念のためです。

またさらに余談ですけど向こうが追ってきてるとわかるのは発信機を付けたからです。

「さて、始めましょう」

更紗は口の端を釣り上げ笑いながら言った。

「あ？」

「どうかしたのか？」

現在更紗を追跡している5人は立ち止った。

「いや、いきなり止まったと思ったらこっちに向かってきてるんだよ」

更紗に、正確には更紗の服に念能力をかけた転生者、ユウヤは言った。

ユウヤの発は『袖振り合うも他生の縁』、

もともとユウヤはHUNTER×HUNTERをあまり知らない。

正確には昔読んでいて、連載が再開されたら週刊誌で読んだ程度だ。そのためこの世界に来た時HUNTER×HUNTERとわかつ

ても念の修行などを覚えておらず習得したのは保守派に入ってからなのだ。

入った理由はHUNTER×HUNTERにあまり興味が無いのとキメラアントだ。原作通りいけば主人公たちが倒してくれると思いい原作通り進めようとする保守派に入ったのだ。

またそのため役立つ発を考えた時出来たのが『袖振り合うも他生の縁』、この発は一度触れたものの位置をいつでも特定できるというものだ。

主人公の位置と転生者の位置が分かればいいな」と言う考えから生まれた発だが効果は高く触れたものなら常に分かる。もっともそれをイメージ出来なければならぬが、そのためもうひとつの発『俺の記憶の写真』を作ったりしたのだが、こちらの効果はそのまま記憶を写真として具現化するというものだ。

まあこの二つの念を作ったため戦闘向けの発が作れなくなったりしたのだがそれは余談である。

「向かってくるなら好都合、お前は下がってるよユウヤ」

「分かってる」

「その必要ないし、全員下がってて私が殺すから」

ユウヤともう一人の転生者コウキの会話に割り込んできたのはアイレイだった。

この5人の中で最も殺傷能力の高い発を持つてる人物だ。

そしてどうでもいい話だが転生者でも珍しいTSした人物だ。

ちなみに現在の名前は女もののため嫌がったため、前の名前は今の容姿ではおかしく残ったのが前世の苗字が現在の苗字で現在の苗字で呼ばれている。

「ぶっそうだな。一応話し合いは必要だろ」

「ぶっちゃんけあいつの行動を考えると進んで原作を破壊する気はな

いけど守る気も無いように思っけど？」

「確かにな」

観察していた更紗について話しているとユウヤが行った。

「来たよ」

ユウヤの言葉で4人が臨戦態勢に入ると鋭利な刃物のように禍々しい形状の3対の翼を生やし、先ほどと違いコートを着た更紗が宙に浮かんでいた。

「あれがあいつの発か」

「おそらく具現化系」

「まああの翼からしてそうだろ」

そんな話をユウヤ達がしていると更紗はとまり話しかけてきた。

「どうもこんにちは、私をずっと監視してたのは貴方達ですよね」

「ああそうだ」

「ご用件は？ 何か用があるんでしょう？」

「まあ話しても無駄だと思っただけだよ。原作壊すのやめてくれねえ？」

「無理ですね。少なくともクラピカは殺します」

更紗が笑顔で言い切るとアーレイ達は殺気を放ち始めた。

「じゃあ死ね。『スカーデッド致死武器』！！」

アーレイは叫んだが何も起きなかった。

「『『『』は？』『』『』」

なにも起きないことに更紗以外のこの場に居た人物が啞然となった。

「どうなつてやがる！？」

発を使ったアーレイ自身が更紗以外の全員が思っていることを叫んだ。

アーレイの発は二つ、一つは『スカーデッド致死武器』、めだかボックスの志布志 飛沫の過負荷と殆ど同じ能力だ。と言うかそれを再現した能力だ。違う点は自身の円の内部にいる人間にしか使えない。また心の傷は開けない。

二つ目は『致死の領域』、この能力はただ単に円を拡大し操るだけの能力、

まあここまでの説明でお分かりだろうが『スカーデッド致死武器』は憎武器バズーカ・デッドではないため物には効かない。

今アーレイの前に居るのは更紗ではなく、更紗と寸分違わぬ人形、人ではなく物なのだ。人に作用する『スカーデッド致死武器』は通じない。

「？ よくわかりませんけどあなたの発は通じないみたいですね。好都合です」

余談だが更紗はめだかボックスは呼んでいたが志布志 飛沫に日之影 空洞らがやられる所までしか呼んでいない。

更紗は相手の発が自身に通じないと分かり笑みを浮かべたがアーレイ達は焦っていた。

足が不自由に見える更紗が試験を突破していた時点で発が移動系と想定してはいたし、空を飛ぶと言うのも考えてはいたがアーレイ

の『致死武器』で殺せば問題ないと考えていたのだ。
スカーデット

この中に飛行能力を持つ者はいない。

空から地に攻撃する者と地から空に攻撃する者、どちらが有利かは当然前者だ。

また空の者が接近するものならいいが更紗は遠距離からの攻撃と人形を操ることによる人形の接近戦、確実にアーレイ達は不利だ。

「はじめましょう」

更紗は言つと多数の兵器を出した。

「発射」

言つと同時に太ももや肩から飛び出したミサイルや左腕からでたショットガンなどの銃火器を発射して始めた

しばらくすると更紗は撃つのをやめ、煙でふさがった視界が晴れるのを待った。

視界が晴れるとそこには大きな薄いオレンジ色の八角形の壁があった。

「A・T・フィールド？」

「そうです」

先頭に立ち片腕を前に差し出していた少女の転生者レイが答えた。

（「そうです」って普通自分の能力を答えますか？ まあ得したんで良いですけど、いえ言わなくても発は使ってくれば解析眼でだいたい能力の効果は分かるんですけど、先ほどのスカーデットというものは円の中に居る生きた人間の古傷を開く能力、A・T・フィールド？ は前面に強力なシールドを出すのみ、残るは三人、一人

は私を追跡していた能力の能力者、他二名は不明、

解析の結果スカーデットと言う発の能力者、まあ転生者AとしてAは傷を開く能力、円を広げる能力の二つ、考えるにおそらく前者の能力は円内部でしか使えない。

A・T・フィールド？の能力者、Bは二つ、その上片方は前面にか出せない。ただそれゆえに強力先ほどの攻撃も完全に防がれた。また前面のみとはいえ大きさは後ろの者も守れるほど大きいですね。単純に強力な盾を出すだけゆえに変な機能がある者よりも防御が固い。

追跡してた能力者Cは雰囲気的に戦闘向けじゃない気がします。残りの二人D、Eは具現化系と放出系と言うことしか分からない。まあ分かりませんが一人の発は効きませんから有利に変わりはありませんね。それに元々飛べる人間って少ないんですよ）

更紗が解析の結果から敵について考えていると転生者組みの人間が動いた。

転生者Eことロイは前に出て手を更紗に向けるともはやビームに近い念弾を飛ばした。

更紗は危なげなく回避した。

（なるほどEの能力は単純に念弾を飛ばすだけの能力、しいてあげれば全身から念弾を飛ばせる能力、手で飛ばすのはその方がイメージしやすいからでしょうか？ まあ念弾がもはやビームなんですけど）

今さらの上どうでもいいことだが転生者Aことアーレイは赤髪赤目で転生者Bことレイはエヴァンゲリオンのユイ似、転生者Cことユウヤは黒髪黒眼、転生者Dことコウキは金髪碧眼、転生者Eことロイは金髪赤目で皆整った容姿だ。

まあ心底どうでもいいことだが、

（さてあれで吹き飛ばしますか、
……やっぱり得意分野で行きましょうか。あれをやるなら確実に消せる状況にしたいですし、
いや、あの子に任せましょう）

更紗は『人形師の蔵』を展開した。

『人形師の屋敷』は『人形師の蔵』と繋がっている。そのため『人形師の屋敷』よりも『人形師の蔵』の方が中の物を取り出すのがたやすいため『人形師の屋敷』から呼び出せるにも関わらず『人形師の蔵』から数字持ち（ナンバーズ）達を呼びだす。

すると中から数字持ち（ナンバーズ）、ナンバー：フィアのリンダが出てきた。

「あの5人の相手よろしく」
「了解！」

リンダは言うのと超加速の翼を展開し超高速で正面から転生者達に接近した。

転生者達はいきなり現れたリンダに驚いたもののすぐに対処の為動きだした。

しかし正面からの突撃にレイがAフィールドを張ろうとした瞬間横から突撃するように進路を変え突撃してきた。

ロイもリンダに念弾を放つもすべて避けられついに接近を許してしまった。

「はっ」

接近しリンダが超振動光子剣「クリサオルchrysaor」を振りおろそうとした瞬間転生者達はその場から飛びのいたが、

「え？」

「がつ！？」

コウヤは左腕をアーレイは右腕を切り落とされた。

リンダは能力持ち（ホルダー・ドール）だ。その能力は未来視だ。そのためリンダには敵の攻撃があらかじめ分かりまた敵の避けるタイミング、避け方、避ける場所も分かる。

そのためリンダと戦う場合は接近をさせないことが重要なのだ。

しかしその方法も未来が読めるため難しいのだが、

更紗の作り出した人形で接近戦最強はだてではない。

しかしリンダを見る更紗の目は何とも言えないものをしていた。

（リンダは他の数字持ち（ナンバーズ）とは違い死体をベースにしている。そのためいくら肉体をいじり強化しても限界がある。

私の技術はダイダロスに劣っているとはいえそのうち再現できるだろう。その時リンダの肉体は超加速の翼の速度に耐えられるかどうか、

まあそこは何か思いつくしかないか、私の技術は劣っているとはいえずべてではないし、動力ではエンジェロイドの動力炉とローザミステイカなどを合わせて作り出したオリジナルの動力炉は上回っていると確信してるし、

は、強化案は最低で2つ後の世界までに思いつかないと、たぶん技術自体ダイダロスに追いつかなくても今改良しているものだけは追いつく、

最低だから途中で興味のある技術が出来れば延びるけど）

余談だがダイダロスの技術で使っているものは主にエンジェロイドの技術だ。

更紗がそんなことを考えている間にもリンダ優位の一方的な戦闘は続いていた。

（ん？ 転生者Dの能力は刀を出すのか、効果は念を切れる。吸収できる、か。なかなか強いな、けど――）

コウキが具現化した刀は楽々と超振動光子剣「クリサオルchrysaor」に切り捨てられてしまった。

（最後は私が終わらせますか、あれの威力も試したいですし、ちょうどよく転生者Bも残ってるし）

『リンダ、敵を一か所に集めてください。その後退いてください』
『了解』

更紗が自らが作り出した通信方法でリンダに指示を出した。
するとリンダは高速で動き敵を一か所に誘導した。

（なかなかの人たちでしたけど相手が悪かったですね）

更紗は一か所に集められたばろぼろの転生者を見ながら思った。

「さて始めましょう」

更紗が言つと更紗は右腕を前に突き出した。

「闇より昏き絶望より射ゆし――」

更紗が突き出した右腕から火花のような光が放たれる。

「——其は、科学の罪に嘆く牙！」

そして光は矢形になり放たれた。

余談だがこれは魔力を放っているが魂が消費するなどはしない。
ただ使用すれば腕が壊れるだけである。

「っ！？『A・T・フィールド』！！」

レイは更紗の攻撃を防ごうとしたが、

「う、う——」

矢形の魔力弾は防御を突き破り転生者達を呑み込んだ。

「人に向かって撃つたのは初めてですけど消し飛ばしますか、あの
防御を貫いて、

しかし右腕一切動きません。分かったことですけどせめて指は
動ける程度には改造したいですね。

「……そういえばA・T・フィールドは浮いたり応用力が
高かったような？　って、容量が足り無かったか覚えてなかったか
で無理だったんでしょうね」

「うつわ、消し飛んでるよ」

「ご苦労様でした。リンダ」

「うん。じゃあ戻ってるね」

「ええ」

更紗は言っと『屋敷の鍵』を回し『人形師の屋敷』の扉を現しリ
ンダを『人形師の屋敷』に戻した。

「あつ、

……プレート忘れてた」

その後何とか6人を狩りプレートを手に入れた。

内一人は転生者だった。

そうそうどうでもいい話ですけどそのうちの一人には原作でヒソカに戦士として死にたいと訴えていた人もいた。

うん。信念とかは大事だね。私は人形師、人形遣い。あの人は戦士、多少共感を得たから望み通り戦いの中で殺してあげた。

さて最終試験の前の会長による質問です。

そうそう転生者は転生者どうし潰しあつたらしく残っているのは主人公組入りしている転生者4人とそれ以外の転生者4人です。

あと

「まずなぜハンターになりたいと思ったんじゃ？」

「なぜでしょう？」

「いや、わしに聞かれても困るんじゃが」

「そうですね。暇つぶしとお金ですかね？」

まあ原作とは言えませんかね。

「では、この中で一番注目しているのは？」

「特には、しいてあげるならゴンなる少年とその仲間達」

「最後に一番戦いたくないのは？」

「そうですね。特にはないです」

「ほう。連れの二人はいいのかの？」

「その時はその時でしょう」

当たったら私が棄権すればいいですし、

さてこれは修正力でしょうか？

トーナメントが始まりました。

ただその組み合わせが原作通り（たぶん）+その他組です。

ちなみにその他組は私VSマチ・・・（1）、シズクVS主人公
組入りA・・・（2）、主人公組入りBVS他A・・・（3）、主
人公組入りCVS他B・・・（4）、主人公組DVS他C・・・（
5）、（1）敗者VS（2）敗者・・・（6）、（3）敗者VS（
4）・・・（7）、（5）敗者VS他D・・・（8）、（7）敗者
VS（8）・・・（9）、（9）敗者VS（6）・・・（10）敗
者です。

そして（10）の敗者ともうひとつのブロックの敗者で終了です。

「退屈だったね」

「つまんなかった」

「まあそう言わないでください」

ハンター試験が終わりました。

え？ 最終試験はって？

それはすぐに終わりました。語ることが無いほどに、

まず私とマチはすぐに私が棄権、シズクは私が頼んでいたのですねに棄権、転生者達も試験失格は嫌だったらしくキルアのこともあり合格できるから裏取引をしたのかそう熾烈な争いになることなく終わって行き原作通りキルアが原作通りおじさん（名前は忘れた）を殺し全員合格になり終わった。

ゴンは原作通りイルミにからんだが私達は無視して帰ったのです。

（さて次はクラピカを殺さないかね）

まあクラピカ殺すのは軽いから問題ないか、

HUNTER×HUNTER 編 第四話 ヨークシンシティ（前書き）

ご都合が少々あります。

どうもウボォーを追っています。

原作通り+私でヨークシンシティのオークションで出される品の盗みをしようとしたんですけど原作通り失敗、

それはすぐに私が思い出したと言った風にネオンの事を言ったので理由は分かったという感じになりました。

そして今は原作通りウボォーがクラピカと戦いに行ったみたいなので追いかけてる最中です。

ちなみに体はハンター試験で転生者達と戦った時に使った人形の体です。

本体は他の蜘蛛のメンバーと一緒に居ます。

人形を放った理由はなんか無性に嫌な予感がするからと言っておきました。

それにしても今回は面倒ですね。

クラピカ以外のクルタの転生者3人全員が同じく行動してるみたいです。

分かった理由ですか？ ネオンに聞きました。

ネオンとは友人です。

私は念のこもった死体やらを集めたりしていたのでその過程で知り合いました。

あの子は純粹？ なので、普通に「警備の人ってどんな人が居るの？」何人ぐらい？」と聞いたら「警備の人はね」と答えてくれました。

……ああ私の良心が痛む、クラピカが死んだらネオンとこの父親のファミリーは原作通りネオンが念をクロロに奪われた

ら終わりそうだからその時は助けてあげよう。

うん、そうしよう。

っとウボォーが見えました。

(……えげつな)

思わず思った。

(え、4人がかりで殴るとかどんだけですか？)

クラピカはまだしも転生者はくるのを知っていたのに何もしなかった。

あるいは何もできなかったのにそれは八つ当たりでしょうに、
……ん？　けどウボォーはクルタ襲ったし八つ当たりじゃない？

けど転生者は知ってたわけだし知りながら防げなかった訳だし八つ当たり？

八つ当たりではないだろうけど転生者は先を知ってるわけだから微妙だな、確実に親しい者を殺された怒りが混じって殴ってるし、
って、クラピカが小指の鎖使った。早く助けないとね)

私は上空からクラピカ一同に向かって銃弾をお見舞いした。

クラピオ、クロエ、クロピカの3人は転生者だ。

3人とも気がついたら赤ん坊になったことに気がついたときは「
転生来た——！」と思ったもののHUNTER×HUNTERの
クルタ族だと気がつく、「終わった——！」と思ったものだ。

しかし一度死んでみすみす殺されるのも嫌なため初めは逃げることを考えたがクルタ族は他との交流がほとんどない。

これがどこかの町が虐殺に会うならまだ逃げて也希望があるかもしれないがクルタ族だと1人で助かってもその後金もなくどう生きて行けばいいかが分からないどころか下手したらクルタ族とばれ緋の目を手に入れるために殺されるかもしれないため却下になり自分以外にも転生者が居るかもしれないと思い動けるようになったら探し始めることになった。

その結果見つかった転生者はクロエら3人を含めて9人、クルタ虐殺に関しては9人で話し合ったものの一番年上の者でもクラピカよりも7歳年上と言うだけで一族内の発言力はないに等しい。

そもそもその人物は言うつもり自体無かった。クルタ族の性質からして凄腕の盗賊が来るのが分かっているも逃げることはしないだろうと分かっていたからだ。話し合いの結果虐殺時は各人極力協力し合い1人でも多くの人間を助けると言うことになった。

虐殺後は結果から言うて生き残った転生者は6人、3人は逃げ遅れたものと長く生きていたため友人、あるいは恋人を助けに生き殺されたのだ。

とは言うもののクルタ族は原作と違い少数ながら生き残った。しかし原作通りクラピカは蜘蛛への復讐を誓い。生き残った6人のうち3人はクラピカについていくことにしたのだ。

ぶっちゃけ原作を見てみたかっただけの3人なのだが。他のものは残ったクルタ族と共にクルタ族として普通に生きることを選んだ。さて話はそれるがそんなついてきた3人だが一番恐れていたのは当然蜘蛛だ。

自分達はイレギュラーだあるわけだしころつと殺されるかもしれないと恐れていたのだ。

しかし原作通り蜘蛛のウボォーギンはクラピカに拘束され身動き

が取れなかった。

こうなると恐怖は消え自分達が恐れて生きなければならなかった恨みとかがわきあがってくるわけで3人は思いつきり殴ったりしていたのだが、

「「「「!?!?!?!」」」」

突如銃弾が襲った。

クラピカを含めた4人は当然銃弾を回避し、ウボオーギンの方を見るとウボオーギンの前には見覚えのある人物がいた。

「…………お前は」

「どうも」

クラピカが呟くと更紗はクラピカ達に挨拶するとウボオーギンに向き直った。

「派手にやられましたね」

「うるせえ」

言つと更紗は鎖の死線を切り裂きウボオーギンの拘束を解いた、

「中のも殺すんで纏などをしないで、

つまり防がないでくださいね」

言つと更紗は心臓に突き刺さった鎖の死点をつき殺した。

それと同時に体内に入れた精神感应性金属で心臓に鎖が殺されたことで出来た穴をふさいだ。

「終了」

「はえーな」

「細かいのは後でやります。

それまでは激しい行動は控えてください。

だから今日は帰ってください。

あなたの能力じゃ勝てませんよ。接近オンリーですし」

「……………しょうがねえな」

言つとウボオーギンは去って行った。

（あれ？ 反対すると思ったんですけど、

まあウボオーは馬鹿じゃありませんから勝てない相手と分かつて他の親しい？ 人間がその人間を殺すと言えば譲りますよね？）

ウボオーギンが去ると更紗はクラピカ達に向き直った。

「どうもお待たせしました。待っていただきありがとうございます」

別にクラピカ達は更紗を持っていたわけではない。

ただウボオーギンを攻撃したら更紗に殺されると直感的に思いウボオーギンを攻撃しなかっただけだ。

「……………お前も蜘蛛か？」

クラピカの問いに更紗はにっこりと笑いながら言った。

「さあそんなことどうでもいいでしょ？

ウボオーが去った以上あなたは私が蜘蛛であろうとなかろうと私から情報を聞き出したい。

しかし私は話すつもりはない。やることは結局一緒です」

「……………なるほどな」

「それにしてもクルタ族の生き残りが3人も、

・・・ふふふ、いいこと思いました」

「いいこと、だと？」

「ええ、私最近は人形を作ることや操ることだけでなく人形劇にもこりはじめまして、

なのでこんなシナリオはどうでしょう。

一族を虐殺された少年達は復讐の旅に出、ようやくその相手と対峙した。しかし相手が呼び出したのは今は亡き同胞、はたして少年は亡き同胞を踏みにじり復讐を果たすことが出来るのか、それとも自身も死した一族の同胞と同じく殺されてしまうのか！

・・・ダメですね。65点です」

「亡き同胞だと？」

「ええ、亡き同胞です」

更紗が言うと更紗の背後が赤く染まり、やがて黄金色となり辺りを薄く照らす。そしてその空間から波紋を浮かばせると同時に2つの人影が現れた。

「「「「「!?!?!」」」」」

その人影の姿を見るとクラピカら4人は驚愕した。

二つの人影の人物は片方は背の高い屈強そうな男と背の高さは普通の髪の毛の長い女だった。

それだけなら4人はそこまで驚かなかっただろうが問題は服装と目だ。

2人ともクルタ族の民族衣装を来ていてその目はクルタ族特有の緋の目だったのだ。

「ああ、なんて悲劇なんでしょう。

復讐を誓った4人の前に現れたのは人形になった亡き同胞たち、

少年達はそれを粉碎して進むのかそれとも何もできず殺されるのか？

「……………55点」

「貴様！」

「この人形は男女ともに名を『クルタ』を言いまして男の方は肉体を入れ替えておらず強化したのみ、

女の方は優れたクルタ族の体を繋ぎ合わせた人形ですよ」

「つなぎあわせた？

なら一族の死体に体が一分ない者がいたのは」

「ええ、私が持ち去りました。

ふふふ、この『クルタ』は共に優れた個体ですけどあなたたちならそれ以上かもしれませんからその時は人形に上げてます」

「貴様——！！」

「ア——ッハッハッハッハッゴホッ、む、むせた」

更紗の物言いにクラピカは激怒するが更紗は笑っただけだった。

「……………むせ、涙目の為しまらなかったが、

なおこの時完全に空気の転生者3人はどうしているかと言うと何もできないでいた。

3人は更紗が転生者だと当然気がついたが更紗の言ったことにより更紗を心底恐怖していた。

更紗は言った「女の方は優れたクルタ族の体を繋ぎ合わせた人形なんですよ」と、それは殺しただけでなく死体を切り裂き繋ぎ合わせたということだ。

そんなことを同じ世界出身であるはずの更紗が出来ることに恐怖していたのだ。

3人が恐怖している間にも更紗の人形2体の『クルタ』は男はクラピカに女は転生者達に接近した。

「ちっ、やるぞ！」

一人の転生者が言うのと転生者全員が戦闘態勢になった。

（さてと皆さん似た顔ですけどそれぞれ強化系、放出系、具現化系で皆違いますね。

まあこの3人じゃ女の方の『クルタ』には勝てませんね）

更紗は男の『クルタ』はともかく女の方の『クルタ』には自身を持っている。

強化系のクラピオと具現化系のクロエが、クロエは盾を具現化し『クルタ』に接近した。

クロピカは両腕を光らせたかと思うと15つの光球を放った。

クラピオが拳でクロエが盾で『クルタ』に殴りかかり、クロピカの放った光球が『クロエ』に向かって飛んで行った。

しかし『クルタ』は刀を具現化しクラピオの右腕を防ぎクロエを盾ごと殴り飛ばしクロピカの放った光球に触れる瞬間一瞬体を光らせたかと思うと相殺した。

（ふふふ、『クルタ』は能力持ち（ホルダー・ドール）です。

能力持ち（ホルダー・ドール）は装備などではなく特殊な能力を持った人形。

それにはいくつかのタイプがありますけど『クルタ』はその作製に使われた15人のクルタ族の内の7人の念能力を使うことが出来る。元々材料になった人間の能力を引き継いだタイプ、

とはいってもクルタ族の人間の発は単純、中には発を作らないのもいますからそうすごいのはないですけどそれでも『クルタ』は強化系で肉体の強化×2と回復、具現化系で刀と剣と弓の具現化、放

出系で単純に念の放出が出来る。さらに緋の目によりすべての精度100パーセント＋元々組み合わせものゆえ相性も全系統100%、しかも死者ゆえに死者の念による凶悪化、

そうそう勝てませんよ。念以外の能力も一つ持ってますし）

更紗が考えている間も『クルタ』は転生者3人を圧倒していた。

『クルタ』の刀がクラピオを切り裂こうとし、それをクロエが盾で防ぎクロピカが光球を放つが当たる瞬間体が光相殺する。

ちなみに体が光るのは当たる瞬間に念を放出するからだ。

（発は強化系がただ純粹に肉体の強化で具現化が壊れない盾、放出が自在に操れる念の球が、

十中八九『クルタ』の勝ちですね。

転生者はオーラ量が多いですけど死者の念は強力ですから、

あはは、間違いなく女の方の『クルタ』はこの世界で作った人形の中で最高傑作です）

更紗は口元に笑みを浮かべたまま突如3歩後退した。

すると先ほどまで更紗が居た場所に男の方の『クルタ』が吹き飛んできた。

（あゝあ、やっぱりこれじゃムリか、

戦闘は初めはクラピカが死体でも一族の体を攻撃するのに躊躇していたから押してたんですけど転生者達がピンチになると生きてる仲間を助けるために攻撃を決意したら逆転されましたからね）

余談だが更紗は素で思考を複数に分割出来るが人形を操っている際にはそれに必要な分だけに分割できる。100必要なら100に1000必要なら1000にと、

ただし素で出来る分以外は人形に関しての時しか出来ない。

あくまでそれは人形師と人形遣いとしての才能がなせる技だから、

更紗は吹き飛ばされた人形の状態を見ると言った。

「死んでいるとはいえ同じ一族の人間をこうまで壊せるとは」

「貴様に操られるよりはましだ」

「なるほど」

更紗は言うつと吹き飛ばされた男の『クルタ』を立たせた。

「この男は私の知る限りクルタでは最強の猛者の方だったんですけど人形への資質はあまりなかったんですよ。」

この男よりはあなたの方が資質がありそうですね。

だから、もう要りません。優れた個体とはいえ元から生前のように動くだけの失敗作ですし」

更紗は言うつと男の首を切り落とし緋の目をえぐり出した。

「貴様ア！！」

（えゝ、自分で壊しておいて怒ります？

まあ好都合ですね）

クラピカが殴りかかってきたため更紗は上空に飛び避けた。

「かかったな！」

言うつとクラピカが隠で隠していた『束縛する中指の鎖』チェーンジェルで更紗を束縛しようとした。

「はい。終わり」

鎖が更紗に触れた瞬間クラピカは吐血しながら倒れた。

「残念でした。」

私はクルタ族の虐殺には参加してましたけど蜘蛛のメンバーじゃないんですよ。

あなたが蜘蛛以外に使わないことを制約にしないで一族を殺したものの以外に使わないあたりにしておけば結果は違ったかもしれないね」

（まあ捕まっても念能力で戦闘しない私には意味がないんですけどね。

あれ？ この制約ってなにが判断するんだろう？

クラピカではないですね。私を蜘蛛と思っていたわけですし、謎です。）

更紗はクラピカの亡きがらのそばに着地するとクラピカの亡きがらを抱き上げた。

「あはっ、資質が高いじゃないですけど、女の方のって、もう『クルタ』は一体ですね。」

『クルタ』ほどじゃないですけどあの男よりは断然高い。良い人形になりそうです」

更紗は満面の笑みを浮かべながら転生者達の方を向いた。

「あなた達は、転生者にも興味はあったんですけど、いいや。終わらせて『クルタ』」

更紗が言っと『クルタ』は今まで以上の速度でクラピカを斬り殺した。

「「!？」」

今まで接戦だったにも関わらずいきなり圧倒され始めたのだから残った2人は混乱した。

（今まで肉体の強化は1つしか使ってなかったんですね）

『クルタ』は具現化した刀と剣をクロピカに投げつけたがそれをクロピカは光球で弾いたが今度は弓を具現化すると矢を放ち続けた。

「はぁぁあ!!」

『クルタ』が矢を放ち続けている間にクロエが後ろから盾で殴りかかるうとするが、

「がつ」

『クルタ』の背から紅い何かが伸び盾が当たる前にクロエの四肢を貫いた。

「『クルタ』最後の特殊能力にして唯一材料になった人間から引き継いだものではない能力『血』、

そうですね東方風に『自身の血を増加し自在に操る程度の能力』とでも名付けましょうか？

けど『血』の方がいいですかね？」

更紗が作りだしやオリジナルの技法、

それは人形に特異の能力を授ける。

ただし必ずしも能力が現れるとは限らないのだが、

人間の死体などを核にしたタイプδなどの場合は材料にしたその資質による訳だし、

（しかも現れる能力はランダム、

ベースはローゼンの技術ですから人間を材料にした人形はさらに現れにくく、現れなかった場合最悪壊れますし、

．．．．．転生者だとオーラ量も多いですから以外と耐えられるかもしれませんね。一応回収しておきましょう。

そう言えば転生者なのに『王の財宝』とか『無限の剣製』とかはまだお目にかかりませんね。

さすがに無理なんでしょうかね。

．．．．．そう言えば転生物のSSで神に『無限の剣製』を使えるようにしてもらうのがありますけど固有結界は術者の心象風景で現実世界を塗りつぶし、固有結界内部の世界そのものを変えてしまう結界のことだったはず、

はて、これって神から固有結界系の能力を貰うと心象風景が変えられるのでしょうか？

けど心象風景が変わったら人格に影響が出るんじゃない？

神から貰うと大丈夫なんでしょうか？

．．．．．気になりますね。

今度神から能力を貰った転生者で固有結果を貰ったのがいたら捕まえて頭の中いじってみましょう。

そのためには少なくとも頭の中の情報を抜き取る道具を作らないと）

更紗はすでに殺した転生者達に興味を失いクラピカを『人形師の蔵』にしまうと思いついた疑問に対して考え始めるのだった。

この後転生者達を思い出し死体を回収しに行ったら資質が低いかったため目を抉って帰ったのは余談。

HUNTER×HUNTER編 第五話 グリッドアイランド

どうも今私は50人以上の転生者に囲まれています。

ちなみに他の場所では数字持ち（ナンバーズ）の皆が10人ぐらいの転生者と戦ってる。

は、面倒ないっそのことこの島ごと『ジャッジメント Judgment』の「アポロン APOLLON」で吹き飛ばしてしまいませんか？

いえ、それでは予定が狂います。

は、どうしてこんなことになったんでしょうか。

てか50人ってこの島に居る保守派の人間殆どじゃないですか、

さて私はクラピカをサクツと殺した後グリッドアイランドに来て
います。

ああそうそうヒソカは死にました。

理由は簡単。クロロと戦って死んだ。それだけです。

しかし現在クロロは重傷です。

まあそんなことがあったりしましたが私は強奪という方法で
グリッドアイランドのゲーム機？ を手に入れグリッドアイランド、
転生者達には激闘の地と呼ばれる場所に入りました。

ちなみに激闘の地と呼ばれる理由は原作ブレイク派はハンター試
験ではなくここで介入する気の者、原作イベントが終わるまで待て
ない帰る派、それらを防ごうとする保守派すべてがここを目指すか
らです。

そうそう現在はブレイク派が単独最下位状態ですよ。

まあ順位があるかどうかは知りませんが一番人数が少ないです。理由は簡単皆基本自分勝手だから、

次が帰る派、まあここは勝手に滅びるでしょう。

てかもうすでにブレイク派に負けかけているし、

理由はグリードアイランドのカードじゃあ帰れなかったから、

まあ私からしたら別の世界に行く念を作るのは無理だと思っつんですよ。まずその世界を観測してさらに指定、そこから移動するわけでしょ？ 無理でしょただけ制約作るんですか、

そもそもグリードアイランドのカード担当が誰だか知りませんがまずその人間が他世界を想定してないと無理でしょ。

まあこの世界にいる転生者は私のように神に、まあ私は邪神なんですけど、転生させられた訳ではなく自然と転生したようですからありえないと言い切れないんですけど、

そもそも帰ってどうするんですかね？

はつきりって容姿からして違うでしょうに、

違う世界から戻ってきたなんて言っても病院行きですよ。

たえ信じてもらえても実験動物ですね。

おっと話がそれました。閑話休題。

カードで帰れなくなると帰る派は2つに分かれました。

1つ目が帰るのは無理と判断した人たち、

2つ目が帰るにはグリードアイランドの外でも使えるゲームクリア報酬のバインダーで使用したものなら帰れると考える人たち、ハッキリ言ってありえなくはないですけど信じたくないだけですよ。帰れないって、

まあそんな訳で1つ目の人間は平穩に生きる派か保守派に流れたため帰る派からいなくなり、

2つ目は使用するのが何であれ入れられるカードは3枚、

指定ポケットではないカードを持っていくには擬態で変え、聖騎士の首飾りでもどすという原作のゴンが取った方法しかない（たぶん）ため人数が限られ単独行動が多くなった。

そのため最後の保守派しか団体行動していないため保守派が一番幅を利かせている。

さてそんなグリードアイランドで邪神に約束されている私はすぐにでも帰ろうと思えば帰れるんですけどふと思っただんです。

バインダーとカードって『人形師の蔵』に入れたら他の世界でも使えるの？ って、

邪神に聞いたらクリア報酬のバインダーの三枚のみ使えるようにしてくれるとか、

と、言うわけで私はゲームクリアを目指してます。

まあそうは言ってもやっていたことは単純なことなんですけど、それは失敗作の有効利用、

私の人形の中で戦闘用として作ったものの動きはするけど戦闘では使えない。失敗作があります。

それにリスキューダイスを使わせカードを買わせる。

念には念を入れ、命令通りの行動をするように改造し私とのつながりを一切断ちそれを繰り返したと所大凶を当ててもその失敗作に被害が行き私にはないことが分かったので繰り返し返させました。

カード集めですか？

残りはほら原作のゲンスルー？ まあボマーからいただきました。3人組だったので捕縛してカードよこせと言ったら始め渋ったので1人を渋るたびに精神感应性金属を糸状にして刺して行ったらすぐにくれました。

お礼にこの世界（グリードアイランドの外）のお金を上げました。もう宝石に変えたりするまでもなく他の世界に行くつもりですからね。 いらないんです。

だいたい50億ぐらいでしたっけ？ 一応全部は宝石などに変えなかったんですね。

私儲かってんですよ。殺戮人形は今やゾルディックと並ぶ世界最高峰の殺し屋で有名ですから。

さて閑話休題。

ボマー達から奪ったもの以外は主人公組を潰して足りない物を手に入れ終了。

最後のクイズはネオンにやってもらいます。

ネオンですがネオンは原作通りクロロに能力を取られたためネオンの父親のファミリーは潰れました。

まあ原作でも父親はなんかダメになつてクラピカが指揮をとつた気がするのでしょうか無いかもしれないですね。

なので私は捕まりそうになつていたネオンを助けました。

まあ知らない人間なら気にも留めないんですけどね。

ネオンはこの世界じゃ蜘蛛のメンバーを除いたら数人しかいない友人でしたから助けたんです。

そうそうネオンにクイズをやってもらつと言うのはネオンの新しい発です。

元々ネオンは念能力に関して知りませんでしたから教え訓練させました。

そしてネオンが作った発の内の1つが「10分の1」です。

効果は10分の1までの確立のものなら1として知ることが出来る。簡単に言えば10%までに絞れるものなら答えが分かると言うものです。

ちなみに現在ネオンは性格が元とは少々違ってます。

ネオンの度重なる我が儘に切れたマチが調k——ではなく教育したからです。

まあ偶にはわがままを言うんですけど我が儘を言うんですけど昔と比べたら可愛いものです。

閑話休題。

それが予定だったんですけどね。

主人公組を潰しに行こうとしたら転生者の団体さんが2つ近づいてきたんですよ。

1つは保守派団体。

これは予想していますいから問題ありません。

もう1つがブレイク派およびクリアで帰れると信じてる帰れる派の残党団体。

たぶん私と言うブレイクしていてクリアを目前としている私を一時期協力して殺すつもりなんでしょうね。

ああブレイク派とか保守派とか分かる理由は知ってる顔がいるからです。

まあ戦つてるところを盗み見したただけなんですけど、
そう言うわけで冒頭に戻ります。

(さてどうしましょう。

この人数の転生者ですと下手すると結構な数の人形が壊されちゃいますよね。

……あれを呼ぼう。

そう言えばあれを戦闘で使うの初めてですね。

ふふふ、楽しみ)

更紗の背後が赤く染まり、やがて黄金色となり辺りを薄く照らす。そしてその空間から波紋を浮かばせると同時に1つの人影が現れた。それは更紗と髪形以外殆ど同じ女性の人形だった。

「人形『S a r a s a』、知ってますか？

人、この場合人形ですけど、強化ではなく何かを組み込む形の改造、異物を組み込むのは女性の方が例外を除けば圧倒的に適正が高いんですよ」

更紗は転生者達に言うが転生者達は困惑するだけだ。

それもそのはずいきなり敵と殆ど同じ顔の女が現れたのだから、

「憶測ですけど女性は生まれながらに異物を宿することが可能なのだからでしょう、

だってそうでしょう？

女性は子供を産みます。

生む前には当然子供を孕む訳ですが、考えれば怖くないですか？
だってお腹に子供がいる時点では女性には二つ命がその肉体の中にあるんですよ。

その上別の人間と言う異物を中に宿しながら普通に生きてるんですよ？

まあそう言う器官があると言われればそれまでなんですけど、
理由はそれ、子供と言う異物を宿せるがゆえに異物を組み込むのも男性よりは高いと思うんですよ。

まあ憶測ですけどね。

結局女性の方が高いのは事実なので憶測などどうでもいいです。
長々と悪かったですね。

ああ、何が言いたいかと言いますと私人形への適性が高いんです。
知る限り最高です。

そこでふと思ったんです。

私の死体を、しかも女の私の死体を人形にしたものはどれほどのものになるんだろうと」

（だからこの前の世界では転生する前に女性に転生して肉体が最高の時に傷つけず死にたいと邪神に頼んだところ「おもしろそうですね」とやってくれたのでその世界では女として生まれて23歳の時死んだんですよね。

まあ両親には悪いことしましたね）

余談だがその時女性に生まれたがゆえに邪神に殺される前から男に襲われかけることが多々あり苦手になっているのに今までより多

く男から欲情の視線を受け苦手意識を増してまわってしまったのだ、

「結果最高にして一分の例外を除けば最強の戦闘力を有した人形が出来ました。」

ああ何を言っていたのか理解できませんよね。
気にしないでいいですよ。

でも理解できずとも誇ってくださいませんか？

この『Sarasas』の初の実戦戦闘の相手になれるんですから」

更紗が言い右腕を上げると『Sarasas』は動き出した。

『Sarasas』は三種類計6翼の翼を展開した。

それは一番上の一对の翼は一見光で出来た翼で、真ん中の翼は薄青紫色の翼、一番下の翼は白い機械の翼だった。

『Sarasas』はさらに2本の長さの違う刀——超振動光子双刀「Сёстры（シヨーストルイ）」を展開し転生者の集団に高速で飛びながら向かって行った。

さらに向かっている最中に機械の翼——「Artemis」の風切り羽の代わりになっているビットを発射した。

機械の翼「Artemis」ala、

それは片翼に永久追尾空対空弾「Artemis」を元にした6つのビット兵器「Artemisビット」を両翼計12搭載した翼だ。

ビットは突き刺さり、切り裂き、エネルギーを発射するという攻撃方法がとれる。

転生者達は高速移動する『Sarasas』に切り裂かれ、あるいはArtemisビットに殺された。

もちろん転生者達も黙ってやられている訳ではない。

「食らえ」

あるものは念弾を放つが、

「サンクトゥス Sanctus」展開

『サラサ Sarasa』が言つと念弾を水色の壁が防いだ。

守護領域「サンクトゥス Sanctus」、

それは絶対防御圏「イージス aegis」を元にした防御兵器、ただし他の更紗が作ったイージス aegisより僅かに劣るがイージス aegisと違い範囲は変わらないが球体状ではなく範囲なら好きな形で展開出来る。

さらにスウェーフトアラ C B E T a i a を粒子状にして散布しそれと合成すると防御力がます。

異能の翼「スウェーフトアラ C B E T a i a」、

三対の翼の一番上の一対の翼で無数の小さい粒子で構成されている。そのため分解し再構成することで様々な形にすることが出来る。

異能の翼から分かる通りこれは装備ではなく能力だ。
ただし『サラサ Sarasa』に発現した能力ではない。

接近した際の攻撃は「セクトリ C è c t p y (シヨーストルイ)」で防ぎまた切り裂く、

それと同時に「アルデミス A r t e m i s ビット」が敵を殺す。

遠距離からのあるいはセクトリ C è c t p y (シヨーストルイ)で防げない攻撃はサンクトゥス Sanctusで防ぐ、これだけで転生者は半数に減っていた。

「あは、アーハッハッハッハッハッゲホッゴッ、ま、またむせ

た。

すばらしいです。流石最高傑作！」

（けど相手が弱いですね。

これでも8ある装備能力の内戦闘では3つしか使ってないんですけど、

まあ全部が戦闘用と言うわけではありませんし、
けど最大はやろうと思えば現時点では19なんですけどね）

自分の作りだした一撃の火力以外では下手したらロスト・ドール
以上の性能を誇る人形を見ながら更紗は思った。

（ん？）

更紗が飽き始めると一瞬真ん中の翼が光ると転生者が苦しみだ
した。

（……よし、人間にもちゃんと聞くみたいだね。

能力はちゃんと検証しないと自分で作った装備と違って分からな
い所があるからね。

特に変質した「Eclipse ala」は

エクリプセアラ

混沌の翼「Eclipse ala」、

エクリプセアラ

三対の翼の真ん中の薄青紫色の一对の翼。

元々はステルス機能とジャミング機能の付いた装備だったが『S
aras』に発現した何らかの異能が混ざり変質し、ステルス機
能と自身にアクセスしてきた主のもの以外のものを防ぐ効果と逆に
侵食しそれを支配することが可能となった。

（おそらく操作系で何らかの条件がそろったから操作しようとした
ら防がれ逆に侵食されて支配される前にやめてもの侵食はされたた

め激痛で苦しんでるってところかな？

……それにしてもうっとうしいな)

今回更紗は人形の体で来たのではなく生身だ。

つまり片足に障害があるため杖をついている。

当然更紗を狙ってくる転生者もいるのだがそれは防御特化で作られたタイプαのaegis^{イージス}で攻撃を完全に防いでいるのだがうっとうしいことに変わりはない。

(私も動いて潰しましょうか？)

転生者も『Sarasas^{サラサ}』に通用する発はないみたいだし、それに向こうも終わりみたいですし)

更紗が10人ほどの転生者と数字持ち(ナンバーズ)が戦ってる方を見ると巨大な青い火柱が空に向かって燃え盛っていた。

(向こうのほうが保守派相手に生き残った精鋭の分質は高いから少し心配してたんですけど問題なさそうですね。

早くこちらも終わらせますか)

「『judgment^{ジャッジメント}』」

更紗が言つと背後に人形が現れそれが光になると更紗を包んだ。
光が消えると薄い桃色の翼を生やし、腕や足に白と桃色の装甲を
そして頭にゴーグルをつけ、周囲に8つのビットを浮かせた更紗が
現れた。

「『Sarasas^{サラサ}』」

更紗が言つと『Sarasas^{サラサ}』は戦闘を中断し更紗のそばまで後

退した。

「目標捕捉「アルテミスArtemis」発射」

更紗が言つと翼からエネルギー状になった羽が――アルテミスArtemisが無数に発射された。

当然避けるものの発などで防ぐものもいたが避けたものは避けた方に追つてきたアルテミスArtemisにより殺され、

防いだものは数発は防いでも何発もあたり防御が破壊され死んだ。

「目標全滅確認」

言つとほぼ同時に数字持ち（ナンバーズ）がやってきた。

「ああやつぱり問題なかったみたいですね。」

水銀燈が大技を放つたみたいですから少し心配してたんですよ」

「それはお姉さまが弱いくせにしぶとい敵にしぶれを切らしたただけですからマスター」

雪華綺薔薇が答えると水銀燈、

「しょうがないじゃない。お父様、

雑魚のくせにしぶとくて目ざわりだったんだもの」

「まあ無事ならどう倒そうが別にいいんですけど」

「それにしても『ジャッジメントjudgment』も『サラサSarasa』も凄まじいわね」

「まあ『ジャッジメントjudgment』はやろうと思えばこの島を余裕で吹き飛ばせるんですけどね」

（さて、余計な邪魔は入りましたけどこれ以上邪魔が入ることはないでしょう）

「じゃあ主人公達の所に行きましようか」

さて結果から言って勝ちましたそしてカードを貰いました。

簡単でしたよ。主人公組入りの転生者達は私と転生者達の殺し合
いを見ていたらしく勝負する気は初めから無かったですし、

キルアは殺気を向けたら震えて動けないですし、ビスケット？

ビスケは実力差が分かるので降参、

面倒だったのは主人公のゴンでしたけどゴンは適当に痛みつけた
後捕獲用のタイプαで捕獲しました。

攻撃して逃げようとしてしまったけど使った捕獲用のタイプαの機能
は唯一自分の正面にa e g i s^{イージス}を展開できる唯それだけですけどそ
れはつまりa e g i s^{イージス}内に囚われると言うことなので脱出は出来な
かったんですよ。

これ人形作るのが以外と大変だったんですよ。

元々a e g i s^{イージス}は発動したものを基点に球体状で展開するんでそ
れを自分の正面に展開出来るようにするので人形の機能をすべて持
ってくれましたし、

まあ増やそうと思えば行けるんですけどあくまで捕獲用ですからね。
話がそれましたね。閑話休題。

そんな訳でゴンは捕獲、それ以外は降参と言うことで望んだカー
ドを手に入れました。

さて最後のクイズな訳ですが、

「では、ネオンお願いします」
「はい」

まあクイズの結果は言うまでもなく発で全問正解のネオンがカードを貰い。それを私が貰い。クリア特典を貰いに行きました。そこでも別に私はゴンでもないのでクリア特典を貰い終わりました。

HUNTER×HUNTER編 エピソード（前書き）

短いです。

本当に短いです。

HUNTER×HUNTER編 エピローグ

「じゃあこれでいいか」

私はクリア特典のバインダーに入れるカードを決めた。

少々悩んだがとりあえず当たり前と言えは当たり前前の「大天使の息吹」、

まあこれは使えますからね。かなり、
だってどんな重傷でも治るんですよ。

……あれ？

私は死んでも人形に移れるんだから意味がない？

うん。私には一応意味がないともいえる。

いえ、マチやシズク、そしてネオンのように親しくなる人間もいるんですから必要です。

2つ目は「ブルー・プラネット」、

だって綺麗ですし、綺麗なものはいいです。

3つ目は「リスキーダイス」か「聖騎士の首飾り」かで悩んだんですけど「リスキーダイス」にしました。

理由は邪神に「大天使の息吹」「リスキーダイス」「聖騎士の首飾り」は有効か聞いたところ、

「大天使の息吹」「リスキーダイス」は効果、効力は変わらないが「聖騎士の首飾り」は効果は変わらないがすべての呪いを跳ね返すのは世界によっては不可能との事だったのでやめました。

「リスキーダイス」ならグリードアイランドで使った手を使えば色々出来ますし、

お金を稼ぐとか、お金を稼ぐとか、…………一緒にですね。

そんな訳で私が選んだのは「大天使の息吹」「ブルー・プラネット」「リスキーダイス」です。

とりあえずそろそろ世界を飛びますかね。

そうそう次の世界にはマチとシズクは前からついてくると言っていましたけどネオンも行く場所ないからとついてくることになりました。

こうして私はグリードアイランドをクリアし賞品を持ってHUNTER×HUNTERの世界を去った。

邪神の元に戻ると少ししてTYPE・MOONの世界に今度はトリップではなく転生した。

こうして物語はTYPE・MOON編へと至る。

HUNTER×HUNTER編 エピローグ（後書き）

これ書いててふと思いついた。

インフィニット・ストラトスのSSで主人公がエンジニアロイド（感情がない無人兵器設定）を作る天才で特殊なIS（武装がエンジニアロイド）使って設定のそらのおとしものとのクロスものっていいんじゃないと、

TYPE・MOON編 第三話 目的再確認

さて前回の世界HUNTER×HUNTERの世界を語り終わつた所で現在の私の目的などを再確認しておこうと思います。

まず最も早く来る原作空の境界、

ここでは蒼崎 橙子と知り合いになることと玄霧 皐月の確保、
荒耶宗蓮は、いいや、

蒼崎 橙子とは人形について話し合いたいですし、玄霧 皐月は
その頭から統一言語について引き出したいですし、

本当は両儀 式も確保したいんですけど蒼崎 橙子とは敵対したくないですし、「」と繋がっている以上死にそうになったら反則技が、みたいなこともありえなくはないですから諦めます。

まあ空の境界はこんなところですね。

次が月姫、

ここでは遠野 志貴と真祖の姫君と遠野 秋葉の確保、代行者はどうしましょ。

あれは魂のラベルによる矛盾を世界が許さないだけですし、
けどポテンシャルは優れてるんですよね。

うん、保留です。

直死の魔眼を宿した肉体に真祖の肉体、紅赤朱の肉体、
うん。欲しいです。

これは手段はルートによりますね。

手段と言っても予定ですけど、

月姫は漫画とアニメの知識しかありませんけどネットとかである程度知識がありますから、

真祖の姫君のルートの時は特に何もせず待って殺人鬼となった彼

に真祖の姫君を人形の体に意識を写して目覚めさせると言い対価に自身にも人形となって貰いその上でその肉体と真祖の姫君の肉体を貰うと言いい人形で目覚めさせるのが成功すればくれるでしょう。

行っ際に魔術的な契約も結んどけば万全ですし、

この時はその後遠野 秋葉を殺せばいいわけですし、

もしも妹の遠野 秋葉ルートなら確か遠野 志貴は秋葉の能力で生きていい訳ですからその影響で寿命が半分でしたよね？

そこをについて人形になれば二人で末永く幸せになれると言えば人形になりたいと言うでしょう。

まあ普通に殺してもいいんですけど、

その時対価に肉体を貰い真祖の姫君はその後確保、

……面倒ですね。どう確保しましょう。

代行者の場合は知識がありません。

確か最後は相打ちでしたっけ？

いや違ったような？

まあこの時は普通に殺して確保しましょう。

これも真祖の姫君は苦労しますね。

最後に双子の妹の翡翠ルートは、

また知識がありませんね。

手段は代行者と同じですね。

また真祖の姫君が面倒です。

あとリメイクではさつきルートがあるとか、

これは前知識があるわけじゃないですね。

あ、彼女も確保したいですね。

追加って、

……うん。

真祖の姫君ルートがいいですね。

え？ 双子の姉の方琥珀ルートですか？

あの子は私側の人間です。

そう確かあれはいつでしたっけ？

私は七夜の肉体も狙ってたんですけど逃げたり制圧したり制圧後の処理だったりしていたら壊滅の噂を耳にしたんで遠野の当主、名前は忘れました、

まあ遠野の当主に嫌がらせ（悪夢を見せるなど）を日本の観光のついでに行ったらなんと犯されてたんですよ。

あの時は引きましたね。

見た目は幼女だけど実年齢は違うではなく実年齢も若い幼女を犯してるのを見たら、うん。普通に引きました。

その後とりあえず当主と言う名の変態をばれないように気を失わせ幼女時の琥珀の話を聞き変態にも理由があつたならしょうがないと思っただけ私は思っただんですよ。

この子使えるんじゃない？ と、

そこですかさず取引を試みました。

内容は私はあなたが犯されなくてもいいようにするその代わりあなたは来たる時私に協力する。と、

琥珀はすぐさました承、

その後はとりあえず次の日の夜までに琥珀に似たような体型の人形の顔を琥珀の顔に変え琥珀が暴行を受けているときに代わりになるように言い。

あ、あと人形は普段部屋の隅に置いておけばばれないような処理をし、琥珀にも認識妨害用の道具を渡して（人形が相手している間隠れているために）、

その後琥珀とまったく同じ人形を作り上げそれを琥珀の命令を聞くようにし、

さらにその人形とパスがつながると琥珀ともパスがつながるようにしたのを渡したんですよ。

その後は1年置きに人形を変えるためにあつてたんですよ。

いや、一応ね。暴行を受けなくなるわけですから当主が死んだら私に協力しないんじゃない？

とかそもそも当主殺さなくなるんじゃないのかな？ と思っただん

ですけど、

なぜか私に依存しました。

ま、まあ裏切られないんですからいいとしましょう。

けど私が計画（秋葉と志貴を殺す）を話したら笑顔で紅茶に毒を盛りましょうか？　と言ってきたときはさすがに悪寒が走りませんでした、

けど遠野　志貴と遠野　秋葉を殺すにはこの手段もありですよ。話がそれましたね。閑話休題。

まあそんな訳で琥珀ルートはとりあえず気にしないでいいんです。月姫はこんなところですね。

……琥珀にそれとなく真祖の姫君ルートへ行くよう誘導してもらいましょう。

ようは志貴が真祖の姫君を選べばいいんです。あとは修正力が何とかしてくれます。

そしてFate/stay night、

これが一番肝心です。

私はサーヴァントドールを作ろうと思っているんです。

サーヴァントドールは簡単に言えば英霊の情報、あるいは魂を人形に組み込み戦闘時のみその人形を核に英霊を受肉させかつ人形として使役出来ると言う人形です。

……おそらくこれは出来ます。

ただ聖杯と大聖杯の両方を調べないときついでしょう。

だから私はどのルートでもイリヤスフィール確保、

ついでに天のドレスも貰いましょう。

あとアインツベルンのホムンクルスの技術も、

それ以外では士郎の中にあるアヴァロンをいただこうと思っているぐらいなんでFate/stay nightではどのルートでも問題ないですね。

……いえ桜ルートだと厄介ですね。

まあ私はFate/stay nightはセイバーと凜がヒロ

インのルートしか知識が無いんで桜ルートはネットなどで知った知識だけなんですけどかなり少ないんですね。

知ってるのは桜が黒聖杯でサーヴァントが黒化するぐらいですし、まあこれらは置いておきましょう。

まず士郎は凜でも人質にとりあなたの持っているある物をくれるなら助けてあげる。と言えばくれそうですし、

イリヤスフィールの確保、これも問題ないでしょう。

セイバールートならバーサーカーが消えるときにでも横からかつさり。

凜ルートならギルガメッシュが襲撃する時にでも助ければいいですし、

桜ルートなら……どうしましょう？

いっそのこと桜を殺しておきましょうか？

そうそうサーヴァントドールが作れると思う自信は2つ、

1つ目は自身の人形技術、

2つ目はスワツティス家、

スワツティス家は歴史が古い。

すくなくとも1800年ほど前とアインツベルンの約倍、

すくなくとも理由は歴史が長いから、

魔術などは迫害される。

代償的な例が魔女狩り、

つまりスワツティス家は歴史が長いがため迫害されたことも多々あつたらしい、

そのため各地を転々としたこともあつたとか、

それ以外にも長いため起きた不測の事態などもある。

酷い時は魔術刻印は受け継いだもの先代に魔術をすべて習う前に先代がなくなり魔術を書物からほぼ独自に会得した者もいたとか、

つまりそんなことがあるぐらいだから一族の歴史を記した本なんて時折逃げる際に魔術書とかを優先して持ち出せないものを焼き払うとき持ち出せなかったものに含まれていたり、

まあその後書きなおすんだが徐々に昔のことはあやふやになって行く
ちなみに最長だと普通に紀元前に存在したことになってる。

いや魔術刻印に飛行魔術が刻まれているから絶対じゃないともいえない。

まあそんな一族ゆえか生きのころために色々な方面の魔術に手を出している。

しかし本業は召喚術や交霊術系だ。

サーヴァントの召喚だって出来なくもない。

……たぶん、

そして時折思っスワツティス家は邪神が私の為に生みだしたので
はないか？ と、

だってこんなでたらめの一族普通原作で話ぐらい出てきてもおかしく無いじゃん。

まあ考えても仕方がないです。

てかよくこんな一族の当主を封印指定しましたよね。

幼いから舐められたんですね。

やっぱし時計塔滅ぼしましょうか？

いえ、面倒ですね。

まあこんな所が現在の目的ですね。

あ、後バゼットは助けましょう。

4日間？ の、なんでしたっけ？ ほ、ホロウ？ は知識がこれ

またないし面倒そうですね、

うん。これが現在の目的ですね。

今藤乃が中学生ですからもう少しで空の境界の原作が開始です。

藤乃は強いですよ。

魔眼も強力になってますし、透視能力も使えますし多少なら魔術も使えますから、

最後にどうでもいいですけど封印指定解除後家の事を色々知って
から財産管理専用の人形を作り出しました。

専用と言っても必要な知識を詰め込みまくりそれを活かせる思考

と思考速度を持った人形ですけど、

長く生きていても別に私は会社の社長だったとかそう言った経験はないでお金を稼ぐだけならともかくそれを使ってさらに財産を増やすなんてこと出来ないですから、

まあほおっておいても多少は時計塔から入るんですけど、

．．．．．本当に滅ばしてさしあげましょうか？

時計塔所属の魔術師が全員時計塔に集めても宝石の爺と青の魔法使いが居なければ「アポロンAPOLLON」で地図から消せますからね。まあしないんですけどね。

早く原作始まりませんかね。

特にFate/stay night、早くサーヴァントドールの作成をしたいです。

．．．．．あつ、メルブラを忘れてました。

けど私これに関しては知識がないんですよ。

P2のはやった記憶はあるんですけど、

そもそもキャラでシナリオが違ったような、

．．．．．放置ですね。

君子危うきに近寄らず、または触らぬ神に祟りなし、

目的が無いのに接触する必要はないですね。

ともかくFate、Fate/stay nightです。これが一番重要です。

準備は入念にしておきましょう。

TYPE・MOON編 第四話 空の境界へ（前書き）

短いです。

TYPE・MOON編 第四話 空の境界へ

ちくちく、

「出来たー！

ネコアルクー！

・・・・・・何やってるんだろ私」

完成したばかりの普通のぬいぐるみのネコアルクをとりあえず枕元に置くとため息をついた。

ここ最近是人形を作り、魔術の研究をし、『サラサSarasa』の調整などをし、人形を作り、魔術の研究をし、死徒の体で人形を作り、『サラサSarasa』の調整などをし、『サラサSarasa』の調整などをし、『サラサSarasa』の調整などをし少々疲れていたので普通のぬいぐるみを作って気分転換してたんです。

・・・・・・『サラサSarasa』の調整などが多いな、

けど『サラサSarasa』は本当に最高なんですよね。

戦闘能力は1度での破壊力以外では優るかもしれませんがね。

けどまだDoll ノードウスnodusとレジストルRegistreが未知数なんですよね。

どこまでのスキルや能力を得てどこまでのスキルや能力を登録出来るのか、

・・・・・・おそらくはすべて、

すべてであれば予定通りサーヴァントドールを作成できれば英霊ものも得ることが出来る。

その時宝具も能力扱いだと良いな、

あ、得ると言っても元の人形がそれを使えなくなるようなことはありません。

つまりすべてならいずれ『Sarasas^{サラサ}』は最強になる。
いや上手く行けばこの世界で最強になれる。

まあこれはえれないものが出るまですべてと考えておきましょう。
そんなことを考えていると部屋に並べられている宝石の1つが光った。

「この宝石は、

……藤乃ですね」

光った宝石は藤乃との連絡用なんです。

「久しぶり、と言うほどではありませんか。

こんにちは藤乃」

「そうですね。

それと今日は夜です」

「そうですね、

それで用件は？」

「はい。

それが最近妖精騒ぎおきまして、
妖精もみましたから間違いないと思います」

（原作ですね）

「出したら誰かを送り込みますね。

……いえ私が行きます」

「サラサさんがですか？」

「はい。少々用もありますから」

（蒼崎 橙子と話をつけたいですから自分で行くべきでしょう）

「では藤乃はそれまでに調べておきましょうか？」

「いいいいです。」

この件には関わらないでください。

今回の件はおそらく玄霧 皐月という人物が関わってます。

玄霧 皐月の統一言語は厄介ですから」

『「分かりました」』

そうですね。原作は始まってましたが、

早く行かなくては、といっても『人形師の屋敷』の登録してある
ドアの1つは日本ですからすぐに行けるんですけど、

それにしても上手く行けば空の境界での目的はもうすぐに達成で
きるんですね。

うん。がんばりましょう。

どうも現在礼園女学園に來ています。

「分かりました許可します」

「ありがとうございます」

「いえ、やはり保護者としては異国の地に娘を1人置いている以上その学園がどのようなものなのか気になるでしょう」

「ええ、まあ私と藤乃は兄弟のようなものなんですけど私は普段イギリスかロシアに居てなかなか日本にはこれませんから」

どうも今は学園内見学の許可を貰いました。

その後は冬休みと言うことでその後は藤乃を連れて帰ることになるんですけどすでに学園に両儀 式がいることは確認していますのでその接触が目的ですから玄霧 皐月の確保は使い魔などで両儀式が動けばわかりますからその時動くつもりです。

「では、失礼します」

「あら藤乃じゃない」

む、思ったよりも早く会えましたね。

「黒桐さんこんばんは」

「そっちの人は？」

「私の保護者のサラサさんです」

「保護者って」

まあ不自然ですね。

年齢は私の方が少し上ですけど見た目は同じぐらいですから、

「はじめまして私はサラサ・スワッティスと申します。

藤乃とはあまり年齢が変わりませんが少々わけありで保護責任者
をしています」

訳ありと言えば聞いてくる人は殆どいませんからね。

「あ、私は黒桐 鮮花です。

でこっちが——」

「両儀 式だ」

「そうですか、

ではあまり時間ありませんので失礼します」

私と藤乃は会釈をすると2人と別れた。

「サラサさん。

先ほどの両儀 式と言う人が直死の魔眼を持っている人ですか？」
「ええそうですよ」

「・・・もしも私が戦ったらどっちが勝ちますか？」

「・・・おそらく歪曲の魔眼の使用を7回以内で仕留められるかどうかで勝率が変わりますね。

7回を超えてからでは藤乃の勝率は3割程度でしょうか、

まあ周囲の被害を考えなければ7、8割でしょうか？」

「そうですか」

「では校内も回りましたしドアも登録しましたから瞬時にこれからです
から行きましようか」

「はい。」

可愛がってくださいね」

「・・・ん？」

おお、始めましたか、

ふふふ遂に統一言語が手に入るかも」

2日経ちました。

遂に両儀 式が動いたみたいです。

「・・・どうしたんですか？」

「あれ起しちゃいましたか？ すいませんね。

両儀 式が動き出したみたいなんで行って来ますね」

「私も行きましようか？」

「大丈夫です」

「分かりました」

私は服を着ると登録しておいた礼園女学園内にある扉へと扉を繋

げ扉を開いた。

どうでもいいですけど藤乃も裸です。

何をしていたかは御想像にお任せします。

さて現在は『ジャッジメント judgment』を装備して上空から両儀 式と
玄霧 皐月を見えています。

「さてと近づくとめんどろですから手っ取り早く^{アルテミス}Artemisで
終わらせますか」

余談ですけど私は魔術師の家系に生まれましたから魔術師としての
プライドとかもあるんで魔術師と闘うさいは魔術師として戦った
りはします。

まあ魔術師の前に人形師で人形遣いですからそこまで気にしませ
んけど、

「『^{アルテミス}Artemis発射』」

「なっ」

両儀 式は驚愕の声を上げた。

それはそうだろういきなり対峙していた玄霧 皐月の胸を何かが

貫いたのだから、

そして玄霧 皐月が人の切れた操り人形のように倒れるとそのすぐそばにサラサが降り立った。

「夜分遅くに出歩くと危ないですよ両儀さん」

「・・・お前は確かサラサ・スワツティスだったか」

「はいそうです」

「魔術師か」

「はい。」

とはいっても私がようがあるはこの死体だけです。失礼させていただきます」

言つとサラサは玄霧 皐月の遺体を『人形師の蔵』に入れた。

「それでは御機嫌よう。」

そうそう近々蒼崎 橙子の元へ行きますのでそこでお会いしましょう。

では」

そう言い残すとサラサは鍵を回し扉を出すとそこに入り消えた。

「・・・・・・・・なんだったんだ？」

いきなりの出来ごとに啞然としていた式はサラサが消えて数秒立つとそう呟いた。

「ふふふ玄霧 皐月の死体を手しました。
後は蒼崎 橙子と接触すれば空の境界での目的は終わります」

なんだこの状況は？

「なあ黒桐あの2人の話理解出来るか？」

「ごめん式僕にもさっぱり、

鮮花は？」

「すいません兄さん私にも何が何だか」

今日の前には橙子とこの前あったサラサ・スワツティスが笑いな
がら会話している。

内容は人形について、

可愛らしい内容に聞こえるが実際は違う。

さっきまで人形の内臓部分について話し合っていた。

サラサ・スワツティスはまたお会いしようと言った通り会い
に来た。

3日前に手紙をよこすという気づかいまでして、

そして私はサラサ・スワツティスを警戒していた橙子曰くサラサ・
スワツティスは8歳の時の橙子と同じ三原色の中の1つである「黄」

を得て10歳の時に史上最年少でこれまた橙子と同じ封印指定の魔
術師になったにも関わらず12歳の時に時計塔を制圧する形で脅し
て封印指定を解除させた橙子曰く今世紀最も才に恵まれた魔術師、

そんな訳で警戒していたんだがサラサ・スワツティスはにこやか
にお土産でケーキを持ってやってくると橙子と人形の話をし始めた。

橙子も初めは胡散臭そうにしていたのに途中からなんか紙とペン
を取り出した2人でなんか書き始めたし、

にこやかに会話をしていたかと思えばいきなり口論になったり、口論になったと思えばまたにこやかに会話してるし本当に何が何だか理解できない。

そしてなんかサラサ・スワッティスは満足したのか返って行った。なんか肌がつやつやしてた気がする。ついでに橙子も、橙子はここまで語りあえる奴がいるとはと呟いていた。

なんとも充実した時間でした。いまだかつてあそこまで語り合えた人はいません。今回も新しい人形の機構理論が出来ましたし、また話しあう約束もしましたしああ本当に良い日でした。

惨劇、あるいは悲劇それは唐突に誰もが予期せず起こるもの。

これもそんな1つの出来事、

サラサが日本の別邸で橙子と人形について語り合っていると唐突に青子がやってきてしまつて起きた惨劇、

他人の屋敷であろうがなんであろうが場所なぞ蒼崎の姉妹は気にもせず殺し合いを始める。

それは青の魔法使いにして破壊の魔術師と赤の魔術師にして人形師による地上で最も危険で過激な姉妹喧嘩、

あわてて結界をはる黄の魔術師にして人形師にして人形遣いにして魔法使い。

しかし努力の甲斐なく結界は破れ崩壊していく屋敷、

そしてついに被害は工房にまでおよび工房が壊滅したことで遂に切れる黄の魔術師にして人形師にして人形遣いにして魔法使いは禁句を口にする。

叫ばれた言葉は「いい加減にしないと殺しますよ痛んだ赤に青々が」、

そして始まる時計塔から三原色の称号をそれぞれ授かりし者たちによる三つ巴の戦い、

「………酷い夢です」

しかし夢落ちで心底よかった。

さてといきなりですが月姫は終わりました。
だってやること無いんですよ。

普通に真祖の姫ルートでしたから真祖と直死の肉体の確保は殺人鬼が有名になって自身で探れる手立てが無くなった時が狙い目なんです。

あ、そうそう弓塚 さつきの肉体は確保しました。

ふふふ、すばらしいスペックです。

できれば固有結界の使える人形にしたいですね。能力持ち（ホルダー・ドール）にしようとして成功すればできるでしょうか？

まあ確実じゃないんですけどまだいじってないんですよ。

「よろしいんですかサラサ様秋葉様をまだ生かしておいて」

魔術による遠距離会話で琥珀が聞いてきたので答えます。

「構いません。」

遠野 志貴は近々真祖の姫の為に生きるようになります。
その時交渉する際にこちらには手出しできなくさせます。

あとは私に何かしたら人形が壊れるとでも言っておきましょう」

「では私は今まで通り仕えていますね」

「ええ、頼みます」

私が答えると通信が切れました。

「さてと人形の戦闘テストのために死徒でも狩りに行きますかね」

それにしても戦闘用の人形のテストが面倒ですね。

HUNTER×HUNTERの世界では楽だったんですけどね。

・・・え？　なんで楽だったかって？

ヒソカです。

ヒソカと戦わせるんです。ヒソカも喜んで引き受けてくれましたよ。

アンケート

どうもです。

サラサのさらなるチート化（人形によるものではない）についてのアンケートです。

私は唐突に思いつきました。

第1魔法「無の否定」：その名の通り無を否定する魔法、

例：死者が蘇る可能性は通常は無であるのでそれを否定し有にしてその人物が死んだことを無かつたことにして蘇らせる。

例：自身の魔力が尽き無になった時それを否定し有であるとし魔力が尽きたことを無かつたことにして魔力を生み出す。

「無を生み出す」というやつに関しては一応無を否定して無かつたことにするからその無が無いという無を生み出してゐるって無理やりしてみたんですけど他に思いついたら追加します。

ついでにもうひとつのパターンがありましてキリスト教が聖書がどこかからあったと思ったものから無からの創造です。

例：無であることを否定して無から何かを創造する

私はこれを思いついた時思いました。

これいけるんじゃない？ と

そのためサラサにこれを使うようにするかのアンケートです。

2つを分けるのが面倒なので両方合わせて「無の否定」とします。

まあ初めのは無からの創造の方で合わせると消えちゃうんですけど、

一応無からの創造で人形の何かを生み出したりはします。

1、すでに魔法使えるし、いない。

2、 覚えても問題ない。

上の2つからお選びください。

なおサラサが使わないとなると邪神に最も近き者は世界を廻る（タイトルは仮です）のアビスが型月の世界に行った時使えるようになる可能性が高いのでむしろアビスに使わせたいと言う方は1にいらしてください。

アンケートが少なかったり無い場合はその時の作者の気分で決まります。

締め切りは7月31日までです。

どうぞよろしく願います。

さてこの世で最も優れた燃料はなんだろうか？

ハッキリ言って私は知らない。

なんせ転生を繰り返しても人型ロボットが戦ってる元々私が居た世界主観で科学が発達している世界に行ったわけでもなく、

今後の為にと色々な方面の勉強をしたわけでもなく、
していたことと言えば人形関係の一言に尽きます。

もっとも途中で念が入り、まあこれはすぐに限界に気づき殆どやめました、

今は魔術があるが人形が1番であることに変わりはありません。
話がずれましたね。閑話休題。

そのため私は科学方面では答えられない。

では神秘、魔術方面では？

マナ？ 否、血肉？ 否、答えは魂、

さてまた話がずれますが私の魔術の力量はどれくらいのか、
ハッキリ言って私は使える魔術のほとんどが魔術師の中でトップ
クラスに位置している。

才能も異常と言っている、念は逆の方向で異常でしたけど、
さてでは私は各分野でトップに立てているかと言うとそうではな
い。

まず人形、これはこの世界のものでと限定すれば私は蒼崎 橙子
と互角か僅かに上でしょう、

次に私の起源の関係もあり得意の破壊の魔術、これは他から見れ
ば異常だが蒼崎 青子には及ばない。

他の魔術だってゼルレッチと比べれば大抵しただろう。あれなん

てチート、あれですがなんたらルビーと同じく平行世界の自分の技術をダウンロードしてるんですかね？

辛うじてゼルレッチを上回りトップに立ってる可能性があるのが召喚魔術や交霊術系と投影魔術、

いや召喚魔術や交霊術系は上回っているでしょう。

しかし確実とは言えない。まあ抜かれてたら泣きますけどねスワッティス家の長き歴史が、と

ただ1つ確実に上回っているものがあるそれは魂の扱い。

召喚術や交霊術系も魂関連と言うこともあり得意だったのが第三魔法に至り向上されたのか、かなり上がった。

これだけは間違いなくトップだろう。

さてさらに話がずれますが私は人の死体を元に人形を作ったりしているがはたしてそれはどこから調達しているのか、

答えはこの世界ではほぼ調達しておらずほぼストックのみ、

この世界の魔術師は人を殺してはいけないなどと言う考えは殆どないが一般人をバンバン殺している訳ではない。やりすぎると時計塔が五月蠅い。

そのため私は死徒を狩ってその死体以外はHUNTER×HUNTERの世界でストックしておいた死体を使っています。

元々死体を使うのを本格的にやり始めたのもHUNTER×HUNTERの世界からですし、それ以前はスキルで近くで人が死ぬと分かるのでその現場に急行し回収したものをつつたぐらいです。

そんな訳でHUNTER×HUNTERを旅立つ前にストックした死体があるわけですが、これは今後の世界で人を殺しすぎると面倒になる世界の場合の為にストックしたもので仮死状態にしている者も多い。

しかし思いついたのがグリードアイランド前ぎりぎりなのであまり選別せずストックし、私は死体がメインと言うわけでなくいまさらにあまりよく無いため処分しようかと思うものが多々あったんです。けど思っただんです。完全な死体で無いため肉体に魂が定着してい

る。そしてそれは処分しようと思っている。何かの実験代にして失敗して壊れても問題ないと、

そして私はそれと同時に鋼の錬金術師の内容を唐突に思い出ししました。

そして考えました賢者の石できないだろうか？

いえ、けしてあんなものを望んでいるのではなく魔力を私に供給するものにならないかと、

実験の結果成功しました。

魂を凝縮した魔力炉、賢者の石が、

賢者の石と言っても魔力を生み出すだけですけど、

ちなみに賢者の石の作製に使用されたのは70人分の魂、内20人分は実験段階で消失、つまり賢者の石は50人分の魂を凝縮させた物体。

余談ですけど賢者の石の作製には第三魔法を応用し使用したので作れるのは第三魔法を使える者だけでしょう、ついでに鋼の錬金術師の賢者の石のようにリバウンドなどは無い。魔力を生み出すだけですし、

さてこれで最初の内容に戻るわけですが魂は優れた燃料になるため魂を凝縮した賢者の石は当然膨大な魔力を生み出す。

うん。すばらしいです賢者の石、

さてなぜ私が賢者の石を作ろうと思ったのか、けして先ほど述べた処分しようと思いついたからだけではありません。

元々異常な魔力量を誇る私はまああった方が良いことは良いですが基本的に魔力が尽きたことがあります。

何をするにも自分の魔力で殆ど事足りますし、処分だって適性が低くても使い捨ての人形とかに使い道はありました。

そんな中で賢者の石にすることを選んだのは現在私の左手の甲に刻まれている令呪が原因です。

邪神曰く私に令呪は聖杯戦争開始1年前に現れるようにしたとのことなのであと猶予が1年となりました。

本来私は聖杯戦争に置いてサーヴァントを3体呼び出すプランを考えていました。

それは令呪の分裂です。

分裂といっても本来3回の命令権を酷使用する令呪をそれぞれ分け、つまり1つの令呪で命令3回なのを1つの令呪で命令1回にし、それを3つにするつもりでした。そこに召喚魔術などでは一応基礎である呼び出した術者を傷つけられないという呪いを刻むつもりでした。

しかし本物をみて気が変わりました。

ぶっちゃけ複製できません。

とはいえいくら私でも聖杯の補助が無く英霊の召喚はきつい、

なら聖杯のルール内で組み変えたらどうだろうか？

サーヴァントはルール上7騎、

なら私1人でその7騎を完結させたら？ と思ったんです。

はつきり言って私でも完全に大聖杯への介入は不可能でしょう。

たしかギルガメッシュですら賞賛したぐらいですから、

しかしサーヴァントシステムは私の得意分野が目白押しです。

できるかどうかはもっと研究しないといけないですが今の段階では5割の確率で成功します。

ただ成功したとしてもいくら異常な魔力量を誇る私でも7騎のサーヴァントを維持し、戦闘させ、さらに宝具なんか使われたら魔力が尽きます。

どうしようかと思っていたところ唐突に思いついた余っていた死体（仮死状態）達を使って賢者の石にするという案を採用したんです。

まあそんな訳で現在はサーヴァントシステムと聖杯システムについて研究中です。

まあ召喚系の下地は始まりの御三家より家の方が上なので行けそうです。あれもありますし、解析眼ありますし、

サーヴァントドル作製のためには少しでも多くのサーヴァント

がサンプルとして手元に欲しいんで少しの無理はしますが、
あ、サンプルと言ってもばらしたりはしませんよ。じっくり時間
をかけて解析したいだけです。

「——そうですか、分かりましたありがとうございます」

言っと私は通信を切った。

先ほどまで話していた相手は琥珀です。

遠野 志貴の様子を来たんですが現在は落ち込んでいるのに無理
しているそうです。

（殺人鬼として行動するまでもう少しかかりますかね？）

とすると殺人鬼こと遠野 志貴と交渉する前に聖杯戦争ですかね。
サーヴァントドールの為に頑張りましょう。

あと聖杯システムへの干渉も、

（そのためにはあれの調整ももう少し必要ですね）

私はそう判断すると工房に向かった。

「さてさて第五次聖杯戦争は本当にどうなるんでしょうね」

サーヴァントを七騎召喚しようとしていた最低度も三騎召喚は確実な私、アンリ・マユによって汚れ歪んだ大聖杯、アインツベルンの聖杯とは別のマキリの黒聖杯、

「そして私の人形聖杯」

私の目の前にはイリヤスフィール・フォン・アインツベルンの母にして衛宮切嗣の妻アイリスフィール・フォン・アインツベルンとまったく同じ姿をした人形があった。

これが私がほんの少し第四次に介入した結果、内容は誰にもばれずにアイリスフィールを観察し解析してまったく同じ人形を作り上げただけ、

うん、最近邪神からもらった解析眼が一番チートな気がしてきた。だって解析だけでも時間をかければいいんだもん全く同じ人形を作るための情報が、

「三つの聖杯か、

マキリのは早々に破壊したいですね。

小聖杯は一時的に英霊の魂をためますからぜひ手元に欲しいんですね。

マキリのだと汚れそうですし、てか汚れますね」

まあイリヤスフィールと間桐 桜が取引に応じてくれたら聖杯としての機能を壊せば残った聖杯である私の聖杯に流れ込んできますよね。

「さてさて色々やる必要がありますし早速始めますか」

TYPE・MOON編 第八話 聖杯戦争への準備（後書き）

サラサのサーヴァントが七騎になるかもフラグは Fate/complete material IV Extra material. を買いそこで出てきたジャック・ザ・リッパーとフランケンシュタインが気に入ったので立ててみました。人造人間だからフランケンシュタインはサラサと相性よさそうですし、七騎になるかは未定です。以下おまけです。

サラサがサーヴァントになった場合のステータス、

【クラス】 キャスター、ドールマスター（イレギュラークラス）

【真名】 サラサ・スワッティス

【性別】 男

【身長・体重】 160cm 46kg

【属性】 中立・中庸

【筋力】 E 【魔力】 A++

【耐久】 E 【幸運】 B

【俊敏】 D 【宝具】 EX

【クラス別能力】

- ・陣地作製：A
- ・ドールマスターとして呼び出された際はBランクに低下、
- ・道具作製：A
- ・人形作製：EX
- ・ドールマスターのクラスで呼び出された際のみ、

【保有スキル】

- ・魔術：A
- ・魔眼：A++
- ・A++は解析眼だが他の魔眼も一応ある。
- ・糸操術：A+
- ・ドールマスターとして呼び出された際の実、
- ・人形操術：EX
- ・ドールマスターとして呼び出された際の実、

【宝具】

- ・直死の魔眼：EX
- ・人形師の蔵：E→EX
- ・ドールマスターとして呼び出された場合のみ、サラサが作った全が入っている。
- ・第三魔法：EX
- ・キャスターのクラスとして呼び出された場合のみ、使用すると魔力、耐久がEXとなり単独行動スキルがEXでつきマスターを必要としない。
- ・第一魔法：EX（未定）

キャスターとして呼び出された場合のみ、7月31日の結果では消える。

・ ■ ■ ■ : EX

未登場の為伏字、

「は」

私は現在スワッティス家本邸の地下倉庫で休んでいます。

スワッティス家は複数の別邸と本邸がありますが本邸は敷地が山1つ分です。ちなみに日本の別邸は私が勝ったものです。

あ、本邸は城です。

お金ですか？ 元々あったものに＋して私が作った人形が株とかで儲けてます。

私の人形の技術の内には明らかにオーバーテクノロジーのコンピュータの作製方法とかありますからね。そらのおとしもののエンジニアのAIとか、まあそれでハッキングして情報を集めたり計算したりとかして稼いでくれます。金を稼ぐためだけに生まれた人形………なんか嫌ですね。

話がずれましたね。閑話休題。

スワッティス家本邸には地下がありその中でも特別な場所が複数ありますたとえば儀式場や地下倉庫、

地下倉庫は長い歴史を誇るスワッティスが集めた品々が保管されている。

まあ何度が失ったりしたんですけどそれでも大量にあります。普通に宝具級のものとか転がっていますし、

そんな訳でこの地下倉庫普通の人間は当然のこと並の魔術師では発狂してしまうと言う一種の魔境になっています。

ちなみに本邸は敷地内に様々な魔術的な防衛機能があり、本邸内には魔術的以外に科学的なものまでありますが、地下には私や本邸

を構えてからの歴代当主が呼び出した魔物などが防衛してますので地下の最も奥にある地下倉庫への侵入は死徒27祖クラスでもきついと言いか殆ど無理です。

まあ中には出来そうなのが居ますけど、

そんな場所に私がいるのは聖杯戦争に呼ぶサーヴァントを決めようかと思っただけです。

まあここが静かに考え事するにはてきしていると言つのもあるんですよ。

最近と言つかこの世界に来てから思うんです。

私1番は人形師と人形遣いですけど魔術師も会っんですよ、または話がそれました閑話休題。

サーヴァントは一応7騎決めますけど無理だった場合はその中から3騎に絞ればいいわけですし、

さてそんな訳でサーヴァントですが本来呼び出そうと思っただけはあきらめました。

そのサーヴァントの名前はガウエイン、Fate/EXTRAで出て来ましたからステータスが高いのは保証済みでマスターに従うのも保証済みで呼び出したかったですけど、ほら今度の聖杯戦争はアーサー王でてくるじゃないですか、聖杯戦争のマスターに従うのか生前の王に従うのか、たとえばマスター従ったとして生前の自身の王を迷わず切れのかと言う不安要素が会ったんでやめました。ちなみに呼び出せると思っただけはガウエインの鞘の一部なるものがあったからです。

ガウエインをやめたため決まったのは赤セイバーことネロ・クラウディウス・カエサル・アウグストゥス・ゲルマニクスです。

基礎ステータスはFate/EXTRAではプレイヤー次第ですから分かりませんが対魔力はセイバーのクラスなのに低いんですけど皇帝特権EXでしたっけ？ は魅力ですから、ちなみに触媒はネロ・クラウディウスが使ったとされる杯です。

次がキャス狐こと玉藻の前です。赤セイバーと同じく基礎スペッ

クは不明ですけど呪術EXは魅力的です。もしかしたら悪霊として呼び出すかもしれませんけどスペックが上がりますから儲けものでしょう。触媒は毛です……。毛ってなんでしょう毛ってよく回収出来ましたね。そもそもこれ本物でしょうか？

次はジャック・ザ・リッパです。捕まらず姿が見られなかった殺人鬼ですからアサシンとして召喚すればいいのになるでしょう。

……。あれ？ ジャック・ザ・リッパは英霊になったんでしょうか？……。なつてたらいいな、てか無理な気がしてきました。触媒はジャック・ザ・リッパのナイフです……。どうやって特定したんですかこれも、和が先祖よ、。

次が、第四次聖杯戦争でも呼ばれたデイルムツド・オディナ、あの忠義が良いです。聖杯戦争に参加したのも聖杯が欲しいと言うのではないのも+ですね。宝具も良いですね。触媒は鎧の欠片です。次が呂布、ステータスは高いでしょう。裏切りさんですけどそこはバーサーカーとして呼ぶか令呪で縛るか呼び出したのち狂化を追加して理性を奪います。触媒は使用していた武器です。なんかありました。

残りの二騎はなんかあった弓の一部と思われるものと私が作った人形で人形とつながりのあるのを呼び出そうと思います。

「まあこんなところですね。

セイバーにネロ・クラウディウス、キャスターに玉藻の前、アサシンにジャック・ザ・リッパ、ランサーにデイルムツド・オディナ、ライダーかバーサーカーに呂布、アーチャーになにか、ライダーかバーサーカーにこれまた何かで優先はセイバー、キャスター、その次がアサシンかランサー、バーサーカーのどれかですかね」

私はサーヴァントに関して考えるのはひとまずやめここに来たもうひとつの目的を果たすことにした。

それに伴い私はこの世界に来てから作り出したタイプYの人形を

呼び出した。

この人形は今から行うことの為だけに生み出された人形、そして私の代ではもう使うことのない人形、その役割は魔術刻印の移植、刻印の移植は負担をかけるため複数回に分けて行う。

私はこれで最後になる。つまりようやくスワッティスの全てを本当の意味で継承したことになるわけです。

「これで行く私がスワッティスの真の意味での継承者、感慨深いものがありますね」

さてさて準備と探究を続けましょう。

あ、それで宝石の爺が聖杯戦争にからんでましたね。なにか話を聞いてみましょうか？

TYPE・MOON編 第十話 サーヴァント

「ミスりました」

サーヴァント召喚、

実際に行いました。

七騎を呼び出そうとしたんですがミスしました。

いくつかありますけど順を追って説明していくと、

まず七騎のサーヴァントを呼ぶ儀式が七体のサーヴァントを呼ぶ儀式に変動しました。

これによってクラスが別のサーヴァントが呼ばれず重複する可能性ができました。現に私の元にバーサーカーとキャスター2騎来ました。

次に触媒があいまいで呼び出せたのは1体のみ、弓はただのすごい弓だったみたいです。

まあ説明も面倒なので呼び出したサーヴァントを紹介しましょう。

まずクラス：セイバー、真名：ネロ・クラウディウス、

次がクラス：アサシン、真名：ジャック・ザ・リッパー、

3 騎目がクラス：ランサー、真名：ディルムッド・オディナ、

4 騎目がクラス：バーサーカー、真名：呂布、

5 騎目がクラス：キャスター、真名：玉藻の前、

ここまでは予想通りです。思ったことはあれ本当に九尾の毛だったんだとジャック・ザ・リッパーって女の子だったんですね程度です。

残りの2 騎士は予想外でした。

まずクラス：バーサーカー、真名：フランケンシュタイン、

かの有名なフランケンシュタインが生み出した人造生命体です。
この子の意思はある程度分かります。バーサーカーですけど私的にはフランケンシュタインの創られ方での人造生命体のカテゴリーが人形だからでしょうか？

最後はクラス：キヤスター、真名：ナーサリーライム、

あれ？ 童話じゃない？ と思いましたがゲームをやった時にも考えたのでまた考えるのはやめました。

ちなみに触媒は魔法陣の外にあった童話の本とされます。

私は童話からライトノベル、文学書まで本なら何でも好きなんですよ。

けど外にあつたはずなんですけどね。

以上が私の七体のサーヴァントです。

結構豪華な面々ですね。

あ、呼び方ですけどキヤスターとバーサーカーはかぶるのでフランケンシュタインをフラン、ナーサリーライムをさらさと呼ぶことにしました。

あ、さらさは私と同じ容姿でしたよ。

……なぜか女でしたけど、

呼び方は原作から取りましたけど私が更紗かサラサなのでさらさです。

ややこしくなったら原作のアリスの姿になってもらってアリスと呼びます。

そうそう全員の聖杯戦争への参加の理由はまずセイバーが私の純粹かつ強い願いに引かれたからだそうです。だから聖杯に興味が無いとか、

純粹で強い願い、間違いなく神の人形を創りたい。死の無い完璧な人形が創りたい。すばらしい人形を作りたい。美しい人形を作りたいとかですね。

キヤスターは良妻になりに来たとか、

………保留ですね。あとセイバーと同じく聖杯には興味が

無いとか、

ランサーは騎士として忠義を貫きたいらしい。

いいですねそう言う一途な願いは好きです。そうそうランサーもまた聖杯には興味が無いとか、

アサシンはよくわかりませんが家族が欲しいんですね？

とりあえず私をおかあさんと呼ぶのはやめるように言いました。いくら女性に見えても私は男性です。なんか聖杯にはあんまり興味が無いようです。

フランは私が伴侶に欲しいそうです。

……あれですかね？ 人形師、人形遣いと言うのは人形に好かれる者なんですかね？ 聖杯は一応私のそばに入れれば言いそうなのでもういらなそうです。

さらさはよくわかりませんが自分の居場所と幸せが欲しいく本物になりたいそうです

居場所が欲しいなら私のそばに居ればいいんです。だって私がサーヴァントを逃がすわけがないでしょう？ 本物になりたいならサーヴァントドールが完成したらそれを元に人形として個にしてあげます。

そういつたら聖杯はいらないと言われました。

バーサーカーはフランのように人形ではないので何考えてるか分かりません。

……私のサーヴァント聖杯に興味内のばっか！

まあ都合です。

ではではサーヴァントも手に入ったことですし、

今度は聖杯の調整をしないといけませんね。

TYPE・MOON編 第十話 サーヴァント（後書き）

アンケートの結果ですが、結果第一魔法を覚えさせることになりました。

アンケートのご協力ありがとうございました。

サーヴァントのステータスですが基本的にはもとのやつを魔力だけランクを上げる予定です。

けど赤セイバーとキャス狐はどうしましょう。

白、否色がない。

現在サラサは色がない空間を漂って居た。
その空間にサラサは覚えが会った。

「……………説明は貰えますか？ 邪神？」
「当然ですよ」

サラサが言うとも目の前によくわからない美しい神殿と邪神が現れた。

「私は根源に再度到達したと思ったんですけどね」
「安心してくださいそれは確かです」

サラサが根源にたどり着いた方法は目の前にいる邪神から与えられた技術の中の魂に関係するものとスワツティス家の魔術を組み合わせ応用すると言う方法だがそれは当然サラサ独自の方法でスワツティス家は別の方法での到達をしようとしてきた。

それは召喚と送還を利用したもの、

根源は基本的に到達した瞬間にその魔術師はあちら側に行つて世界から消失し、この世界には帰つてこない。

つまりあちら側のものは根源と繋がりと考えられる。

ならあちら側のものを召喚し、送還する時に自身もそれに乗れば根源に近づけるのでは？ と考えたのだ。

サラサはそれに最近になり玄霧 皐月の頭から得ることに成功した根源の門である統一言語を加え実行し成功した。

もつとも統一言語に関しては根源の門としての役割以外では元々の資質の問題か魔術が使えるにも関わらず出来ることは玄霧 皐月とあまり変わらなかったが、

「それが分ければ十分です。

で、なんの用ですか？」

「もう少しいろんな話しましょうよ。久しぶりなんですし。まあいいですけど、

用件はあなたにあたらしい能力をさしあげます」

「・・・・・・なんで？」

「そうですね。余裕が出来たからです。

あ、質問は最後にしてくださいね。

まず転生者の特典ですがそうですね転生者をパソコン、特典をUSBメモリに入れたデータだと思ってください。

まず転生者の空き容量が1000GBとしてその転生者が500GBと相当の特典を頼むとパソコンにUSBが取り付けられデータを移すことが出来ます。

ただしこの際に転生者と能力の相性などによつては同じ特典でも転生者Aは200、転生者Bは500などになったりします。

容量が満タンになったらUSBメモリをさしっぱなしにするしかありませんが当然接続口の数には限りがありますのでその時点で終了です。

また特典によつてはUSBメモリ複数に分けられている場合がありますので接続口一か所につき1つの特典とは行きません。

ああ、元々1つはすでに特別なUSBメモリがさしてあるためその転生者が転生後自身で培った物は普通に残ると考えてくださって結構です。

で、貰った特典のデータは場合によつては、まあ完全に自分のものにした時などですけど、圧縮することが出来たりして空きが出来たり、パソコンをカスタムして最大容量が増えたりもするんですよ。

で、あなたはだいぶ前にデータを圧縮していたんですけど、空気が出来たら新たな能力を授けるなんて規則も何もないんでほおっておいたんですけど、このたびパソコンの最大容量も増えたので気まぐれで特典を授けに来たんですよ。

感謝してくれていいですよ？」

「わーありがとうございます」

邪神がちらつと自身を見ながら言ってきたのに対しサラサは無表情で答えた。

「もうすこし反応してくれてもいいじゃないですか、

で、何が欲しいですか？ ああ、無理なのは無理と言いますから」

（欲しいもの、か、

．．．．．思いつかない）

サラサが今最も欲しいものと言ったら神とまったく同じ人形を作る技術と死の無い完璧な人形を作る技術だがそれは自身が自力でたどり着くのに意味があるため願おうとは思わない。

サラサは自身が欲しいものを考え物語などの中からも探した。

（．．．．．とりあえず6つ浮かびましたけど2つは無理ですね。たぶん、

4つ全部もきついでしょうから3つに減らしましょう）

「．．．．．決まりました」

「なんです？」

「まず魂の保護」

「内容は？」

「魂を斬る、破壊するなどと言った魂に害になるものから魂を守る能力」

サラサが魂の保護を選んだ理由は人形に転生できるため不老不死といってもよく第三魔法により完全な不老不死になれるサラサの唯一といっても良い死亡条件が魂の損傷だからだ。

もともと第三魔法で完全な不老不死になればその可能性も皆無といってもいいほどに消えるのだが、

「分かりました。まだいきますよ」

「機巧少女は傷つかないの人形遣いの技術と人形師の知識と人形を作るのに必要なもの」

「分かりました。必要なものは『人形師の蔵』に入れておきますね。それにしても人形系への適性は凄まじいですね。化け物ですか？

一種の神ですか？」

「さあ？」

サラサが機巧少女は傷つかないの人形遣いの技術と人形師の知識と人形を作るのに必要なものを選んだ理由はサラサが機巧少女は傷つかないと似た人形を作ることはでき、イブの心臓は元々似たようなことが出来たので他を代用で問題なかったのだが機巧少女は傷つかないの人形のような魔術回路が出来なかったのと作品で神を作ることを目的にするなどがあつたためこの技術を極めれば機巧少女は傷つかない世界の基準の神を作れるかもしれないと思ったのだ。

もともとサラサの創りたい神は作品の中の神ではなく現在サラサの目の前にいる邪神のような神を作りたいため機巧少女は傷つかない世界の基準の神では目的は達成できないのだがそれでも目的の神を作る方法を生み出すための足がかりぐらいになればと思ったのだ。

「で、まだ行けますよ」

「では、アラクニドの蜘蛛の技術」

「分かりました」

サラサがアラクニドの蜘蛛の技術を選んだ理由は自身の戦闘能力に関する。

サラサの戦闘能力はかなり高いが1つづつ取り除いていくと極端に下がる。

まず人形が使えなければ戦闘力は半分以下になり魔術も使えなければ殆ど無いようなものだ。

そして今後そんな条件での戦闘や魔術などが使えない世界に行くことが無いとも限らない。

もちろん曲弦系などによるものがあるので普通の魔術師などから考えればかなり高いが更紗の元の戦闘力から考えれば低い、

そのため底上げしようと思ひ自身と相性がいいだろうアラクニドの蜘蛛の技術にしたのだ。

なにより指一本しか動かない状況で蜘蛛の糸を操り全身を糸で操るほどの蜘蛛の糸を操る技術は魅力的なのだ。

まあサラサも元から対象が自身でなく人形なら楽にでき自身の肉体が対象でも出来ないこともないのだが。

「まだ、たとえるなら接続口一か所分空いてますよ」

「いえ、遠慮しておきます」

あと思いついたのはそれでは無理でしょうから」

「そうですか、

まあまた貴方が特典を得られるようになって気が向いたら上げます」

「ありがとうございます」

「では、を与えます」

邪神が手をサラサに向けるとサラサの身体が光に包まれた。
すると頭に激痛が走った。

「っまたですか!？」

「まあ前ほどじゃないんで大丈夫ですよ。

さて貴方は戻ったら人類史上初の2つの魔法を使う魔法使いですよ」

「そうですか」

「さようなら」

「さようなら」

別れの言葉を言うとサラサはこの空間から消えた

サーヴァント設定（10月3日微変更）（前書き）

ネロと玉藻のステータスはだいたいこんなものだろうということで決めました。

また自動発動スキルは保有スキルにしてありネロは黄金率・皇帝特権と皇帝特権を同じものとししました。

EXTRAキャラ、Apocryphaキャラの宝具のランクはオリジナルです。

EXTRAは身長体重、属性は思いつかだったので載せていません。

宝具のランク、身長体重などにご意見のある場合はお願いします。公式設定があるなら教えていただきたいです。

またすべてのサーヴァントが魔力のみ1ランク上がっています。

サーヴァント設定（10月3日微変更）

【クラス】セイバー

【真名】ネロ・クラウディウス・カエサル・アウグストウス・ゲルマニクス

【性別】女

【身長・体重】

【属性】

【筋力】

B

【魔力】

B

【耐久】

B

【幸運】

C

【俊敏】

B

【宝具】

A₊

【クラス別能力】

・対魔力：C

・騎乗：B

【保有スキル】

・黄金率・皇帝特権：EX

・頭痛持ち：B

【宝具】

・招き蕩つ黄金劇場：アエストゥス・ドムス・アウレアA⁺

【クラス】キャスター

【真名】玉藻の前

【性別】女

【身長・体重】

【属性】

【筋力】D 【魔力】A⁺⁺

【耐久】D 【幸運】C

【俊敏】C 【宝具】A

【クラス別能力】

・陣地作製：C

・道具作製：A

【保有スキル】

・呪術：EX

・変化：A

・魂息吹：C

【宝具】

・水天日光天照八野鎮石：A

【クラス】ランサー

【真名】デイルムツド・オディナ

【性別】男

【身長・体重】184cm 85kg

【属性】秩序・中庸

【筋力】B 【魔力】C

【耐久】C 【幸運】D

【俊敏】A+ 【宝具】B

【クラス別能力】

・対魔力：B

【保有スキル】

・愛の黒子：C

・心眼（真）：B

【宝具】

- ・破魔の紅薔薇：B
- ・必滅の黄薔薇：B

【クラス】アサシン

【真名】ジャック・ザ・リッパー

【性別】女

【身長・体重】150cm 45kg

【属性】混沌・悪

【筋力】C 【魔力】B

【耐久】C 【幸運】D

【俊敏】A 【宝具】C

【クラス別能力】

・気配遮断：A+

【保有スキル】

- ・霧夜の殺人：A+
- ・精神汚染：C
- ・情報抹消：B

・外科手術：E

【宝具】

・解体聖母（Maria the Ripper）：D } A
・暗黒霧都（The Mist）：C

【クラス】バーサーカー

【真名】フランケンシュタイン

【性別】女

【身長・体重】170cm 台 40kg 台

【属性】混沌・中庸

【筋力】C 【魔力】C

【耐久】B 【幸運】B

【俊敏】C 【宝具】C

【クラス別能力】

・狂化：C

【保有スキル】

・虚ろなる生者の嘆き

・ガルババニズム

【宝具】

・乙女の貞節（Scream of Terror）：D
・礫形の雷樹（blasted tree）：A

【クラス】 キャスター

【真名】 ナーサリーライム

【性別】 女

【身長・体重】

【属性】

【筋力】 E 【魔力】 D

【耐久】 E 【幸運】 E

【俊敏】 D 【宝具】 A₊

【クラス別能力】

・陣地作製：A

・道具作製：C

【保有スキル】

・変化：A+

・自己改造：A

【宝具】

・永久機関・クイーンズ・グラスゲーム少女帝国：A+

【クラス】バーサーカー

【真名】呂布 奉先

【性別】男

【身長・体重】

【属性】

【筋力】A+

【魔力】B+

【耐久】A+

【幸運】C+

【俊敏】A

【宝具】A

【クラス別能力】

・狂化：A

【保有スキル】

・勇猛：B

・反骨の相：B

【宝具】

・ゴッドフォース
軍神五兵：A

「ふ」

サラサはスワッティス家本邸の地下室一室で寛いている。

「……………令呪ね」

サラサは両の腕に刻まれた計7つの令呪をみながら呟いた。

「位置が微妙ですね」

思わずその位置をみて呟いた。
スワッティス家の歴史は長い。

当然魔術刻印も膨大だ。

背中を中心に全身へと伸びている感じだ。刻印を浮かべるとイリヤスフィールの刻印が浮かんだ状態と似ているかもしれない。

刻印は左右対称になっているのだが令呪の数が奇数のためバランスが悪くなっており刻印の位置を避けているためさらに微妙になっているのだ。

「それにしても英霊を従えるとは何ともま、あれですね」

サラサは今までに3度英霊をみている。

現在自身が従え現在は時間が無かったため完璧ではないが出来る限り似せて作った人形を依り代して魔力消費を減らし意識を眠らせているサーヴァント、なおフランだけはまだその処置がされてい

ない。作りが特殊で元が人形に近いがゆえに元の作りに多少合わせなければ出来なかったのだ。

第4次聖杯戦争の際に召喚されたサーヴァント、そして初めて根源にたどり着こうとした時英霊が襲撃してきたとき、

あの時は危なかったとサラサはしみじみ思う。

別に殺されても人形の体で復活するのだが同じ方法で成功するとは限らないのだ。

本当にあれが居なければまずかった。

英霊との戦闘の際はなぜか『人形師の蔵』が展開出来なかったため殆ど人形が使えなかったのだ。

サラサはそれが修正力か邪神の仕業かと考えている。9割邪神、

「宝石の爺には感謝しておきましょう」

人形師でも人形遣いでもない魔術師サラサの最大の切り札には何気にゼルレッチが関わっている。

とはいっても強力したのは場の提供だけだが、

ゼルレッチはこのTYPE - MOONの世界の人間ではサラサの身内になった藤乃以外では1番詳しい。

そしてサラサが他世界の出身であることを知っている。

最も真実は告げておらずこちらので言う魔法のようなもので他世界を永遠と旅をする風に説明したが、

そしてサラサとゼルレッチは取引をした。

サラサは他の世界の技術の一部を、ゼルレッチは大っぴらに魔術を派手に行っても問題ない場を出したのだ。

サラサはそこで自身の魔術師としての切り札を生み出した。

スワッティスには様々な魔導書や魔術の知識がある。

サラサはそこからゼルレッチから提供された場で魔物や魔獣などを呼び出し蠱毒を行った。

また魔物の召喚と契約もこの場で行った。

理由は魔物を従える方法ゆえだ。

召喚魔術で使い魔を従えるのは手順は大まかに3種類ある。

1、 召喚、使役の順で行う方法、

これは主に契約を介さず強制的に従えることが可能な雑魚に使われる方法だ。

2、 召喚、交渉（契約）、使役の順の方法、

これはある程度の知性がある者で行える方法だ。悪魔との取引みたいなのもこれに属する。交渉次第で内容が変わるのは言うまでもないだろう。

そしてサラサが行った3つ目の召喚、戦闘、制服、使役、の順の方法だ。

これは召喚した者と戦闘し勝ち、従える方法だ。

戦闘で負ければ最悪死ぬが勝てばその後必要なのがほぼ召喚の際の魔力のみと言うお得な方法なのだ。

もっとも戦闘を行うため強力なものになればそれなりの広さが必要だったためあまり出来なかったのだがゼルレッチの提供で解決された。

そうして生み出された魔術師サラサの魔法を除いたジョーカーの内の1枚、

その切り札は英霊を退けることに成功している。なおその時の戦闘でスワツティス家別邸が崩壊している。

サラサは聖杯戦争でそれを切るのを想定している。

理由は簡単、サラサは聖杯戦争には魔術師として戦いに臨むつもりだからだ。

魔術師の戦闘には魔術師として、別に人形を使わないと言うわけではないが魔術の関しない人形は一切使わないつもりなのだ。

「魔術師の戦争ですしね。

魔術師としての誇りを持った以上魔術師として挑まない」と

サラサは自身の敗北の可能性を考えそれが限りなく低いと判断している。

サラサが警戒する第五次聖杯戦争に出てくるサーヴァントはギルガメッシュだけだ。

他のサーヴァントなら自身の七騎のサーヴァントでどうしても出来る。

ヘラクレスは少々きびしいかもしれないが直死の魔眼を使えば一度で完璧に殺せる。

以前も述べたが直死の魔眼は接近戦に置いてのみ有効だ。

サラサは糸を使うことでその距離を伸ばした。

さらにサラサはアトラスのシオンと取引してエルトナムの技術の一部を得ている。そこに元スワツティス家が保有していた情報と技術と合わせ完全に再現している。

それを使い限界まで脳のリミッターを外す＋膨大な魔力による限界まで肉体強化で一時的に英霊を超える身体能力を得ることが出来る。

もつともその後肉体は使い物にならず一生を寝たきりなら幸運といった状態になるが代わりの肉体があるサラサには問題の無いことだ。

ギルガメッシュもかつて英霊を退けさらに強力かつ凶悪になった自身の切り札、あるいはもう一枚切り札を切れば問題ないと判断している。

まあ慢心せずいきなりエアを叩き込まれれば話は別だが、

「さあて、後は戦争の幕が開けるのを待つただけだね。

戦いにおける勝利という結果は戦う前にきまっている。変わるの
はそこに至る過程だけなのだby私」

サラサは笑いながら呟いた。

「そう言えば第一魔法を使えるのが宝石の爺と青の魔法使いにばれてから私が魔法使い説が流れ始めてるんですよね」

どっちかの仕業なのは確実、
ばれてもそこまで不利益はない。

ただ魔術師の家から自身の家の娘を嫁にと言う話が増えただけ、
それにしても元々多かったためあんまり変わらないし、

「まあ別にいいんですけど、
さて聖杯戦争のための最後の仕上げに入りましょう。私の聖杯も
後は最終調整だけです」

現在間桐 臓硯は冬木市のホテルの一室で魔術師と取引を結んでいる。

きっかけは家に来た使い魔に持たされていた手紙内容は大雑把に説明するまでもなく「取引がしたい。来なければ間桐の人間を根絶やしにして滅ぼす」と言った物と場所の指定、

わざわざそんなふざけた手紙に応じたのは送ってきた人物がそれを成すだけの力を持っていたため、

サラサ・スワッティス、名門であり最古と称される魔術師の大家スワッティス家が生み出した今世紀最高の魔術師と謳われそれに恥じず僅か8歳の時に三原色の黄の称号を授かり、10歳で封印指定に指定され、12歳の時に時計塔を制圧し封印指定を解除させた怪物、

断れば本当に根絶やしにするかは分からないがするだけの力を持った人物で有る以上応じないわけにはいかなかった。

そして指定されたホテルに来ると部屋に案内され取引が始まった。取引は脅しではなく普通に等価交換であり相手の要求が自身にそこまで不利益が無くかつ断れれば滅ぼされた可能性が会ったため応じた。

「それでは頼みましたよ。

臓硯殿、もしも破ったら」

「分かっておる。

間違いない桜はこのたびの聖杯戦争では聖杯として機能しないように調整するわ」

「それは上々」

目の前で微笑む人をやめ200年以上を生きた自身にすら美しいという印象を与える者を見ながら取引の内容を思い出す。

サラサ・スワツティスの要求は今回の聖杯戦争では間桐 桜が万が一も聖杯として機能しないように再調整することと間桐からマスタ―が出て聖杯の獲得を目指すのは構わないが臓硯は余計な事をしてないこと、ただし間桐の人間には何をしようが構わない。と言うもので対価は臓硯の魂の劣化を弱める技術の提供と有事の際の肉体をサラサ自身の人形技術による作製、聖杯戦争で間桐の人間を殺さない。

デメリットよりもメリットの方が大きいため取引に応じた。

サラサ・スワツティスの目的が大まかには分かった。

おそらくは自身の聖杯をメインに聖杯戦争を進めたいのだろう。

その証拠にサラサ・スワツティスの後ろに控えている人物には見覚えはある。

アイリスフィール・フォン・アインツベルン、第四次聖杯戦争の聖杯、何らかの方法で再現したのだろう。

自身の聖杯をメインにしたいがためイレギュラーである桜を排除したいのだろ。

しかし聖杯戦争前に派手に事を起こしたくないため取引を望んだと推測している。

「まあ良い。ワシは第六次聖杯戦争に備えるだけじゃ」

「これで懸念材料が1つ消えましたね」

サラサは臓硯が去ったホテルの一室で息を吐くと呟いた。

どうでもいい話だがサラサには桜を臓硯から解放とかよくオリ主がやることをやるうとは一切思っ居ない。

サラサは魔術師だ。

魔術師として次世代に魔術を伝えるために臓硯がやっていることを正しいことだと思っっている。

そもそも他の家に口を出す筋合いはないしそれはマナー？ 違反だ。

ついでに言えば普通に人を殺し人形の材料にするサラサは人を弄くり改造するくらい気にしない。

だからサラサには桜を助けるという選択肢は取らなかった。

しかし考えなかった訳ではない。

臓硯と取引を結ぼうかと思っただ時にそう言えばオリ主ってよく桜を助けるな、けど直死の魔眼とかルールブレイカーとか多いけどぶっちゃけ無理じゃね？ 最低でも代わりの心臓を用意しないと、と思っただ所でそういえばオリ主って助けた後ライダーと組んだりしてるなと思っ桜を助ける代わりにライダーを手に入れようかと思っただという桜自身のことは一切考えていない考えでだが、

「聖杯戦争が始まると同時に忙しくなりますから余計な面倒はごめんなんですよね」

サラサの元には琥珀から殺人鬼が本格的に動き始めたと言う報告が入った。

聖杯戦争が終わったならそちらの方も動かなければならない。

「聖杯戦争ももう始まりますしね」

すでにバゼット・フラガ・マクレミッツが冬木に入っている聖杯

戦争の始まりも近いだろう。

「さて、準備は万端、

てかギルガメッシュが居なければ余裕で私の軍勢は過剰戦力なんですよね」

「ここまででは順調ですね」

私は現在冬木の別宅に居ます。

別宅と言っても普通の一軒家です。

スワッティス家は別宅をいくつも持っていますが日本のものは私が買ったものです。

とはいっても日本の別宅は他とは違い全て普通に売り出されている物件で魔術的価値のないもの。

まあ日本なんて空の境界、月姫、Fateの舞台と言う以外はあまり価値がありませんから、京都とか好きですけど、

閑話休題、

現在私の別宅の一室にはバゼット・フラガ・マクレミッツが眠っている。

予定通り回収できた。

重傷だったため目を覚ますのは少し時間がかかるでしょうけど、

「さてこれで黒聖杯、ホロウでしたっけ？ というイレギュラー要素は取り除けた。

あとは始まるのを待つだけ、

ほしいものがあるから介入のタイミングは決めてるんですよ。

それにしても聖杯ね。

私には願いをかなえる願望器具は興味が無いものですけど使えはしますよね。

手に入れたら大聖杯からアンリ・マユを取り除いて使ってみます

かね」

「さて始まりましたね」

サラサは冬木に放った目で聖杯戦争が始まったことを確認した。目とはタイプεの人形、ただ単純に動物に似せただけの人形、余談だがサラサの作る人形で動物の形をしているのは数が少ない。理由は人形は人の形で人形だから極力人型すべきとサラサが考えているからだ。

サラサは人形を通してランサーとアーチャーを知り、現在はバーサーカーとの戦いを見ている。

「さすがアーサー王と言った技量ですね。

どう思いますランサー」

「はっ、騎士王なに恥じずその技量は間違いなく超一流でしょう。しかしご命令をあらばかならずやその首級をあげてご覧にいれましょう」

「まあ今は戦闘の時ではないですが私のサーヴァント以外は聖杯の元に行ってももらわないと困りますから戦闘の時には期待します」

「はっ」

ランサーの返事を聞くとサラサは考え始めた。

（そう言えば知名度補正の知名度はどの程度から知名度なんでしょうか？

あれでしょうか？ 名前を知ってそこから入るんでしょうか、

なら今の世の中だと第五次のサーヴァントはすごいですね。

いまだき漫画とかゲームとか小説とかの影響でアーサー王とかヘラクレスとかクーフーリンなんて小学生でも知ってるでしょうし、逆にメディアとか知らないですよ。エミヤなんか未来のですし、それ基準ならうちの陣営もなかなかですね。フランケンシュタインとジャック・ザ・リッパーなら名前は知ってるでしょうし、呂布も知ってるかもしれないですし玉藻の前も九尾なら知ってるでしょうからそれ経由で知ってる可能性がありますね。

まあどこからなのかは分かりませんがはたしてナーサリーライムに知名度補正はあるんでしょうか？

あれば膨大なんですけどね)

そんなどうでもいいことを考えているうちにバーサーカーとの戦いは決着が付きそうだった。

「では行きますか、

ランサーはアーチャーの元へ、

警告をしても攻撃をしてくるようなら仕留めて構いません」

「はっ」

「さてこれは大量の魔力を使うんですけど、

ま、日頃から膨大な魔力を宝石に籠めてますからそれを使えば問題ないんですね。

そのうち研究してみますかね」

サラサは懐から宝石を取り出すと並の魔術師では10人は干からびても足りないほどの魔力が解放された。

「では、転移つと」

サラサが言うとサラサは転移魔術でその場から転移した。

TYPE・MOON編 第十四話 聖杯戦争開始（後書き）

友人にサーヴァントのステータスは魔術師によって多少上下するんだから少しは変えたほうがいいんじゃない？　と言われ確かにと思ったので10月3日までにサーヴァントステータスは微変更します。

「やれ、バーサーカー」

「■■■■——！！」

サラサは転移魔法でセイバーとバーサーカーが戦っている場所の上空に現れるとバーサーカーに命を下しバーサーカーはそれに答え己の武器を振り下ろした。

その場で戦って居たセイバーとバーサーカーは当たる寸前で回避した。

「こんばんは」

自身のバーサーカーが乱入したことで一時的に終わった戦場に重力を加減し舞い降りたサラサはそう言った。

「いきなり乱入するなんてずいぶんじゃない」

イリヤスフィールが言うとサラサは返事を返した。

「それは申し訳ありませんね。

アインツベルンのマスター、しかし私も彼らには用が会ったので、死なれるとこまるんですよ。

申し遅れました私はサラサ・スワツティスと申します」

「あなたがあの」

サラサの名を聞きイリヤが反応を示した。

「ああ、遠坂のマスター、貴方のアーチャーをこの場に何もせず呼んでくれればその首のナイフはどかせましょう」

「……………分かったわ」

今までサラサが呼び出したアサシンがナイフを首当てていたからだ。

しばらくするとランサーと共にアーチャーが現れた。

「さて皆さん貴方達は私に命を握られています」

サラサが言うと同時に指を僅かに動かすとマスター3人の首筋が僅かに切れ血が流れた。

「では改めましてごあいさつを私はサラサ、サラサ・スワッティスと申します」

「サラサ・スワッティス、何でこんな大物が、最悪じゃない」

「知っているのか凜」

「サラサ・スワッティス、名門であり現存する魔術師最古の家系、スワッティス家が生み出した今世紀最高と謳われる魔術師、今世紀最高に恥じることなく僅か8歳の時に時計塔が授ける三原色の内の1つ黄の称号を授かり、10歳で封印指定に指定され、12歳の時に時計塔を制圧し封印指定を解除させた怪物、

最近の噂じゃあすでに根源に到達して魔法使いで有るとか無いとか、

そもそも何でサーヴァントを3体も従えているのよ。イレギュラーすぎ」

「とんだ化け物だな」

「化け物とは心外ですね。」

そもそもサーヴァントを複数従える方法は複数有りますよ。たとえば3度の命令権をもつ令呪を1度の命令権を持つ3つ令呪に独立させるとか、

話しがそれでしたね。閑話休題。

さてここであなたたちを脱落させるのはたやすいんですが、取引をしませんか」

「取引？」

「ええ、あなた方3人の命を助ける代わりに衛宮 士郎貴方の持つもので私が欲しいものがあります。」

それをくれるならこの場は見逃しましょう」

「……分かった。」

ただし殺すなよ」

「ええ」

士郎の返事に満足げにうなずくとサラサは一体の人形を出した。

「激痛が走り、意識を失うかもしれませんが死ぬことも後遺症もないのでご安心を」

「分かった」

士郎が返事をする人形が士郎の腹に手を突っ込んだ。

「がっ」

「シロウ!？」

「ご安心を血も出ませんし傷も残りません。臓器に関しても問題有りません」

少しすると人形が士郎の腹から何かを引き抜いた。

それを見てセイバーが驚愕したがサラサは気にすることなく受け取った。

「なんだそれ？」

士郎が自身の腹からでてきたものを見て言ったのでサラサは答えた。

「これですか？」

これこそ名高きかの騎士王アーサー王の聖剣の鞘ですよ」

「な、何でそんなのが俺の腹の中に？」

「さあ、大方衛宮 切嗣が埋め込んだんでしょう。」

これは第四時時点彼の所有物でしたから」

「爺さんを知ってるのか」

「おや遠坂のマスターから聞いていないんですか？」

ああ、彼女の年齢なら知らないのも無理はないですね。

衛宮 切嗣、狙撃、毒殺、公衆の面前で爆殺、1人の魔術師を殺すために搭乗機の撃墜などをし、魔術師殺しと恐れられた男ですよ。先の聖杯戦争ではアインツベルンのマスターとして参加していました。

そうですね。アインツベルンのマスター」

サラサは言うといリヤの方を見たがいリヤは無言でサラサをにらむだけだった。

イリヤが何も反応しないしているとサラサはまた話し始めた。

「では、約束通り私はこれで、
次は戦場で殺し合いましょう」

言い終わるとサラサは現れた時と同じように転移魔術で消えた。
その後イリヤも興が覚めたと言わんばかりにその場を立ち去り今夜の戦闘は終わりを告げた。

「ふ」

サラサはかけていた眼鏡をはずすと息を吐いた。

「面白かったですね。この本」

読書とは聖杯戦争中に余裕なサラサだった。

「さてさて聖杯戦争もようやく動き出てきたと言ったところですね」

そう言うサラサは現在の情報をまとめた。

「昏睡ね。」

私の薄れた知識と合わせるまでもなく十中八九キャスターの仕業だね。

「確かマスターが魔術師じゃないんだっけ？」

「主」

突如現れたランサーの言いたいことは分かっていたので先にサラサは返答した。

「言いたいことは分かりますが今はダメです。」

聖杯戦争で英霊のクラスだけでは一番厄介なのはキャスターのクラスなんですから」

まあ今回の聖杯戦争は例外だがと心の中で呟きながらサラサは言った。

そもそもキャスターが最弱と言われる理由はサーヴァントが高い対魔力を持っているからだ。

しかしキャスターはどんな魔術を使用するか分かったものではない。対魔力も絶対ではないのだ。サラサの陣営で最も高い対魔力はランサーのBだし、セイバーはセイバーなのにCと低い。

対魔力ランクAも自身のキャスターのようにEXランクの術なら効くだろうし、

呪いの類をかけられれば厄介だ。

サラサは魔術師であるがゆえに魔術師であるキャスターを警戒する。

それに今回のキャスター相手では一時的にでも拘束されれば令呪を奪われる。

厄介極まりない。

まあ全サーヴァントを投入すれば確実に勝てるだろうが手の内は明かしたくない。

そもそもマスターは対魔力無いし、

サラサは魔力を全開にして一時的にならAクラスレベルの対魔を出来るが、

「死者はまだ出ていませんしまだ静観しましょう」

「・・・・・・分かりました」

ランサーが返事をしてしばらくするとキャスターが入ってきた。

「ご主人さまあの女の人の目が覚めましたよ」

「ありがとうございます」

「いえいえ良妻ですから看病も出来るんです。」

「…………ふふふ、ライバルが多いですが正妻の座は必ず」

キヤスターの最後の呟きをスルーするとサラサはバゼットに用意した部屋に向かった。

「久しぶりですね。」

バゼット・フラガ・マクレミツ」

ベットで横たわるバゼットにサラサは話しかけた。

バゼットとサラサはサラサが時計塔を制圧した際に会って居る。

「サラサ・スワッテイス、なぜあなたが」

「私も聖杯戦争に参加しましてね」

「そうですか」

それを聞いたバゼットは内心もう聖杯戦争の勝者は決まったなと思った。

現在魔術師でサーヴァントに勝てる者は殆どいない。

しかしサーヴァント一騎が時計塔を落とせるかと聞かれれば否だ。だが目の前サラサはそれをやってのけた。

しかも切り札を切っていないのを斬り決る戦神の剣が発動しなかったことから知っているのだ。

最近では魔法使いだと言う噂もあることだしサラサなら単独でもサーヴァントを倒せるのではないかとバゼットは思っている。

「何が会ったんです？」

「あなたがそうそう不覚を取るとは思えませんが」
「それは――」

「なるほど監督役が」

バゼットの話を聞いたサラサは原作通りと思いながら言った。

「ええ」

「分かりました。」

まあ思う所はあるでしょうがあなたは聖杯戦争に参加できません。
意外と重傷ですので」

「分かっています。」

それと義手を作ってくださいませんか？

お礼はしますので」

「ああ、そうです。分かりました。」

聖杯戦争が終わったら元の腕と代わり無いのを作ります」

「ありがとうございます」

「いえいえ」

サラサはそう言つとバゼットの寝ている部屋を後にした。

「さてさてイレギュラーは今のところ無しと」

バゼットの話を聞きサラサは今後を考える。

サラサは場合によってはギルガメツシュよりもランサーの方が厄介と感じていた。

ギルガメツシュの宝具は強力だが真名開放が出来ない。常時能力発動タイプの宝具に対魔など相性問題の物を除けば一撃必殺系は無い。

しかしランサーの宝具『刺し穿つ死棘の槍』は一撃必殺系だ。そしてサラサの避けられるほどの幸運と直感スキルを持つサーヴァントは居ないのだ。

ぶっちゃけランサーの性格だから問題ないがランサーがこそこそする性格だったら敵を見つける、すぐには見つからないような距離から宝具で大抵終わりだ。まあそんなこと言ったらギルガメツシュがエアで同じことをした方がえげつないが、

（ランサーの相手はセイバーが良いですかね。

ゲームの復活スキルを蘇生魔術として使えますから一撃受けたところを狙えば勝てるでしょう。

まあ蘇生魔術といってもデフォルトだと命のストックが無いですから並のマスターだと使えないんですよね）

けど武の技量はランサーが上だな〜などと考え、

（ランサーのマスターは言峰綺礼、

言峰綺礼は私がサーヴァントを従えてるのを知っているでしょう。ならランサーへの全てのサーヴァントと戦えただし倒さず帰還せよ的な令呪による命令は継続中、

だったらその令呪が切れる前に潰しましょう）

ランサーの対策はとりあえずそう決めたサラサだった。

TYPE・MOON編 第17話 ランサー

「さて、次はあちらに行きましょうか」
「はい」

サラサはランサーと共に街を歩いていた。
目的はランサーをおびき出すことだ（以後ややこしいのでディルムッドは地の文ではディルムッドと表記）。
やっていることは第四次聖杯戦争でケイネスがやったことと同じだ。

最もランサーが動くのは夕方か夜だろうから今は位置を確認させるだけでいいため普段買い物に行かないサラサは普通に買い物をしているが、

まあ一般人への偽装は完璧だろう。
第三者からは容姿の整った者同士のカップルかどこぞのお嬢様とその従者にしか見えない。

「ん？」
「ああ、久しぶりって言うほどじゃないか」

日が暮れ始めディルムッドから何者かが見ているという指摘を受けたサラサ人の居ない場所に行こうとした所で凜と士郎に出くわし

た。

「!？っ、サラサ・スワッティス」

「ああ、やり合うつもりはありませんよ」

サラサは手を上げひらひらさせながら言った。

「信用しろっての？」

それに対し凜は警戒しながら言ったがサラサは気にもせず言った。

「ええ、状況から考えれば分かるでしょう？」

セイバーは霊体化できない以上あなたたちの戦力はアーチャーのみ、アーチャーとランサーが戦い残るのは私とあなたたち、セイバーを令呪で呼ぶ前に勝敗が決まります。

まあ最速の英霊であるランサーならあるいはアーチャーが実体化する前にあなたたちを消せるかもしれませんが」

サラサは絶対にお前たちは勝てないと告げた。

「……分かったわ。」

聞きたいことがあるんだけど、今起きてる異変は——」

「私ではありませんよ。」

いくら通常以上のサーヴァントを従えているとはいえ自身で魔力が賄えないなら不確定要素が増えますからそんなことなら1騎にします」

「そう」

「ああ、いいことを教えてあげます。」

ガス漏れなどはキヤスター、吸血鬼騒ぎはライダーですよ。

キヤスターは山の寺にライダーのマスターはマキリの人間です」

「!？」

「そうなる当然ライダーを呼びだした可能性が一番高いのは――」

そこまで言うとならサラサは歩き出し凜の隣を通り抜けるとき凜にだけ聞こえるように囁いた。

「――あなたあの妹さんですよ」

「!？」

凜が驚愕と共に振り向いたがサラサは気にもせず去っていった。

「来ます」

「ええ」

凜達と別れ人気のない場所に来ると同時にディルムッドが言った言葉にサラサは同意した。

「よお、お前たちがイレギュラーか？」

「ええ、そう言うことになりますね」

ランサーの問いにサラサはそう返した。

「では始めましょうか、クー・フリーン」

「!？ てめえ何で真名を」

「あなたの前のマスターは顔見知りでしたので保護しています。そこからの情報です」

「……………そうか」

ランサーはサラサの言葉を聞くと僅かに表情を変えた。
おそらくバゼットが生きていることに安堵したのだらうとサラサは推測した。

「バゼットを助けたくれたことには礼を言うが手はぬかねえぞ」

「ええ、無論です」

サラサはそう答えると下がり代わりにディルムッドが前に出た。

「限定・解除、宝具の使用を許可します。

ランサー、全力を持って倒しなさい」

「はっ」

限定、それはサラサが自身の全てのサーヴァントにかけたものだ。
サラサの魔力は膨大だ。七騎のサーヴァントの維持と宝具の使用すら問題ない。

しかし負担が無いわけではない。賢者の石も無限に魔力が生み出されるとは言え一度に生み出される魔力量は決まっている。

賢者の石も合わされば問題なく魔術師として戦闘まで出来るが切り札を使うのは難しい。

そのためにサラサはもしもの時の為にサーヴァントへの魔力供給を抑えることにしたのだ。

今はその抑えていた魔力供給を通常にも戻したのだ。

（さすがはクー・フリーンといったところですか）

ディルムッドのステータスはランサーのステータスを上回っている。

しかしランサーのほうが押されているもののほとんど互角だ。

（回避の速度がほかより速い。

おそらく令呪の命令が「すべてのサーヴァントと戦闘し帰還せよ」てきなもののため令呪も能力を制限していても帰還するために攻撃の回避には補正がかかっているといったところでしょうか）

サラサは目の前で行われているランサーたちの戦闘をそう判断した。

このときサラサのそばには気配遮断スキルを酷使したアサシンがいるため警戒は万全だったりする。

（まあこのままいけば勝ちですね。

けど時間がかかりそうですね）

ランサーはわずかにだが徐々に傷ついていくその傷の中には『必滅の黄薔薇』でつけられたものもあるが最初に『必滅の黄薔薇』を交わしたときにわずかについた傷から『必滅の黄薔薇』の効果を察したらしく『必滅の黄薔薇』を優先的によけているが少しずつではあるが増えていく、

しかし

（令呪が魔力でブーストして終わらせましょうか）

サラサの魔力は膨大だその魔力をサーヴァントに通常以上に注げば一時的にステータスを引き上げることが出来る。

サラサがそんなことを考えているとランサーは距離をとった。

「ちっ、分かってる、つってんだろっが！」

ランサーは距離を取ると架空を睨みながら叫んだ。

「不本意だが引かせて貰うぜ」

「なるほど令呪で命じられていましたか、なら弱体化している今を逃すとても？」

ランサーが心底不本意だと言った表情で言った言葉に対しサラサはそう言った。

サラサは相手が弱っていればチャンスと思うことはあれどのがそのとは思えない。

消せるときにけ消す、それが戦闘でのサラサの考えだ。
しかしここには騎士がいた。

「主、ランサーはこのデイルムツド・オディナが誇りに懸けて討ち果たします。」

ですからどうかランサーとは令呪の縛りがない状態での決着を」

(……さてどうしましょうか、

まあ問題ないですね。

ステータスはこちらが上、もしもの時は過剰魔力によるブーストと令呪のブーストをすればいい)

「分かりました。

行きなさい。ランサー」

「悪いな」

そう言い残すとランサーは消えた。

「さてランサーの能力確認は出来ましたし戻りますよ。ランサー」
「はっ」

（さてさて意外とバーサーカーとギルガメッシュ以外はランサーだけではないかなりそうですね。

キヤスターは厄介とは言えランサーには『破魔の紅薔薇』がありますし、

……『破魔の紅薔薇』が前もって知られるとランサーは当分控えさせますか、ランサーとの戦闘でさらしたのは『必滅の黄薔薇』ですから、今なら真名はばれていないでしょうし、

しばらくはランサーにバゼットの警護でも命じましょう。

……あ、そう言えばセイバーには真名も宝具もばれてますね。まあキヤスターに進んで明かす性格でない以上原作通り囚われてキヤスターが勘づいて聞きださない限りばれないですね。たぶん、

そう言えばアインツベルンは何を思っへラクレスをバーサーカーのクラスで召喚したんでしょう？

ぶっちゃけセイバーとかアーチャーとかランサーとかの方が厄介でしょうに、あのスペックに宝具による防御力と蘇生能力に耐性もあつたんでしたっけ？

まあどっちにしるそれに加えて武の技量が加わったら騎士王どころかギルガメッシュも倒せるかもしれないのに、

ま、そうなると私のサーヴァント達総員しても危ないかもしれないないんで助かるんですけど）

そんなことを考えながらサラサは自身に魔術などの監視が無いことを確認すると拠点に戻って行った。

TYPE・MOON編 第17話 ランサー（後書き）

サーヴァントのステータスはサーヴァント設定に乗っているのを制約時として近々通常時のも追加します。

「ほしいな」

サラサは部屋で唐突に呟く。

「綺麗だったなライダー」

サラサが欲しがっているのは先ほど学校で行われた戦闘を使い魔を通して見ていたさに出てきたライダーだ。

最も欲しいとは言っても別にサラサはライダーに惚れたとかいうのではない。

「あの魔眼、綺麗だったな」

そうサラサが欲しいのはライダーはライダーでもライダーの目、魔眼だ。

サラサは人形ほどではないが綺麗なものや芸術が好きだ。だからどこの世界でも宝石や芸術品を集めている。

そんなサラサの触手にライダーの魔眼は触れたのだ。

「けどどうしましょう。」

英霊は霊体、目を抉って目だけ第三魔法で具現化しましょうか」

えぐいことを言っているがこの男は綺麗な顔して緋の目欲しさにクルタを虐殺しているのでやると言ったらやるだろう。

事実今も本気でライダーの魔眼を手に入れる方法を考えている。

「無理やり奪って眼に傷が付いたら嫌ですし、
……魔導書を奪ってもあれは仮のマスターになるだけ、
それに詳細を知りませんし、命令が出来ても眼を抉らせるなんて命
令絶対に抵抗するでしょうし」

サーヴァントドールが完成すれば問題ないがまかり間違つてあの
眼が曇っても困るのだ。

大聖杯汚染されているのでその影響が出無いとも限らない。

「最善は間桐 桜から令呪を奪い本来のマスターになること。
そうすれば令呪＋本来のマスターのパスからの魔術をかけられる。
しかし私はマキリの人間に例外を除けば害を与えることはできな
い。

さて、どうしましょう」

サラサはしばし色々なパターンを考え、1つの方法を思いついた。

「……桜の体のことを衛宮 士郎と遠坂 凛に話して間桐
臓硯を始末させましょう。

腕は良いのに甘い魔術師で桜の姉の凛と正義の味方を目指す少年
士郎なら桜を助けるために臓硯と戦うでしょう。

……あれ？ 腕が良いのに甘い魔術師とか正義の味方を
目指す少年と違って口に出すとなんか悲しくなるし不安になる言葉
ですね。

失敗する気がしてきました。

大丈夫ですよ？

まあ普通の際は凛と士郎の二人では臓硯の相手なんて無理でしょう
けど今の2人にはサーヴァントが居ますから問題ないですね。

……土郎あたりは臓硯すら殺すのを躊躇しそうですけど
凜は確実に殺すでしょう。

臓硯が死ねば桜を殺して令呪を奪うもよし取引をしてライダーを得るのもよし、取引は魔眼を貰う代わりに他の目を提供し桜の体をおすとも言えばライダーは応じるでしょうし、

2人が臓硯を殺す過程で桜に何かあつて死んでも前もって偽臣の書を持つておけば仮でも本来のマスターが死ねば仮のマスターしか残らないんですから殆ど本来のマスターと変わらないから問題ないでしょう、出来れば遺体から令呪だけ回収できればなおいいです。マスターの命令+出来れば令呪、+魔術による拘束+サーヴァントによる拘束なら綺麗に決れるでしょう」

サラサはうんと満足げに笑顔を浮かべた。

「いや、救われない桜を救おうなんてオリ主らしいですね」

救われないヒロインを救う、言うて居ることはいいことかもしれないが自分の欲望しかないサラサだった。

「それに失敗したら魔眼は曇らないことを祈りサーヴァントドールを作つてそれ経由で手に入ればいいわけですから私のデメリットは少ない」

本当にすばらしいとサラサは呟いた。

「では、準備を初めておきましようか、英霊エミヤなら1つぐらい臓硯を完璧に殺せる宝具を持つてそうですけどもしもないと困りますから。

桜の体云々はともかく臓硯は核に『ルールブレイカー』を刺せば消せそうですけどね。

エミヤなら第五次聖杯戦争を経験しているんですから『ルールブレイカー』は投影出来るんでしょうけど出来ないと困りますし、それに『ルールブレイカー』で無理な可能性もありますからね。だから臓硯を殺せる道具の準備を家に何かいいのありませんでしたっけ？

作るのは面倒ですからね〜」

そう言うところサラサは考えたことを実行すべく動き始めた。

「やあお帰り」

士郎と凜が学校から衛宮邸に帰るとそこにはお茶を飲んでいるサラサが居た。

「「！？」」

「シロウ下がつて！」

サラサを見た士郎と凜は驚愕しセイバーが2人の前に出たがそれに対してサラサが言った。

「まあまあ座りなよ。」

あと状況の確認を進めるよ」

「！？」」

凜が首に違和感を感じるとサラサの言葉と共に実体化したアサシンが首にナイフを当てていた。

「……また私は人質ってわけ？」

「よかったですね。」

人質にされるなんてヒロインポジションですよ」

「よかったな凜、ヒロインだそうだぞ」

「うっさい！」

いつの間に実体化したアーチャーの言葉に凜が突っ込んだ。

「で、私の話を聞きませんか？」

あなたたちに利があるかは分かりませんがここで聞かないで後から知ると聞かなかったことを死ぬほど後悔することだけは保障しますよ」

「へー、そんなこといい切れるんだ」

凜が挑発的に言い返してきたのに対してサラサは笑みを浮かべ言った。

「ええ、あなたの妹が今どんな目に会って居るかですから」

「——っ、

なんであんたあの子のこと！」

「さあ？ で、聞きますか？ 聞きませんか？」

「……聞いわ」

（なんでさ）

凜が聞くといい元々戦いたくはない士郎もそれに従い話を聞くことになったのだがその結果異様な空間が出来あがった。

まず士郎の隣には殺気を振りまきながらサラサを睨んでいる凜と素ました顔で座っているセイバー、その対面にいるのは殺気を向けられているのにこにこしているサラサとその膝の上に座り頭をなでられ顔を赤く染めているアサシン、

アーチャーは霊体化している。

（逃げたな）

「では話を始める前に、良いんですか？」

そう言うサラサは士郎に視線を向けた。

士郎は凜に妹が居ることを知らなかった。

だからサラサは士郎が居る所で話していいのかと問うたのだ。それを察した士郎は凜に行った。

「なあ遠坂、俺席を外した方がいいんじゃない？」

「必要ないわ衛宮君、

衛宮君も聞いた方がいい話なんじゃない？」

そうじゃなきゃ衛宮君の居ないと時に接触してきたでしょうし」

「ええ、

では話しましょう。

まずライダーのマスターは間桐 慎二じゃありませんよ」

「偽臣の書ね」

「ええ、本来のマスターは間桐 桜、あなたの妹ですよ」

「……………」

「……………ってなんでさ！

桜がマスター？ それに遠坂の妹ってどういうことだよ！」

「簡単に話すと御三家が1、間桐家は魔術師が居なくなると思われ

たので同じ御三家の遠坂家から養子をもらったんですよ。

その子が桜と言う子です」

「………本当なのか遠坂？」

「ええ、桜は第四次聖杯戦争前に間桐家に養子に出されたわ」

「では間桐家で間桐 桜に与えられた役割と魔術の教育方法はご存知ですか？」

「魔術を受け継ぐことですよ。後半は知らないけど」

凜が何を当り前なといった風に言うがサラサは別のこともいった。

「ええ、それもありますけど第一目的は次世代の間桐の為の母体です。」

教育方法はそのための間桐の蟲による訓練、

そのために幼少のときから蟲に体を犯されてますよ彼女」

サラサが言った瞬間士郎と凜、セイバー、アーチャーが息をのみ静まりかえった。

「………今なんて言ったの？」

「ですから第一目的は次世代の為の母体、教育内容は蟲による訓練、姉妹で有りながらあなたよりも圧倒的に女性的な体つきをしているのは幼いころから性行為をしているために女性ホルモンがそれだけ分泌されたんでしょう」

「ふざけんな！ そんなこと許されるのか！」

士郎が怒りのあまり立ち上がり叫んだがサラサは涼しい顔で言う。

「まあ人間的にはどうかと思わなくてもないですけど魔術師的にはありませんね。」

血族を残し、魔術を次世代へ繋げればなりませんから、

それは遠坂 凜も理解しているでしょう」

「・・・・・・そうね。」

で、何であんたはそんなことを知ってて私達に教えたのかしら？」

「知っているのは私は第四次聖杯戦争を見物していたかその過程で面白そうな事、気になったことを調べた過程で知ったんですよ

教えて上げたのは今だけあなたたちに来ることがあるからですよ」

「なんですって？」

「間桐家当主間桐 臓硯、戸籍上は間桐 桜達の祖父となっていていますが事實は違います。」

本名マキリ・ゾオルケン、500年以上生きた化け物であり令呪のシステムを発案した人物でもある者ですよ。

そんな人物に勝ちあなたたちは間桐 桜を救うことが出来ますか？
答えは否です。

しかし今のあなたたちにはあなたたちの人生で最高の戦力がある状態といっても良い」

「・・・・・・サーヴァント」

「はい。」

2 騎のサーヴァントでかかれば殺せると思いますよ。
ついでにこれを上げます」

いうとサラサは短剣を机に置いた。

「・・・・・・これは？」

「間桐 臓硯は人をやめた人外、その正体は蟲の集合体のようなものです。」

核である蟲を潰さなければなりません。

それは予防策です。核に突き刺せば間違いなく間桐 臓硯を殺すことが出来ますよ。

セイバーはともかくアーチャーには隠し玉が多そうですけど一応

ですよ」

「……………対価は何かしら」

「ありませんよ。」

しいて言えば間桐 臓硯を殺していただくことで」

（ま、私の掌で踊ってもらうんですからそのぐらいはただで上げますよ）

「そう、じゃあ貰っておくわ」

「ええどうぞ、では私は失礼しますね」

サラサはそう言つと立ち上がり衛宮邸を去った。

TYPE - MOON 編 第19話 取引

「間桐 臓硯、いえマキリ・ゾオルケン、
流石は500年生きていると言ったところでしょうか予想以上で
すね」

サラサは盗み見ていた臓硯と士郎たちの戦いをそう評価した。
結果は臓硯の死、
これは予想通りで会ったが過程が違った。

サラサとの取引によって若き日の肉体と同等の体を得た臓硯は凄
まじかった。

大量の蟲を操り自身も俊敏に動く、背から蟲の羽を生やし空を飛
ぶと規定外だった。

最後はアーチャーが固有結界を使い「臓硯、蟲の貯蔵は十分か」
とかい、倒した。

しかしその前に凜は蟲に腹を貫かれ士郎は片腕を切断されている。
……なんであの二人は前線に出てきたんでしょう。

まあ間桐 桜が心配だったんでしょうけど足手まといでしたね。
それにしてもアーチャーVS臓硯、

似ていますよね2人、

正義の味方を目指し英霊となり摩擦したアーチャー、
世界平和を求め長い時を生きたが故願いが歪み不老不死を求めた
臓硯、

（似てますね。

なんか戦ってる最中に通じ合ってる感じでしたし）

今は臓硯を殺し桜の元に行ったのですが臓硯が死んだことで蟲が暴れているらしくぐったりしていて衛宮　士郎が支えている。

そして桜が蟲に体を犯され汚れた私なんて生きてる意味ないんですとかいい士郎がそんなことない！　とかいってラブコメしてる。

（あの空気の中に入るのは嫌ですけど仕方がないですね）

「ではライダー、最後の確認をします。

私が間桐　桜の体を助ける。あなたは魔眼を差し出す。よろしいですか？」

「はい」

サラサは自身の後方で事のなりゆきを見ていたライダーに問いかけた。

ライダーは衛宮邸を後にしたサラサが慎二を襲い確保したのだ。魔術師ですらない慎二をくだすことはサラサには造作もないことであつたためすぐに終わり偽臣の書を奪いライダーと取引をしたのだ。

「では行きましょうか」

「こんばんは、救出おめでとうございます」

「またあなた？　何の用よ」

「いえ、私はこちらのライダーと取引をしまして、間桐　桜を助けに来たんですよ」

「なんですって！？」

「というわけでどいてください」

いうとサラサは凜の前を通り抜け桜の前に立った。

「というわけで助けてあげます。

感謝はしないでいいですよ。

対価はライダーから頂きますから」

サラサはいうとどこからともかく心臓らしきものを取り出した。

「な、なあなんだそれ？」

いきなり心臓らしきものを取り出したサラサに若干ひきながら士郎が聞いた。

「ああ、これですか、

間桐 桜の心臓は色々と問題になっているのでこれと帰るんですよ。

そうしないと蟲を何とかしても死にますから」

いうとサラサはそのまま桜に手を伸ばし魔術で眠らせると服を脱がせ胸を切り裂いた。

それを見た瞬間士郎達が動こうとしたがセイバーとアーチャーはライダーと実体化したバーサーカーに取り押さえられ士郎と凜はサラサの魔術で拘束された。

その間にサラサは目にもとまらない速さで心臓を入れ替え魔術で蟲を殺した。

「はい、終わり」

「はや!？」

心臓の移植にも関わらずものの5分で終わらせたサラサに土郎が突っ込んだがそれはサラサに取っては当然だ。

サラサはこの世界最高と称してもいいほどの魔術師でありこの世界で最も人体にくわしく、最も人間を弄くったことのある人間なのだ。

それにサラサの糸を扱う技術が合わされば心臓移植程度すぐに終わる。

使われた糸も精神感应性金属だし、

「ではライダー対価を」

「分かりました」

ライダーはいうと眼帯を外しサラサの前に膝まずきサラサはそのライダーに手を伸ばすと服の袖から精神感应性金属が糸状に伸びライダーの眼へと延びて行き眼を傷つけず中に入っていくと綺麗に決りだした。

サラサはそれを取り出した容器に入れた。

「………なっ………」

「では、対価は貰いました。」

その目は一応見えるように代わりを上げましょう」

「いえ、結構です。」

私はこのまま聖杯戦争から脱落します」

それを聞いたサラサは首をかしげながら聞いた。

「なぜ？」

「ハッキリ言って私があなたのサーバント達に勝つのは不可能でしょう、」

その上あなたは必要なら自身が救った私のマスターである桜も敵とするでしょう」

「なるほど、では間桐　桜があなたの意思を捻じ曲げられないようにしてあげます」

サラサはいうと糸状の精神感应性金属で桜の令呪の死点を突き殺した。

「では、さようならライダー、
残された時間でマスターとの別れをどうぞ」

いうとサラサは消えた。

「眼、眼、ライダーの魔眼」

拠点に戻ったライダーは容器の中で浮いているライダーの魔眼を自身の宝物を眺める少女のような眼で見つめていた。

「ああ、本当にいい取引でした。

たかが小娘一人助けるだけでこんなに綺麗で高性能な魔眼が得られるなんて、

日ごろの行いでしょうか？」

そう言つとサラサは魔眼を『人形師の蔵』にしまい聖杯戦争に考えを移した。

「聖杯戦争もそろそろ終わりですね。

てか、終わらせましょう。

早くサーヴァントドールが作りたいですし、

とりあえずキャスターからですかね？」

キャスターだとランサーと相性がいいですからね。

アサシンもバーサーカーで圧倒すればいいし、

・・・・・・サーヴァント7騎いらなかったかも、

あ、士郎と凜の治療はついでおきましたよ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8134n/>

最高の人形師と人形遣いの才を持つ者は世界を廻る（タイトルは仮です）

2011年12月24日01時43分発行